

○インフルエンザバチルレン染色法

膿様痰ヨリ「デックグラスプレート」ヲ製シ「チール氏石炭酸フクシ
ン溶液内ニ十乃至二十分間放置シ洗滌乾燥ノ後「カナダバルサム」ヲ以テ
之ヲ封ス

○實扶的里バチルレン染色法

義膜ノ下面ヨリ小片ヲ取り「デックグラスプレート」ヲ製シ「レッフ
レル氏メチーレン青溶液」ヲ以テ五乃至十分間染色スベシ又「グラム氏法
ニ由リ染色ス

○ペスト菌検査法

腺腫ヲ穿刺セシ採取シタル組織液(末期ニ至リテ腺腫化膿スルトキハ「ペ
スト菌」ヲ認ムルコト稀レナリ)膿胞及癰ノ組織及組織液「ペスト」ノ略
痰、扁桃腺、眼結膜ノ分泌物、血液(初期ニハ稀レナリ)屍體ニアリテ
ハ脾「肺下墜液」等ヨリ法ノ如ク標本ヲ製シ普通「アニリン色素」就中「リ
レル氏メチーレン」ブドウ液ニテ着色スベシ

尙之ヲ確定センニハ次デ培養及動物試験ヲ行ハザルベカラズ培養ニハ普
通寒天斜面培養基及二乃至三%食鹽ヲ含有スル寒天斜面培養基ヲ用ユ甲
ハ本菌正常ノ發育状態ヲ示シ且ツ動物試験材料ヲ作り乙ハ食鹽過量ノ爲
メニ生ズル本菌ノ特異ナル變形態ヲ示ス
動物試験トシテハ南京鼠「モルモット」等ニ諸般ノ接種法ヲ行ヒ以テ特
異ノ病的變化ヲ檢ス

○回歸熱螺旋狀菌染色法

發熱發作間ニ指頭ヨリ血液ヲ取り之レヲ檢スルナリ
之ヲ染色セント欲スルトキハ左法ヲ用ユ

(第一)五%醋酸(十秒間洗滌)

(第二)強アンモニア液(醋酸ヲ取り「プレート」ノ表面ヲ下方
ニ向ケ數秒間アンモニア液ノ上方ニ保持ス)

(第三)アニリン水溶液(ニテ染色)

(第四)水(ニテ洗ヒ)

(第五)吸墨紙(ニテ乾シ)

(第六)カナダバルサム(ニテ封ス)

グラーム氏法ニ由リ脱色ス

○釀膿菌及丹毒菌ノ染色法

ゲンチアナピオレット」ノ水溶液ヲ以テ染色ス又グラーム氏法ヲ用ユルヲ可トス

○痲病球菌染色法

(甲) オプエクトグラス」ニ膿ヲ薄ク塗り乾燥固定シ半分間レッツフレル氏メチーレン」青液ニテ染メ水ニテ洗ヒ吸墨紙ニテ水ヲ去リ火焰上ニテ乾シ十分乾キタルトキハ「デックグラス」ヲ用井ズ油浸鏡檢ス
或ハ

- (乙) 一、エオヂンアルコホル飽和液、加温三分
- 二、吸墨紙ニテエオヂンヲ吸ヒ取り直チニ
- 三、メチーレン青アルコホル飽和液(十五秒)
- 四、水洗

(丙) 石炭酸フクシン液ヲ二分間作用セシメ水ニテ洗滌鏡檢ス

○スピロヘーテバルリダノ染色法

ギームザ氏法黴毒性患部ヲ消毒シ刀ニテ輕ク其ノ表面ヲ磨擦其ノ液ヲ載物硝子上ニ落シ塗り乾燥ノ後「キームザ」染色液ヲ滴ラシ火焰ニテ温ムル一數回一時間ヲ經テ水ニテ洗ヒ鏡見ス可シ

墨汁法
検査液ヲ一二滴ノ水ニテ稀釋シ更ニ其ノ一分ヲ第二ノ載物硝子ニ移シ之ニ一小滴ノ墨汁ヲ加ヘ攪拌シ淡褐色ヲ呈スルノ後空氣中ニ放置シ自然ニ乾燥スルヲ待チ鏡檢ス可シ

○「ミクロスポーロン、フルフル」ノ検査法

此菌ヲ檢スルニハ爪甲若クハ刀ヲ以テ患部ノ皮膚ヲ輕ク摩擦シ落屑ヲ生セシメ之ヲ取りテ載物硝子上ニ置キ一滴ノ「カリ滷汁」ヲ加ヘ十分乃至十五分時ノ後即チ表皮細胞ノ膨脹透明トナルヲ待チテ之ヲ檢スベシ○又タ小斑點部ヲ十%ノ「カリ滷液」ニテ拭ヒ暫ラクシテ軟化シタル表層ヲ板匙ヲ以テ抓取シ三百五十倍ニ増大スレバ屈曲分枝シタル菌纖維及光線ヲ屈折スル芽胞ノ葡萄狀ニ集簇スルヲ見ル

○シエンライン氏アヒョリオンノ検査法

此寄生菌ハ非常ニ多數ニ存在スルモノニシテ白癬小甲二十%カリ液ヲ加ヘテ鏡檢スレバ本菌ヲ見ルベシ○又タ水或ハ少許ノ「アンモニア」ヲ含メル「アルコホル」ヲ以テ片塊ヲ潤シ「グリセリン」ヲ用井テ檢スベシ

○「トリヒョヒートン、トンズランス」ノ検査法

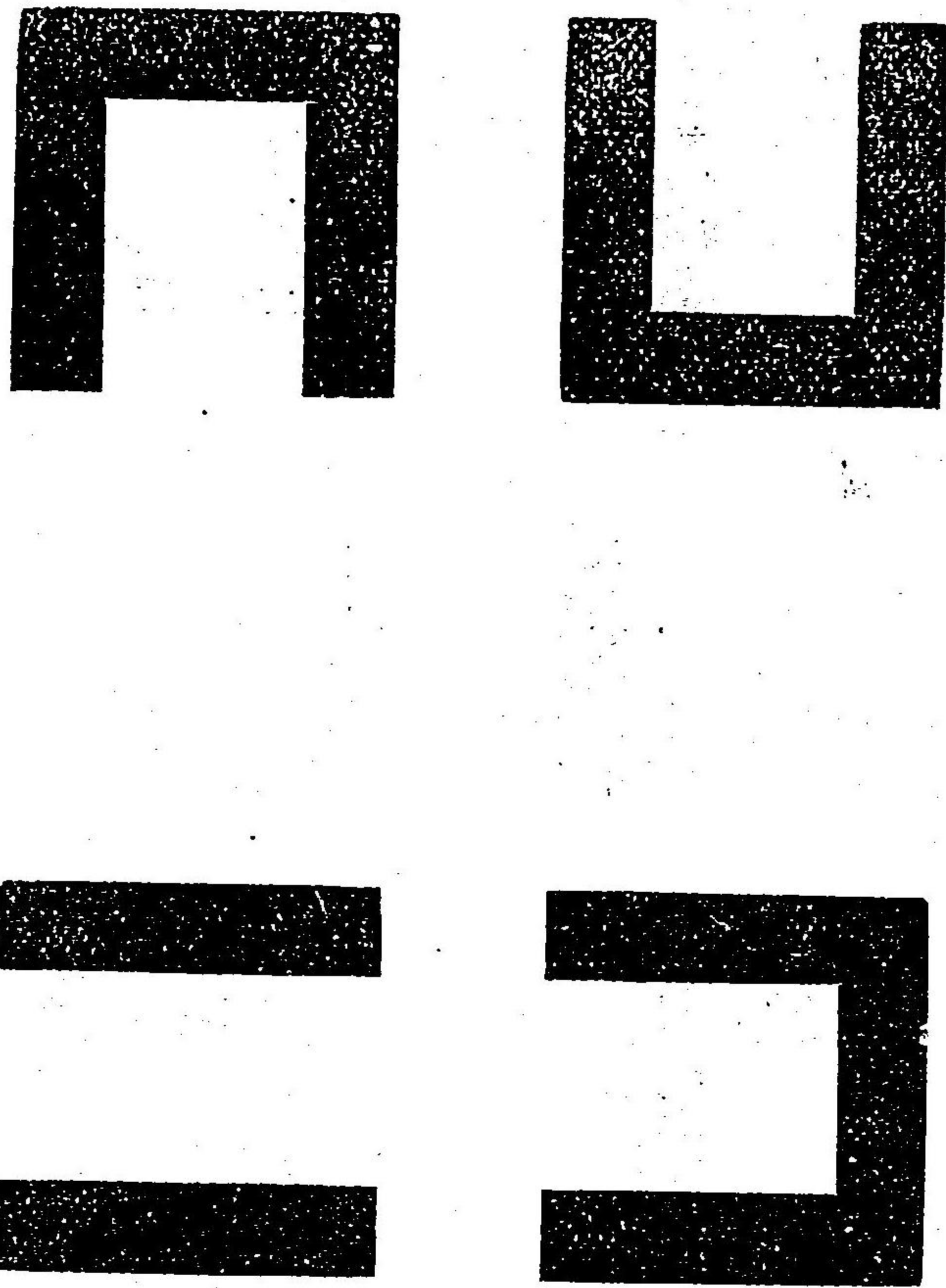
一毛ヲ抜キ「カリ滷汁若クハ「グリセリン」ヲ加ヘ又タ少シク醋酸ヲ加ヘ鏡檢スベシ

○第十四章 視機検査法

第一 視力検査

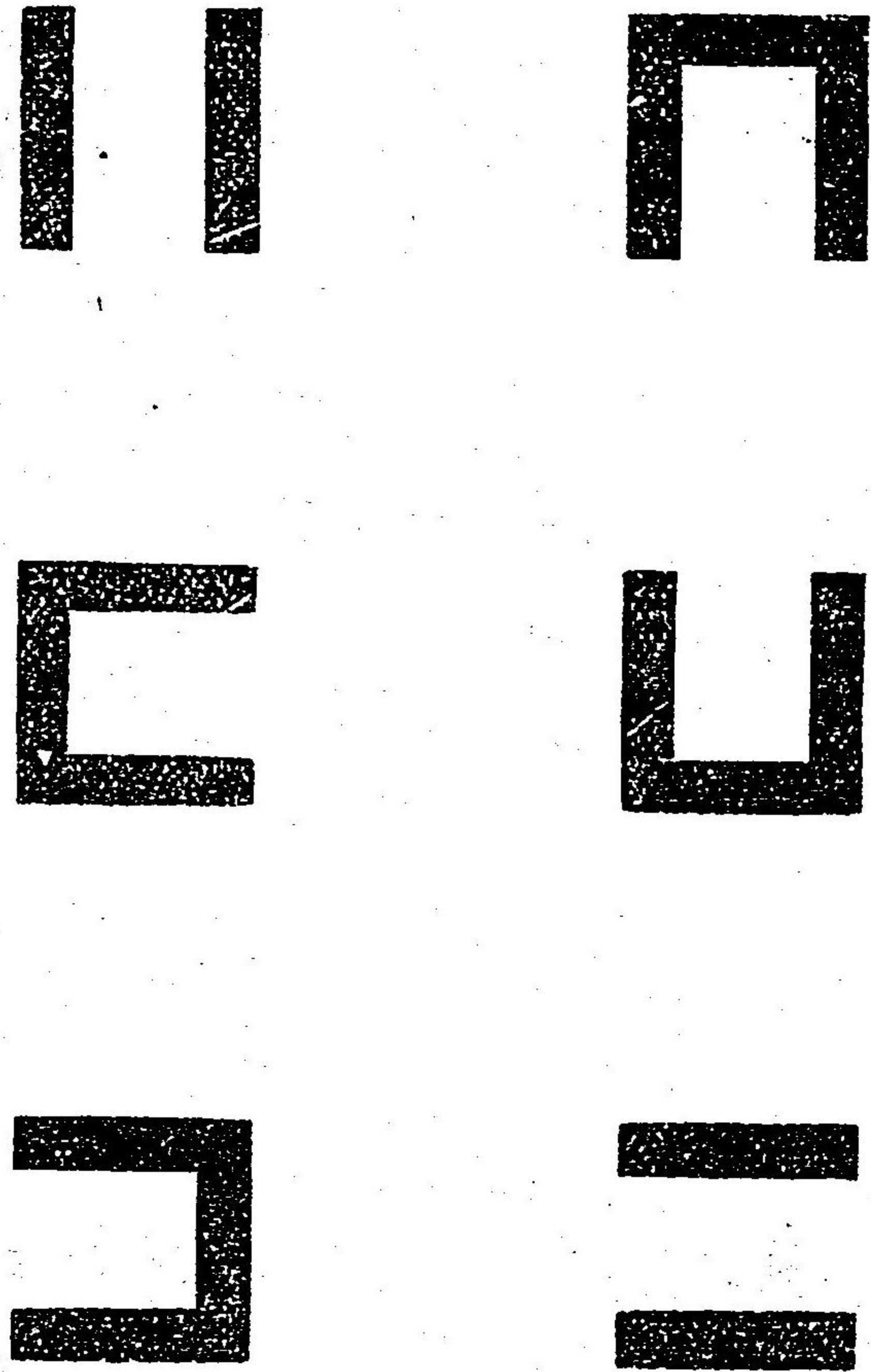
ス子ルレン氏表ヲ壁ニ懸ケ壁ヨリ二十フート（六メートル）ノ距離ニ被檢人ヲ置キ醫師ハ表ノ傍ニ在リテ最モ大ナル圖ヨリ最モ少ナル圖ニ至ルマデ漸次之レヲ指シ四角形ノ内、ドノ線ガ缺ケテアルカヲ問フベシ（兩眼視力ヲ檢シタル後ハ輕ク片眼ヲ蔽ハシメ各眼ニ就キ其視力ヲ檢スベシ

第七十九號 第十號



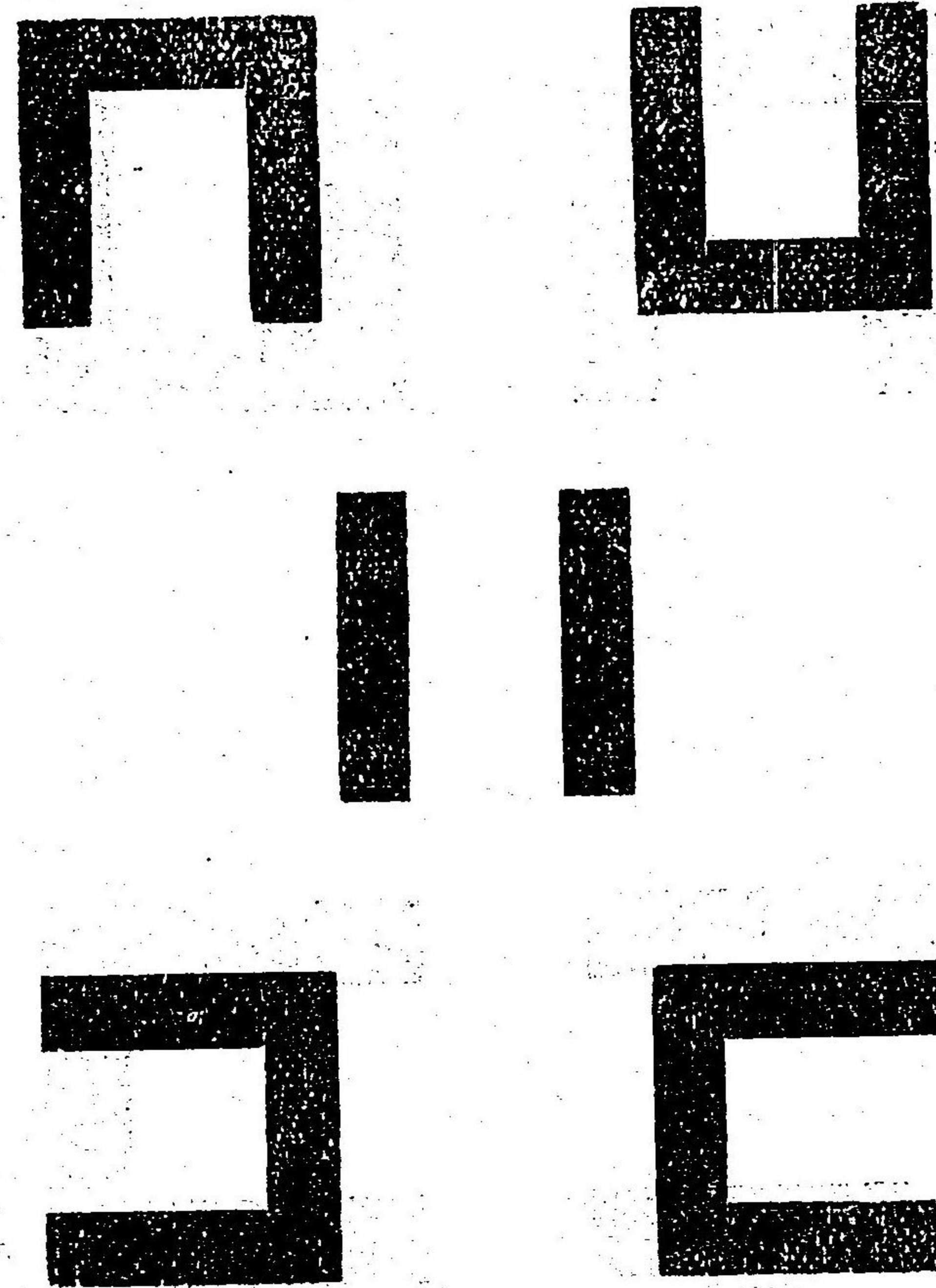
ス子ルレン氏表

第八十一圖
第三十號



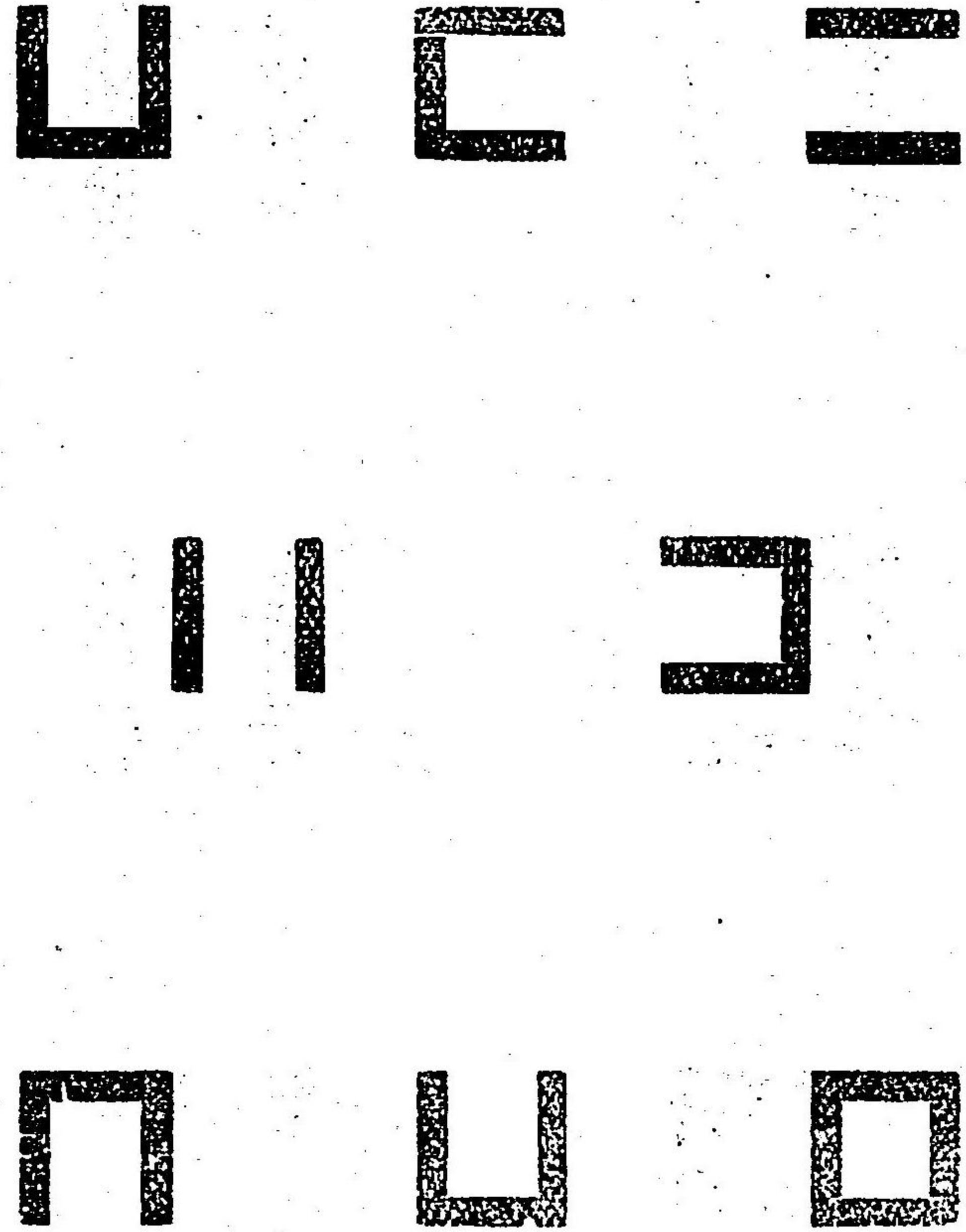
ス子ルン氏表

第八十圖
第四十號



ス子ルン氏表

第八十二號 圖



ス子ルン氏表

シ)

(1)「二十フィート」ノ距離ニ於テ第二十號ヲ明視スルモノハ視力健全ナリ舊式ヲ用ユレバ二十分ノ二十ニシテ新式ナレバ凡テ分子ハ距離ニシテ分母ハ表中ノ號數ナリ、

視力 $\frac{\text{メヤマノ氏表ノ號數}}{\text{メヤマノ氏表ノ號數}}$

(2)「二十フィート」ノ距離ニ於テ四十號ヲ明視スル者ハ視力四十分ノ二十即チ二分ノ一ナリ

第二 光神(光覺力)検査

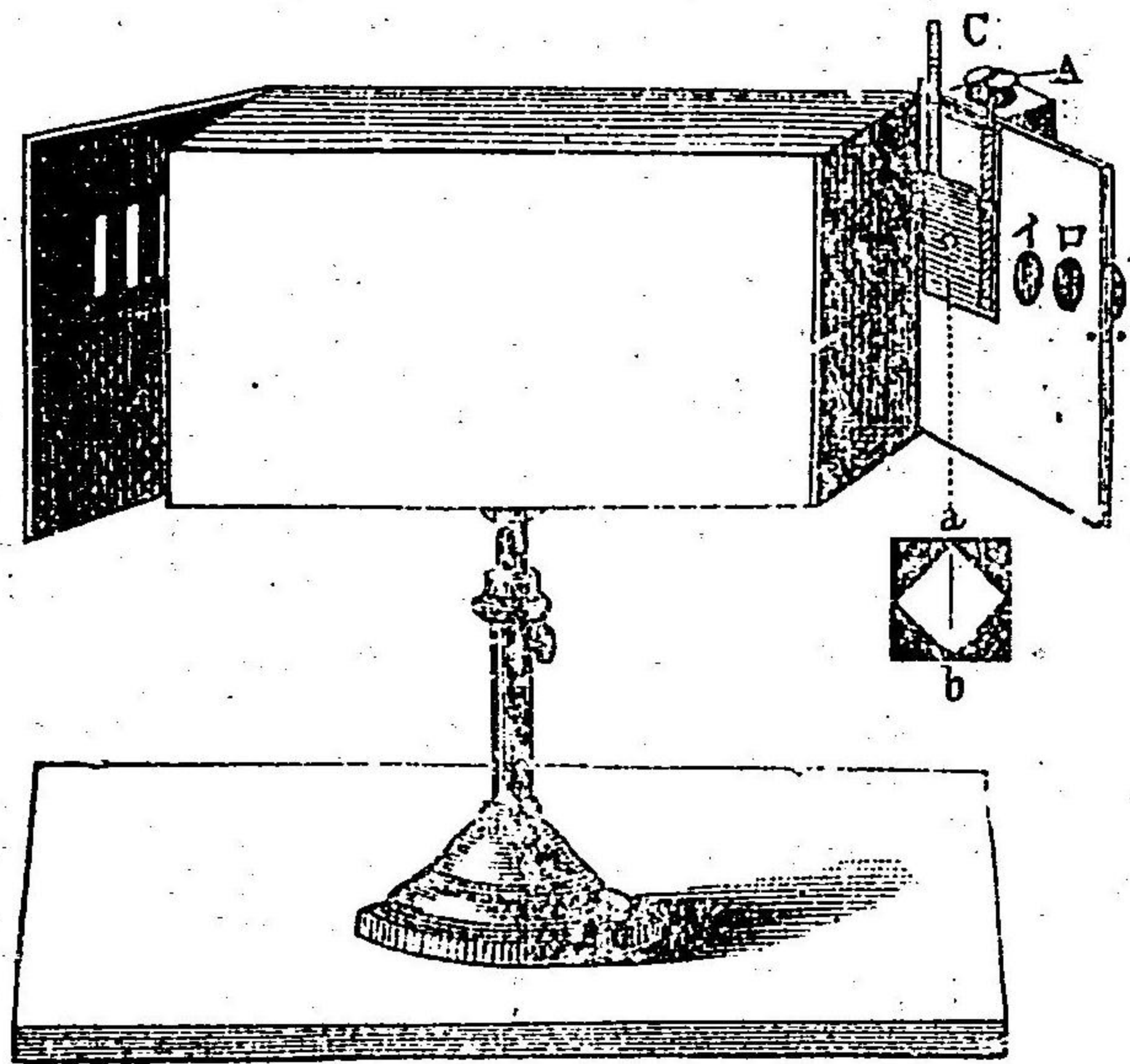
光神ト視力トハ似テ非ナルモノナリ之ヲ検査スルニハ通常フヨルステル氏光神計ヲ用ユ此器ハ長方形ノ木函ニシテ内面ヲ黒塗シ函内ヲ窺フニ(イ)(ロ)ナル兩孔ヲ設ケ其對壁ニ黒白兩線ヲ劃セル紙ヲ貼シ(イ)(ロ)ノ兩孔ヨリ各眼別々ニ之ヲ窺視セシメ(A)ナル螺旋裝置ヲ以テ角窓ヲ開縮セシメテ燭光ヲ加減シ僅カニ對壁ノ黒白兩線ヲ辨知シ得ルヲ以テ度ト爲ス今角窓ノ縱徑(a)(b)ヲ測計桿(C)ニ由テ知レバ角窓幅員ハ $\frac{(b)}{(a)}$ ナ

リ而シテ之ヨリ出ヅル數ヲ八密迷平方ト假定シ健眼ハ普通ニ二密迷平方マ
テ辨知シ得ルトセバ其光覺力ハ $\frac{2}{8}$ ナリ
本検査ハ常ニ暗室内ニテ之ヲ行フベシ若シ明處ヨリ來リタルモノハ検査
前十分間眼ヲ閉シテ網膜ヲシテ應調セシメザルベカラズ

第三 視野測定

視野（或ハ視界又ハ周邊視力）トハ黄斑部以外ノ網膜ノ視力ヲ謂フモノ
ニシテ健體ニ於テ外方最モ廣クシテ凡ソ九十度内方六十度上方五十五度
下方六十五度ヲ算ス然レモ病的ニハ之ガ種々ニ變化ヲ來スモノナリ例之
ハ周圍ヨリ均シク縮小ヲ來スアリ（同心性狹縮）又周圍ノ一方ヨリ截痕
狀ニ欠損ヲ來スアリ或ハ視野ノ全半欠損スルアリ（半盲性視野欠損）其
他又視野ノ一部斑點狀ニ欠損スルアリ之ヲ暗點ト云フ健體ニ於テ視野ノ
外方大凡十五度ノ所ニ生理的暗點アリ之ハ視神經乳頭ニ相當スル所ニシ
テ之ヲマリオット氏暗點ト云フ
之ノ視野ヲ測定スルニ種々ノ方法アリ最モ簡單ナルハ檢者ト患者ト近ク
且正シク相對坐シテ中央ニ一指ヲ置キ之ヲ着視セシメツ、他ノ一手ヲ動
シテ上下左右ヨリ之ガ廣狹ヲ知ル尙一層精密ナル測定ヲ遂ケントセハ視

第八十三圖



フヨルステル氏光神計

界計ヲ用ユ之ニシワイゲル氏手用視野計トフヨルステル氏ノ視野計アリ
共ニ半環狀ニノ前者ハ患者ノ手ニ持タシメ後者ハ一ノ台上ニ固定シテ患
者ノ顛ヲ支持台上ニ置キ他眼ハ閉チ檢眼ヲ恰モ半環ノ正中即チ零度ヲ着
視セシメ環ヲ上下左右ニ廻轉シテ此ノ環ニ沿ヘル、檢査子ヲ移動シテ其
視得ル限リノ最外點ヲ求メ之ヲ視野表ノ當該徑線上ニ記入シ各點ヲ傳ヘ
テ線ヲ劃スル片ハ即チ視野ノ廣狹ヲ知ル其他板狀視野計アリ又視力甚シ
ク減弱シタルモノ例之ハ白內障患者ノ如キハ暗室ニ於テ燭光ヲ以テ畧ボ
其廣狹ヲ知ル色神視野ノ測定モ診斷上必要ナルヲアリ之ニハ有色ノ檢査
子ヲ用井其方法前述ノ法ニ同シ

第四 色盲檢査

眼ニハ色彩ヲ辨識スル力アリ之ヲ辨色カト云フ此力ノ缺クルヲ色盲ト云
フ色盲ニ先天性ト後天性トアリ先天性色盲ハ一名ダルトン氏病ト云フ後
天性ノモノハ視神經網膜ノ疾病又ヒステリーニ來ルヲアリ此色盲ノ類別
ハ色感學說ノ異ナルニ從テ同カラス

ヨンク、ヘルムホルツ兩氏ノ假說ニ色ニハ種々アルモ赤綠紫ノ三原色ヨ
リ吾人ノ網膜ニモ此三原色ニ應スル甲乙丙三ツノ纖維アリテ甲ハ原赤色

ニ由リ最モ強ク乙ハ原綠色ニ丙ハ原紫色ニ由リ最モ強ク刺戟セラレ或ハ
赤色或ハ綠色或ハ紫色ヲ感ス又三纖維一樣ニ刺戟セラレハ白色トナリ
テ現ハル依テ此纖維ノ欠乏ニ從テ赤色盲綠色盲紫色盲ヲ來スト云フ
ヘーリング氏ノ假說ハ最モ世ニ行ハル、說ニシテ赤綠青黃ノ原色アリ前
後ノ二色ハ互ニ補色ヲナス又吾人網膜ニハ甲乙丙ノ化學的的特異ノ視質ア
リ此ノ生滅ニ由リ色ヲ生ス即チ甲質ハ赤ノ爲ニ滅シ綠ノ爲ニ生ス乙質ハ
青ノ爲ニ滅シ黃ノ爲ニ生ス丙質ハ黑白ノ爲ニ生滅ス今甲質缺如セバ赤綠
色盲乙質缺如セバ青黃色盲ヲナス以上二種ヲ不全色盲トナス甲乙二質缺
如セハ全色盲ト云フ

檢査法ハ最モ普通ナルハホルムグレン氏ノ色糸檢査法ナリ之ハ六十乃
至七十種ノ色糸ヨリ一糸ヲ取り患者ヲシテ之ト同色ニ感スルモノヲ選
出セシムルニ色盲アレバ他色ノ糸ヲ以テ之ニ應ス例之ハ綠色ニ應ズル
ニ灰白色或ハ赤色ヲ以テスルハ即赤綠色トナリ又紫ニ應スルニ紫又ハ青
ヲ以テスルハ赤色盲ナリ青色ヲ綠トシ黃色ト赤ト誤ラハ此レ黃青色盲ナ
リ蓋シ此ノ種ハ甚々稀ナリ全色盲ハ諸色ノ別只黑白明暗ニ止ル
其他ダーエ氏色彩表八十種ノ異色ナル糸ヲ地平ニ排列シ同一ナル色ヲ

云ハシムスチルリング氏ノモノハ地紙ト文字トノ色ヲ補色ニ染メ出シタル故ニ色盲者ハ此文字ヲ讀ムヲ能ハズ
其他マイエル氏薄紙試験表プリューゲル氏色彩表アリ最モ確ナルハ其スベクトルムヲ健眼ノスベクトルムト對比スルニアリ

○第十五章 眼鏡ノ度、近視遠視ノ度及眼鏡選定法

眼鏡ノ度ヲ記スルニ新式及舊式在リ

(甲)舊式ハ燒距一「ツオル」ノ者ヲ一位トシ之ヲ一番ト稱スニ番ハ燒距二「ツオル」ニシテ其屈折力ハ $\frac{1}{2}$ ナリ三番ハ燒距三「ツオル」ニシテ屈折力ハ $\frac{1}{3}$ ナリ而シテ普通ハ八十番(燒距八十ツオル屈折力 $\frac{1}{80}$)ヲ最モ弱キモノトス

(乙)新式ハ燒距一迷即チ一〇〇仙迷ノ者ヲ一位トシテ之ヲ一D、(H. Diopter) 一曲光力或ハH.O)ト稱ス一Dニ二倍三倍……ノ屈折力ヲ有スルモノヲ二D、三D、……ト稱ス二D以上ノ燒距ヲ知ルノ方ハ一〇〇、仙迷ヲ其Dノ數ニテ除スベシ例令バ二Dノ燒距ハ $\frac{100}{2}$ 即チ五十仙迷ナリ

注意新式ノ一Dハ舊式ノ一〇ナリ
新式ノD數ニテ除スレバ
舊式ノ番號ヲ得

故ニ四十ナル數ヲ
舊式ノ番號ニテ除スレバ
新式ノD數ヲ得

例令バ二Dハ $\frac{100}{2}$ 即チ二十番ナリ〇二十番ハ $\frac{100}{20}$ 即チ二Dナリ
新舊比較表

舊式	= 80	
0.5	= 60	
0.75	= 40	
1.0	= 30	
1.25	= 24	
1.5	= 22	
1.75	= 20	
2.0	= 16	
2.6	= 13	
3.0	= 11	
3.5	= 10	
4.0	= 9	
4.5	= 8	$\frac{1}{2}$
5.0	= 6	$\frac{1}{2}$
6.0	= 5	$\frac{1}{2}$
7.0	= 5	$\frac{1}{2}$
8.0	= 4	$\frac{1}{2}$
9.0	= 4	$\frac{1}{2}$
10.0	= 3	$\frac{1}{2}$
11.0	= 3	$\frac{1}{2}$
12.0	= 3	$\frac{1}{2}$
13.0	= 3	$\frac{1}{2}$
15.0	= 2	$\frac{3}{4}$
20.0	= 2	$\frac{1}{2}$
30.0	= 1	$\frac{1}{2}$
40.0	= 1	$\frac{1}{2}$

遠視ノ度ヲ定ムル法スチルレン氏試視力表ヲ二十「フット」ニ置キ最大視力ヲ與フル凸鏡ヲ求メ其中最モ強度ノ者ヲ適度トス例之バ三D、四D、五D共皆視力20ヲ出シ之レヨリ上リテ視力却テ損セバ五D即チ適度ノ凸鏡ナリ而シテ其燒距ハ「三」ニ二十仙迷ナレバ眼ノ遠點ハ二十仙迷（八ツオル）後方ニアルヲ知ルナリ

近視眼

- (1) 弱度ノ近視（二D以下）ニハ遠用トシテ矯正眼鏡ヲ與フ近用ニハ眼鏡ヲ用井ズ
- (2) 中度ノ近視（二乃至六D）ニハ遠用トシテ矯正眼鏡近用トシテ弱度ノ眼鏡ヲ與フ（即チ就業距離十一「ツ」オル「ナルトキハ矯正眼鏡ノ度ヨリ「一」若シ十六「ツ」オル「ナルトキハ「一」ヲ減シタル者）然レドモ如此ナルトキハ遠近ヲ見ルニ毎回眼鏡ヲ交換スルノ不便アルヲ以テ遠近兩用トシテ矯正眼鏡ヨリ一、二Dヲ減ジタル者ヲ與フ
- (3) 強度ノ近視（六D以上）ニハ近用眼鏡ヲ常用セシメ遠望ノ際ニハ矯正眼鏡（ロルチツト）ヲ可トス）ヲ加フ例令バ八Dノ近視ナレバ五Dヲ常用トシ二Dヲ矯正眼鏡トス

遠視眼

- (1) 遠視者眼精疲勞ヲ訴フル者ニハ先ヅ遠視ノ度ヲ定メ其矯正眼鏡ヲ與

ヘ暫時使用セシメテ（例令バ讀書）疲勞去ラザレバ眼鏡ノ度強キモノヲ漸々ニ與ヘテ全ク疲勞ナキニ至ルベシ而シテ其最後ノ度ヲ適度トナス

- (2) 真正遠視 ハ遠望モ亦不明ナルガ故ニ遠用近用共ニ眼鏡ヲ與ヘ毎回之ヲ交換スルヲ要ス交換ノ繁ヲ除クニハ遠用眼鏡ヲ常用トシ近業ヲ執ルニ當リテ補正眼鏡（ロルチツト）ヲ加フベシ

- (3) 老視眼 ニハ十二ツオル即チ三十仙迷ノ距離ニ於テ細字ヲ了視シ得ベキ凸鏡ヲ檢出ス今通常年齢ト其適度凸鏡トヲ示セバ左表ノ如シ

年 齡	眼 鏡 度	
	舊	新
45	+ $\frac{1}{80}$	+ 0,5D
50	+ $\frac{1}{40}$	+ 1D
60	+ $\frac{1}{20}$	+ 2D
70	+ $\frac{1}{12}$	+ 3D
80	+ $\frac{1}{10}$	+ 4D
90	+ $\frac{1}{8}$	+ 5D

近視ニシテ老視ヲ合併スルトキハ近用トシテ凸鏡ヲ與フルコトアルモ其度正視ニ於ケルヨリモ弱ナリ近視一D即チ $\frac{1}{10}$ ノ患者六十歳ナルトキハ一Dノ凸鏡ヲ要スルガ如シ、遠視眼ニ老視ヲ合併スルトキハ其近用凸鏡ノ度ハ遠視ノ度ニ正視者ノ老視ニ要スル度ヲ加ヘタルモノナリ例令バ五十歳ノ遠視患者ニシテ遠視二Dナルトキハ之ニ正視者ノ五十年ノ度一D(老視參照)ヲ加ヘ $\frac{1}{10}$ 即チ三Dノ凸鏡ヲ與フ

亂視眼

近眼或ハ遠視ヲ兼ヌル患者ニハ先ツ適當ノ眼鏡ヲ以テ之レヲ矯正シ而後凹或ハ凸圓柱鏡ヲ採リテ度ヲ畫シタル枠ニ箝入シ徐ニ回轉スヘシ患者最大視力ヲ得ルトキニ當リ枠ニ就キテ軸ノ方向ヲ定メ其經線ノ方向ト度トヲ知悉スベシ

(一)單性亂視 ニハ凹面若ハ凸面柱鏡ヲ處ス

(二)複性亂視 ニハ凹面或ハ凸面球面鏡ニ更ニ圓柱鏡ヲ加フベシ

例令バ凹面二D 兼凹面圓柱鏡一D 軸七十五度洋式($-2DsO-1Dc$)

(三)雜性亂視 ニハ複雙圓柱鏡ヲ與フ

例令ハ甲主經線ハ近視二Dニシテ乙主經線ハ遠視三Dナラバ二D凹

面圓柱鏡ト三Dノ凸面圓柱鏡ノ軸ヲ九十度ニ交叉シテ相合セル者即チ眼鏡ノ一面ハ圓柱狀ニ凸曲シ一面ハ圓柱狀ニ凹曲シテ軸ノ相直角セル者ヲ用ユ洋法略式($-2Dc_1+3Dc_2$)
或ハ甲主經線ニハ二Dノ凹球面「レンズ」ヲ裝置シテ主經線ニ對シテハ三Dノ凸圓柱鏡ヲ用ユ($-2Ds_1+3Dc_2$)

第十六章 血液検査法

検査ニ用ユベキ血液ヲ採取スルニハ豫メ指頭若クハ耳垂ヲ清洗シ乾燥セル後鋭刀尖若クハ鋭鍼ヲ以テ深ク穿刺シ自然ニ湧出セル第一ノ血滴ハ之ヲ拭ヒ去リ第二以下ノ血滴ヲ以テ検査ノ目的ニ使用ス血液採取ノ時期ハ毎食ノ中間時ヲ良シトス食後直ニ行フヲ嫌フ之レ食後ニ於テハ血液成分ノ變常ヲ來セバナリ

血液検査上注意スベキハ

- (1) 血液ノ肉眼的検査
- (2) 新鮮血液ノ顯微鏡検査
- (3) 血球ノ計算
- (4) 血色素含量ノ檢定

(5) 染色血液標本ノ調製及ヒ其ノ顯微鏡検査
此外血液ノ反應、比重、乾燥容積分光鏡検査等ノ檢定ヲ要スルコトアレドモ其ハ成書ニ譲リ之ヲ略ス

○第一 血液ノ肉眼的検査

肉眼的ニハ血液ノ色澤ヲ鑑識スルヲ要ス即チ健康ナル人ノ血液ハ鮮紅色ヲ呈スルモ病的ニ在リテハ其紅色ノ度減少シ透明水様ニマデ變化スルニ至ル

○第二 新鮮血液ノ顯微鏡的検査

少シク加温(人ノ體温ニ適セル位ノ度ニ)セル「チプエクトグラス」ニ血滴ヲ取り之ニ注意シテ「デツクグラス」(同ジク加温セル)ヲ接着シ其乾燥スルヲ豫防センガ爲メ「ワゼリン」ヲ其周縁ニ塗布シ通例廓大ノ弱キ顯微鏡下ニ於テ之ヲ檢ス此際注意スヘキハ次ノ如シ

(1) 赤血球ノ形狀 健康ナル人ノ赤血球ハ圓板狀ニシテ中央兩面ヨリ凹陷ヲ呈ス此形狀ハ諸種ノ重症貧血ニ在リテ變形ヲ來シ或ハ棍狀トナリ或ハ楔狀ビスケット狀或ハ腎臟形トナル (Poikilocyret)

(2) 赤血球ノ大サ赤血球ハ白血球ト異リテ其大サ通例一樣ナルモノニシテ平均「ミクロン」ノ直徑ヲ有シ同一ノ人ニ在リテハ其大サ均一ナリトス然ルニ重症貧血患者ノ血液ニ在リテハ異常ニ其大サノ大小ヲ呈シ所謂「ミクロチーテン」 Mikrocysten, ノ種類ニ在リテハ通例ノ赤血球ノ半バニ達スルニ過ギザルアリ又之ニ反シテ「マクロチーテン」 Macrocyten ニ至リテハ 10-12 ミクロン或ハ其以上ノ直徑ニ達スルコトアリ

注意 赤血球ノ大サヲ精確ニ測定スルニハ接眼鏡ニ「ミクロメーター」ヲ附着セシメテ計算スルモノニシテ此ノ際ノ尺度ノ單位ハ「ミクロン」ニシテ十分ノ一密迷ナリトス

(3) 縞錢狀排列 健康ナル赤血球ハ縞錢狀 (Geldrollenartig) ニ排列スルモノナレドモ惡性貧血其他ノ重症貧血ニハ此排列ヲ認ムルヲ能ハザルニ至ル

(4) 赤血球ノ色 健康ナル赤血球ノ色ハ帶紅黃色ナレドモ萎黃病其他「ヘモグロビン」ノ減損スル疾患ニハ帶青白色トナル

(5) 白血球 其大サ種々ニシテ「ハイパー」ミクロン」ノ直徑ヲ有ス細胞

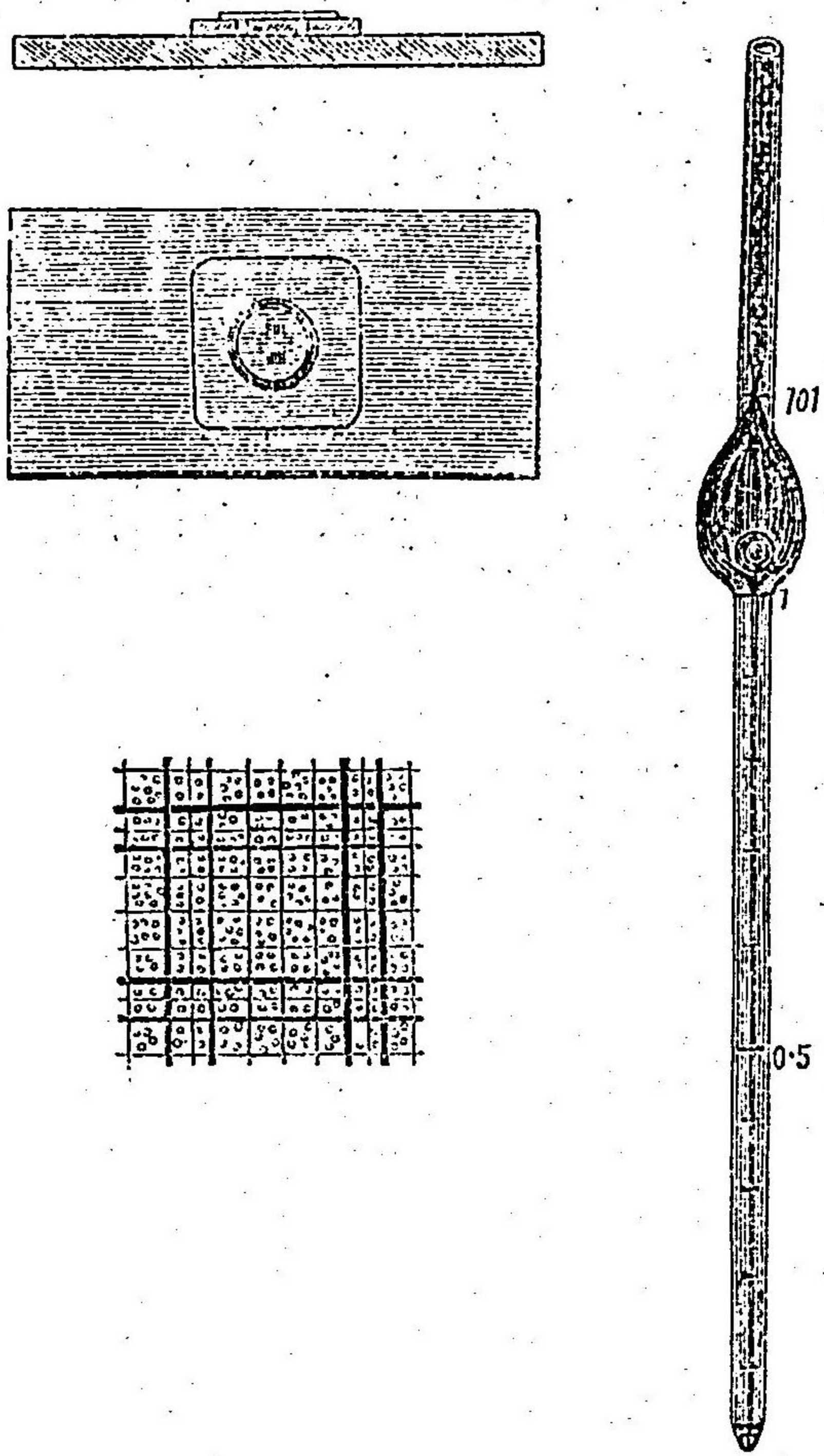
體內ニハ多數ノ顆粒ヲ顯ハシ一個若クハ數個ノ核ヲ認ムルコトヲ得ベシ而シテ健康ナル人ノ血液ニ於テハ赤血球三百ニ付白血球一ノ比例ニシテツァイス氏Dノ顯微鏡下ニテハ一視野ニ白血球三乃至五箇ヲ見出スニ過ギズ然ルニ一定ノ疾病ニ有リテハ其數増加シ來ルモノニシテ甚シク白血球増加(白血球ト赤血球ノ比一ト五十乃至一二至ルアリ)スルハ白血病ニ見ル所ニシテ少シク白血球ノ増加(白血球一二付赤血球百前後)スルハ所謂白血球增多症(Lenkiscytosä)ト稱セラル

○第三 血球ノ計算

(1) 赤血球ノ計算

此目的ニハトーマ、ツァイス氏ノ計算器ヲ用ユ此器ハ一ノ膨大部ヲ有ス硝子製毛細管ト計算室トヨリナル(硝子製毛細管ハ即チ血液ヲ吸收シ適度ニ稀釋スルノ用ニ供スルモノニシテ其毛細管ニハ十箇ノ割度ヲ示シ之ニ0.5及1.0ノ數字ヲ二箇所ニ記入セリ尙之ニ膨大部ヲ界シテ10.0ノ數字ヲ記入ス又膨出部内ニハ血液混和ヲ催進セシメンガ

第 八 十 四 圖



爲メ小硝子球ヲ具備セリ、計算室ハ〇一密迷ノ深サヲ有シ其底面ハ顯微鏡下ニ看取スベキ平方ニ區分セラレ其平方ノ面積ハ各四千部ノ一平方密迷ニ該當ス

今此計算器ヲ用井テ血球ヲ計算セント欲セバ毛細管ノ〇.5或ハ1.0ノ符號(血液ヲ〇.5マデ取レバ200倍又1.0マデ取レバ100倍ノ稀釋トナル)マテ血液ヲ吸引シ次デ其管ノ尖端ニ附着セル過剩ノ血液ヲ濾紙ニテ除去シ次ニ豫メ作り置キタル稀釋液ヲ1.0符號マデ吸收シ(是迄ノ處作ハ可成手早ク行フヲ可トス)能ク振盪混和シ次デ計算室ニ其混和液ヲ移スベシ而シテ其上ニ「デツクグラスヲ接着セシム此際計算室内ニ氣泡ノ生ゼザル様注意スベシ如此シテ鏡檢ノ準備成ラバツアイス氏接眼鏡 H.D. 若クハライツ氏接眼鏡六號ヲ用ヒ計算室ノ中央ヲ鏡下ニ致シ可成多數ノ平方内ニ存スル血球數ノ平均數ヲ算出スベシ、其一平方内ニ存スル血球ノ數ヨリ一立方密迷内ノ血球數ヲ計算センニハ次ノ如クスヘシ

血液ノ稀釋二百倍ナラバ	200,000	ヲ乘スヘク
百倍ナラバ	400,000	ヲ乘セヨ

血液稀釋液 ハ種々アリ或ハ生理的食鹽水ヲ用ヒ或ハ

昇汞 0.5 硫酸ナトリウム 5.0

食鹽 1.0 餾水 200.0 (ハイエム液)ヲ用ヒ

或ハ次ノ液ヲ用ユ之ニテハ白血球着色スルガ故一見之ヲ識別シ得テ便ナリ

餾水 160.0 グリセリン 30.0

硫酸ナトリウム 8.0 食鹽 1.0

メチール紫 0.025 (トアソン氏液)

赤血球ノ數ハ健態ニテハ男子ハ一立方密迷中ニ五百萬女子ハ四百五十萬ヲ有ス諸種ノ貧血、白血病等ノ重症ニテハ其數著シク減少ス

(2) 白血球ノ計算

此法ハ赤血球ノ計算ト同様ナリ只白血球ハ其數少ナキガ故ニ稀釋ヲ弱ク(通例十倍乃至二十倍ニ稀釋ス)セザルベカラズ之カ爲メ通例他ノ毛細管ヲ用ユ即チ十倍マテ稀釋シ得ルモノヲ使用ス而シテ白血球ノ計算ニ際シテ用ユル稀釋液ハ或ハトアソン氏液ヲ用ヒ或ハ生理的食鹽水ニ「メチール紫ヲ加ヘシ者ヲ用ヒ或ハ赤血球ヲ破壊シテ白

血球ヲ見易カラシムル爲メニ〇.〇〇%ノ醋酸液ヲ以テ稀釋スルノ法ヲ取ルコトアリ

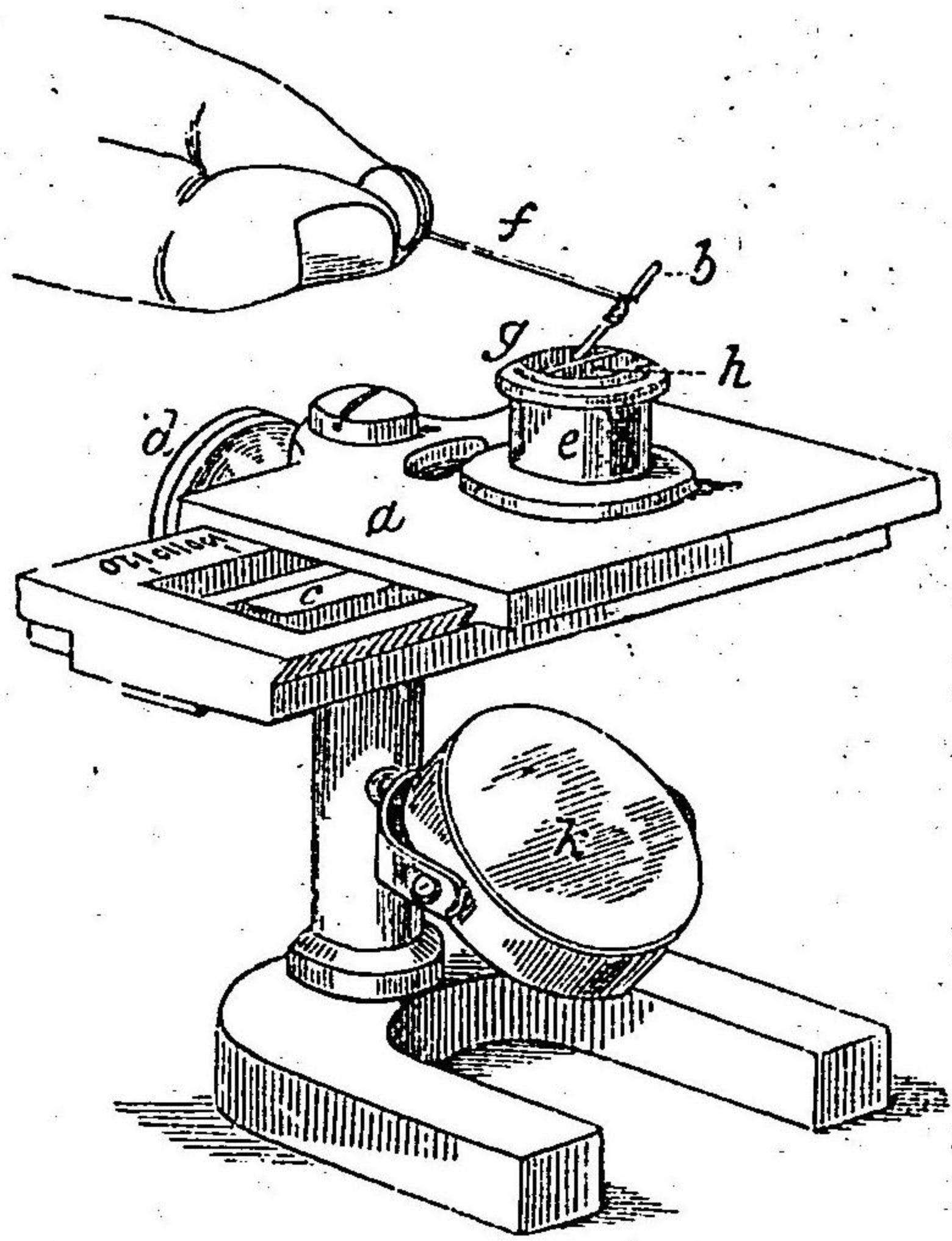
白血球ノ數ハ健態ニ在リテハ一立方密迷中五千乃至八千ヲ算ス

○第四 血色素含量ノ檢定

ガワ―氏血色素計 指頭ヲ消毒穿刺シC管内ニ迄血液ヲ取り少量ノ水ヲ入レタル管ニ移シ更ニa管ヨリ水ヲ加ヘaト同色トナルニ至ル例令バ100ニテ同色ナレバ正常 50ナレハ50%ハフライシエル氏器 水ニ溶解セル血液ノ色ヲ紅色ノ硝子楔ト比較スルモノニシテ血液ヲ一定容ノ毛細管ニ採リ二ツニ區分セル色子底ヲ有スル圓筒ノ一半ニ於テ水ニ溶解シ他ノ一半ハ單ニ水ヲ充シ之ヲ暗室ニテ石油燈ノ光ヲ該圓筒ノ下方ニ裝置セル義布斯板ヨリ受ケシメテ上方ヨリモ伺ヒ着色セル硝子楔(之レニ水ニテ充セル圓筒半側ニ該當ス)ヲ螺旋ニヨリテ左右ニ移動セシメ其色彩ト水ニ溶解セル血液ノ色ト相一致スル所ヲ求メ側方ノ劃度ニヨリテ血色素ノ百分比ヲ得ベシ

○第五 血液染色標本ノ調製及其顯微鏡檢査

第 八 十 五 圖



血液ノ染色標本ヲ作り之ヲ検査センニハ先ツ血液乾燥標本ヲ作り之ヲ固定シ染色セザルベカラズ

(1) 乾燥標本ノ製法

先ツ二枚ノ清淨ナル載物硝子ヲ取り其各ヲ左右ノ手ニ一個ツ、保持シ右手ノ「デツキグラス」ノ中央ヲ新ニ湧出セル血液小滴ニ接觸セシメテ血液ノ小量ヲ附着セシム次ニ右手ノ「デツキグラス」ノ血液附着面ヲ以テ左手ノ「デツキグラス」面ヲ覆ヒ血液ヲ兩板間ニ自然ニ擴延セシム血液ガ擴延シ終リシ瞬間ニ兩板ヲ左右ニ引放ツベシカクテ二枚ノ血液標本ヲ得ベシ

注意 「デツキグラス」ヲ取扱フニハ酒精ニテ能ク清洗脱脂スルヲ要ス然ラザレバ手指ニテ「デツキグラス」ヲ汚染シテ不可ナリ

上述ノ如クニシテ得タル標本ヲ氣中ニテ乾燥セシメ次デ固定法ヲ行フ

(2) 血液標本固定法

之ニハ或ハ乾熱殺菌裝置内ニ於テ或ハ銅板上ニ置キテ 110—120°Cノ熱ニ當ラシムルコト半乃至一時間ニシテ之ヲ取り出シ冷却スルヲ待ツ最モ簡便ニシテ速成ナルハ無水酒精或ハ無水酒精及ビ「エーテル」ノ等分ナル混合液ニ五分乃至二十分浸漬固定スルノ法ナリトス

(3) 乾燥血液標本染色法

血液標本ノ染色ニハ單純ノ染色ヨリハ好ンデ複染法ヲ用ユ此目的ニ用ユル染色法ハ種々アリ通例臨床上ニ使用スルハ次ノ如シ

第一法 H₂O₂エオジン酒精溶液ニ五分間浸漬シ之ヲ洗ヒ去リ次デ

レフレル氏メチーレン靑液ニ短時間複染シ標本ガ肉眼ニテ紫色ヲ呈スルニ至ルヲ度トシテ清水ニテ洗ヒ乾燥シ「バルザム」ニテ固封シ鏡檢スベシ

第二法 チエンチンスキー氏法

メチーレンブラウ飽和水溶液 2—3分

二百倍エオジン酒精(70%モノ)溶液 1分

蒸餾水 2分

右使用ニ臨ミ調製シ凡ソ五分時間作用セシム

第三法 ウイツレブランド氏法

エオジン 0.5

稀酒精 (70%)

メチーレンブラウ濃水溶液 各 25.0

稀醋酸 (1%)

10-15滴

右使用ニ臨ミ濾過シテ用ユベシ

此液ニヨルトキハ核ハ暗青色ニ赤血球ハ紅色ニ中性顆粒ハ紫色ニ染色スベシ

第四法 ロマノースキー、チーマン氏法(改良)

第一液 メチレンブラウ

1.0

硼砂

2.5

餾水

100.0

第二液

エオジン

0.1

餾水

100.0

右第一ト第二トヲ1:1ノ割合ニ混ジ時計皿ニ盛リテ五分間作用セシメ後濃青紫色ニ染色セシ標本ヲ取り出シ稀醋酸(極メテ稀キモノ)ニ浸シテ標本ノ赤色トナルマデ脱色シ次デ洗滌乾燥シ「バルサム」ニテ固封ス

第五法 エールリヒ氏三酸液

之ハグリユブレル會社ニテ製造セラレシ者ヲ以テ十五分間染色ス

レバ美麗ナル染色標本ヲ得ベシ核ハ帶綠青色ニ「エオジン嗜好細胞ハ紅色ニ赤血球ハ橙黄色ヲ呈ス

第六法 エオジン、ヘマトキシリン後染法

之レハ「ヘマトキシリン」ニテ染色シ次デ「エオジン」ニテ染色スルモ可ナレドエールリヒ氏ハ次ノ處方ニテ混合液ヲ作レリ

結晶エオジン

0.5

ヘマトキシリン

2.0

無水酒精

各100.0

餾水

各100.0

グリセリン

10.0

明礬

過剰ニ加フ

右ニ半乃至一時間浸漬作用セシム

此液ハ核ノ染色著明ナリ顆粒ノ染色ニハ不適當ナレトモ永久標本トシテ保存シ得ルノ利アリ

(4) 顯微鏡検査

染色標本ニ就キテ顯微鏡検査ニ際シ注意スベキハ次ノ如シ

(1)白血球

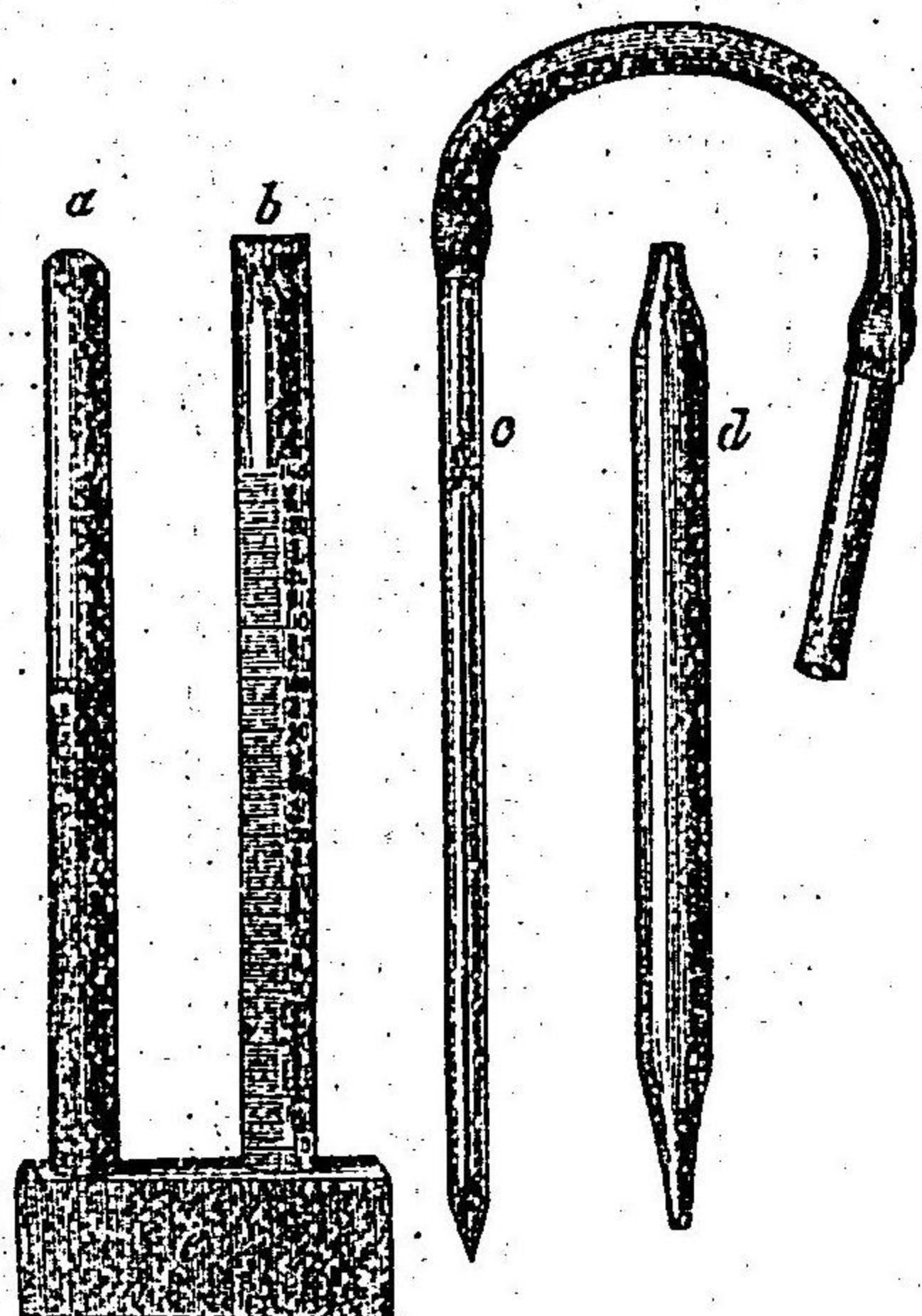
- ㉑ 淋巴球 其大サ小ニシテ核ハ比較的大ニシテ濃染シ原形質ハ極メテ狭シ此種ハ健態ニテハ 22-25%ヲ含ム
- ㉒ 大單核白血球 之ハ赤血球ヨリ二三倍大ニシテ核ハ橢圓形ニシテ大多クハ中心ヨリ偏シテ位シ染色淡ナルヲ常トス原形質モ比較的豊富ニシテ顆粒ヲ有セス此種ハ約 1%ヲ含ム
- ㉓ 移行性細胞 前者ト相似タレドモ核ハ分裂セントスルカ如クニシテ馬蹄形ヲ呈シ原形質ニハ稀數ノ中性顆粒ヲ具有ス之ハ 10-14%ガ正常ナリ
- ㉔ 多核並ニ多形中性白血球 前者ヨリハ稍小ニシテ數個ノ核ヲ有スルカ或ハ不規則ニ分裂セル核ヲ有シ原形質ニハ中性顆粒ノ多數ヲ具有ス之ハ約 70%ヲ含ム
- ㉕ エオジン嗜好細胞 之ハ前者ト相似タレド其特有ナルハ粗大ナル「エオジン」ニ強ク着色スル顆粒ヲ有ス之ハ健態ニテハ 1-4%ナリ

- ㉖ 肥胖細胞 核ハ多形ニシテ原形質内ノ顆粒ハ粗大ニシテ鹽基性アニン色素(メチレン青メチル紫ノ如キ)ニ着色スル特性アリ之ハ健態ニハ極メテ稀ニ顯ハル
- 以上ハ健態ニ呈ハル、モノニシテ病的狀態ニノミ呈ハル、ハ次ノ如シ
- ㉗ 單核中性細胞又ハ骨髓細胞 之ハ大ナル細胞ニシテ核モ大ニシテ弱染性ニシテ原形質ハ中性顆粒ヲ有ス
- ㉘ 單核エオジン嗜好細胞又ハ「エオジン嗜好骨髓細胞」之ハ其形前者ノ如クニシテ只顆粒粗大ニシテ「エオジン」ニヨリテ強ク染色サルルヲ異トス
- ㉙ 中性假性小淋巴細胞小ナル單核細胞ニシテ核ハ強ク染色シ原形質ニ中性顆粒ヲ有スルモノナリ

(2)赤血球

赤血球ニシテ其形ノ異常ニ大小ヲ呈ハスハ前ニモ述べシ所ナルモ其外有核赤血球アリ之ハ即チ赤血球ニシテ一個若クハ數個ノ核ヲ具有スルモノニシテ其大サ赤血球ト同等ナルヲ「ノルモプラステ

第八十六圖
ガワ氏血色素



a 1%血液標準液
b 血液稀釋管
c 血液吸採管
d 常水吸採管

ン (Narmoblasten) ト稱シ赤血球ニ對シ二三倍大ナル者ヲ「メガロ
 プラステン」 (Megaloblasten) ト名ク

(5) マラリヤ寄生蟲検査
 血液中ノ「マラリア寄生蟲ヲ檢出スルノ法ハ發作ノ起ル前數時間ニ
 (此時期ニ寄生蟲ハ最モ大ナリ) 耳垂ニ刺傷ヲ作ル小血滴ヲ「デツキ
 グラス」ニ着ケ薄ク之ヲ「チアブエクトグラス」トノ間ニ擴延セシメテ
 得タル標本ヲ強キ廓大力ノ鏡下ニテ検査スベシ
 或ハ又前記ノ法ニ從テ血液乾燥標本ヲ作り固定シ染色鏡檢スルモ可
 ナリ而シテ検査ノ目的ニハ血液標本染色法中ノ第四法若クハ第一法
 ヲ應用スベシ然レバ寄生蟲ト白血球核トハ青色ニ染ミ赤血球ハ紅色
 ニ染ムベシ

○第十七章 三輪博士ノ年齢鑑定法

生體死體ノ別ナク法醫學上年齡鑑定ノ必須ナルハ言ヲ要セズ例令刑法第
 三百四十六條同第三百四十七條同第三百四十九條及同第三百五十二條並
 民法人事篇第三十條民事訴訟法第三百十條ノ場合ニ於ケルガ如シ三輪德

年齡鑑定標準表
男子ノ部

年 齡	身 長	頭 圍	百分比例% 身長頭圍
初生兒	49,2	32,9	66,9
六ヶ月一七ヶ月	62,3	41,9	67,2
一年一一年六ヶ月	70,4	45,8	65,3
一年七ヶ月二年六ヶ月	74,4	46,1	61,9
二年一二年六ヶ月	79,1	47,5	60,6
二年七ヶ月三年六ヶ月	82,8	48,2	58,2
三年一三年六ヶ月	89,5	48,4	54,1
三年七ヶ月四年六ヶ月	91,8	48,5	52,8
四年一四年六ヶ月	94,1	48,8	51,1
四年七ヶ月五年六ヶ月	96,6	49,4	51,1
五年一五年六ヶ月	100,9	48,6	58,9
五年七ヶ月六年	104,9	50,0	48,6
六年一七年	106,4	50,4	47,3
七年一八年	111,8	50,6	45,3
八年一九年	115,6	50,8	43,9
九年一十年	120,4	51,1	42,4
十年一十一年	123,1	51,2	41,6
十一年一十二年	127,4	51,3	40,3
十二年一十三年	162,8	51,9	39,1
十三年一十四年	139,3	52,5	37,6
十四年一十五年	144,7	52,8	36,5
十五年一十六年	150,4	53,5	35,5
十六年一十七年	154,7	53,8	34,7
十七年一十八年	156,6	54,6	34,8
十八年一十九年	158,2	55,3	34,8
十九年一二十年	158,4	54,6	34,5

附録

三輪博士ノ年齢鑑定

八一五

寛氏茲ニ見アリ多年研究ノ結果一萬四百九十人ニ對スル身長及頭部ノ周圍徑ヲ計測シ且ツ身長ト身長及頭圍ノ百分比例(身長ニテ頭圍ヲ除ス)ヲ表示シ而シテ被鑑定者ノ身長ト身長及頭圍ヲ測リ其百分比例ヲ以テ表中ノ百分比例ニ對比シ其最モ近似セル數ノ年齢ヲ取リテ鑑定スルコトヲ案出セラレタリ今博士ノ許諾ヲ得該表ヲ摘録スルコト左ノ如シ

計測法 身長ハ生體ニアリテハ起立位ニ於テ、三歳以下及死體ニアリテハ仰臥位ニ於テ計測シ頭圍ハ外後頭結節ト眉間トノ間ニ於テ測定セリ

左表ハ各年齢ノ中間數ヲ掲出セルモノニ付同表中例之六年乃至七年ノ身長百〇六仙迷トアルハ六年六七ヶ月ニ相當スルモノナルヲ以テ若シ被鑑定者ノ身長百〇五仙迷ナルトキハ該兒ノ年齢ハ六年半ヨリハ年少ナルモノト計測スルガ如シ

又百分比例ノ對比ニ付一二ノ實例ヲ舉ゲレバ左ノ如シ

第一例 一男子身長百二十九、五仙迷頭圍五十三仙迷ニシテ其%數四十一、九仙迷ノ者アリ今之ヲ表ニ對照スルニ百二十九、五仙迷ノ身長ハ十二歳乃至十三歳ノ間ヨリ稍年少ニシテ四十、九%數ハ十一歳乃至十二歳ノ間ニ相當スルヲ以テ其平均數即チ十一歳六ヶ月ト鑑定セ

八一四

年 齡 鑑 定 標 準 表
女 子 ノ 部

年 齡	身 長	頭 圍	百分比 身長頭圍%
初生兒	47,8	32,8	68,6
六ヶ月	62,7	40,9	65,2
一 年	69,6	44,2	63,5
一 年七ヶ月	72,2	44,4	61,5
二 年	78,7	46,5	59,1
二 年七ヶ月	83,7	47,4	56,6
三 年	89,7	47,2	52,6
三 年七ヶ月	90,8	47,9	52,7
四 年	93,9	48,4	52,6
四 年七ヶ月	97,8	48,4	49,5
五 年	98,2	48,7	49,6
五 年七ヶ月	101,5	48,7	47,9
六 年	105,4	49,4	46,8
六 年七ヶ月	109,7	49,5	45,1
七 年	113,9	50,0	44,1
七 年七ヶ月	118,7	50,5	42,5
八 年	123,0	50,9	41,3
八 年七ヶ月	127,0	51,3	40,4
九 年	132,4	52,0	40,3
九 年七ヶ月	138,0	52,6	38,1
十 年	142,2	53,2	37,4
十 年七ヶ月	144,4	51,8	37,3
十 一年	146,4	54,4	36,7
十 一年七ヶ月	145,4	52,9	36,3
十 二年	146,5	55,4	37,8
十 二年七ヶ月	146,3	53,0	36,2

ンニ其實際ノ年齢ハ十一歳ナリ

12歳+11歳=23歳之ヲ二分スルハ即 11歳6ヶ月トナル

第二例一女子身長百二十五、五仙迷頭圍五十、二仙迷ニシテ其%數四

十仙迷ノ者アリ之ヲ同上ノ表ニ照スニ百二十五、五仙迷ノ身長ハ十

一歳ニ相當シ四十%數ハ十二歳ニ相當スルヲ以テ其平均數即十一歳

六ヶ月ト鑑定センニ其實際ノ年齢ハ十一歳ナリ

11歳+12歳=23歳之ヲ二分スルハ即11歳6ヶ月トナル

本法ノ始ニ掲ケタル刑法ハ本書法律規則摘録ノ條項ニアリ

○第十八章 水ノ検査法

水ノ化學的検査法

水ノ良否ヲ鑑別シテ其飲料ニ供シ得ベキヤ否ヤヲ定ムルニハ化學的及細菌學的ノ検査ニ由ラザル可カラズ而シテ其化學的及細菌學的ノ精密ナル検査ハ共ニ熟練ナル専門家ノ技術ニ屬スルガ故ニ普通ノ場合ニ於テハ不
充分ナルモ次ノ化學的検査ニ満足セザルヲ得ズ
飲料水ハ透明無色無臭ニシテ清涼ナル味ヲ有シ中性若クハ弱アルカリ性

ノ反應ヲ呈シ次ノ化學的檢査ノ方法ニ從ヒ左ノ限界量ヲ超過ス可カラザルモノトス

第一 痕跡ヲ含有スベカラザルモノ

(一) アンモニア

(二) 亞硝酸

第二 一定ノ限界量ヲ超過スベカラザルモノ

檢水 千分(一〇〇〇、〇〇〇)中

(一) クロール 〇、〇二乃至〇、〇三分

(二) 硝酸 〇、〇〇五乃至〇、〇〇五分

(三) 硫酸 〇、〇八乃至〇、一分

(四) 硬度 一八乃至二〇度

(五) 有機物質 カメレオンノ消費量〇、〇〇六乃至〇、〇一分

(六) 總残渣 〇、五分以下

○第一 アンモニア

試藥ハネッスレル氏 藥ヲ用ユ

檢水五十立方センチメートルヲ直徑二乃至三立方センチメートルノ硝子圓筒ニ注キ一立方センチメートルノナトロン滷汁(一ト四)及二立方センチメートルノ炭酸ナトロン溶液(一ト三)ヲ加ヘ大約一時間ノ後其上澄液ヲ同大ノ硝子圓筒ニ分取シ一乃至二立方センチメートルノ「チッスレル氏液ヲ混和スベシ」アンモニア分混在スルトキハ無色ノ檢水黃色乃至黃褐色ヲ呈スベシ

チッスレル氏試藥ハ二分ノ「ヨードカリ」ヲ五分ノ水ニ溶解シ其溶解液ニ少許宛赤色ヨード汞ヲ溶解セザルニ至ルマデ混和シ之ニ二十分ノ水及四十分ノ苛性カリ(一ト二)ヲ加ヘ靜置シテ其上清ヲ石綿ニテ濾取スベシ

○第二 亞硝酸

試藥ハ「ヨードカリ澱粉溶液若クハ異性フェニールンヂアミン」ヲ用ユ
檢水五十立方センチメートルヲ硝子圓筒ニ盛り一乃至二立方センチメートルノ稀硫酸(一ト五)ヲ加ヘ之ニ大約〇、五立方センチメートルノ「ヨードカリ澱粉溶液ヲ加フベシ」亞硝酸分混在スルトキハ淡藍色若クハ黒藍色ヲ呈ス而シテ此際一立方センチメートルノ異性フェニールンヂ

アミン」ヲ應用スルトキハ無色ノ檢水黃色ヲ呈スルモノトス
ヨードカリ澱粉液ハ二分ノ澱粉ヲ五十分ノ水ト共ニ煮沸シ糊化スルヲ
待テ〇、二分ノ「ヨードカリ」ヲ混ジ更ニ餾水ヲ追加シ全量ヲ百分トナ
スベシ

異性ブエニールンヂアミン溶液ハ〇、五分ノ鹽酸異性ブエニールンヂ
アミン」ヲ稀硫酸々性ノ餾水百分ニ溶解ス

〇第三 クロール

試藥ハ硝酸銀ヲ用ユ

十乃至二十五立方センチメートル」ノ檢水ヲ試験管ニ盛り硝酸二三滴ヲ
加ヘ硝酸銀液（一ト二〇）五滴ヲ加フベシ之ニ由リ檢水中ノ格魯兒分ハ鹽
化銀ヲ化生シ含量ノ多少ニ從ヒ蛋白石濁又ハ乾酪狀ノ沈澱ヲ生ズベシ
故ニ其概量ヲ測定セント欲セバ次デ更ニ對照液ノ（クロールナトリウム
〇、〇三一九瓦餾水一〇〇〇、〇瓦）十乃至二十五立方センチメートル」
ヲ同大ノ試験管ニ取り二三滴ノ硝酸ヲ加ヘ同強度ノ硝酸銀液五滴ヲ注ギ
生成スル濁濁又ハ白澱ノ濃淡及多少ヲ檢水ノモノト比較スベシ此際檢水

ヨリ生成セシ濁濁濃ナルカ或ハ其沈澱多量ナルトキハ檢水ハ「クロール」
ノ限界量ヲ超過スルモノトス

〇第四 硝酸

試藥ハ「ブルチン溶液ヲ用ユ

檢水二十五立方センチメートル」ヲ硝子圓筒ニ取り「ブルチン溶液四五
滴ヲ加ヘ器壁ニ沿フテ靜ニ同容量ノ濃厚硫酸ヲ注加スベシ此際其接界面
ニ於テ美赤色ヲ呈スルトキハ硫酸分ヲ含ムモノトス
ブルチン溶液ハ一分ノ「ブルチン」ヲ五分ノ硫酸ニ溶解シ餾水百分ヲ
加ヘテ稀釋スベシ

前述ノ方法ニ由リ檢水硝酸分ノ存在ヲ徵スルトキハ更ニ對照液（硝酸カ
リ二、八〇四瓦餾水一〇〇、〇瓦）ノ二十五立方センチメートル」ヲ取り
之ニ前記ト同量ノ「ブルチン溶液及濃厚硫酸ヲ注加シ茲ニ現出スル美赤
色ヲ檢水ノモノト對比シ對照液ノ美赤色淡ナルトキハ檢水ニ於ケル硝酸
ノ含量ハ限界量ヲ超過シタルモノト認ムベシ

〇第五 硫酸

試薬ハ鹽化バリウムヲ用ユ

硫酸及其鹽類ハ鹽酸々性ノ溶液ニ於テ鹽化バリウムニ觸ル、ヤ硫酸バリウムヲ化生シ含量ノ多少ニ從ヒ白濁若クハ白塗ヲ生ズ故ニ今檢水二十立方センチメートルヲ試験管ニ二三滴ノ鹽類ヲ加ヘテ之ニ鹽化バリウム液ヲ加フベシ此際白濁若クハ白塗ヲ生ズルトキハ檢水ハ硫酸分ノ存在ヲ示スモノトス而シテ其概量ヲ測定セント欲セバ他ノ試験管ニ對照液タル〇、〇一%ノ硫酸二十立方センチメートルヲ取り同一ノ操作ヲ施シ生成スル濁濁ノ濃淡若クハ白塗ノ多少ヲ比較スベシ檢水ニ於ケル濁濁若クハ白塗淡ナルカ若クハ少量ナルトキハ限界量ヲ超過セザルモノトス鹽化バリウムハ一分ノ鹽化バリウムヲ十九分ノ餾水ニ溶解スベシ

○第六 硬度

試薬ハ萆酸アンモニウムヲ用ユ

硬度トハ水千分中ニ混在スル「カルシウム及マグネシウム鹽類ヲ酸化カルシウム」ニ改算シタル數量ヲ云ヒ之ヲ計測スルニハ一定ノ方法ヲ要スルハ勿論ナリト雖ドモ簡便ニ檢定セント欲セバ左ノ方法ヲ用井「カルシ

ウム」ノ存否試ムベシ

カルチウム鹽類ハ「アンモニア、アルカリ性ノ溶液ニ於テ萆酸若ハ萆酸アンモニウム」ニ觸ル、ヤ萆酸カルシウムヲ化生シ含量ノ多少ニ從ヒ白色ノ濁濁若クハ白色ヲ生ズ故ニ今檢水五十立方センチメートルヲ硝子圓筒ニ取り五六滴ノ「アンモニア水ヲ加ヘ之ニ萆酸アンモニウム液(一ト二)十二、九六瓦ヲ注加スベシ此際濁濁若クハ白塗ヲ生ズルトキハ「カルシウム」ノ存在ヲ示スガ故ニ其概量ヲ知ラント欲セバ他ノ硝子圓筒ニ對照液(硫酸カルシウム六、一四二瓦餾水一〇〇〇、〇瓦)五十立方センチメートルヲ取り同一ノ操作ヲ施シ生成スル濁濁ノ濃淡及ビ白塗ノ多少ヲ比較スベシ檢水ニ於ケル濁濁淡ナルカ若クハ白塗少量ナルトキハ限界量ヲ超過セザルモノト認ムベシ

○第七 有機質分

試薬ハ過マンガン酸カリ液(過マンガン酸カリ〇、三二二瓦餾水一〇〇〇、〇瓦)ヲ用ユ

檢水ニ於ケル有機質分ヲ檢知スルニハ大凡其五十立方センチメートル

ヲ「ペーヘル」ニ取り稀硫酸ノ二、五立方センチメートルヲ加へ〇、五立方センチメートルノ過マンガン酸カリ液ヲ混和シ銅網上ニ於テ五分間煮沸スベシ此際淡赤色ノ溶液脱色スルトキハ有機質分ノ存在ヲ徴ス故ニ其概量ヲ檢知セント欲セバ更ニ檢水百立方センチメートルヲ「ペーヘル」ニ取り之ニ稀硫酸（一ト三）五立方センチメートルヲ加へ銅網上ニ於テ五分時間煮沸シ次デ火ヲ去リ大約九十度ニ冷ユルヲ待チ無色ノ溶液褪消セサル薔薇紅色ヲ呈スルニ至ル迄過マンガン酸カリ液ヲ滴加シ茲ニ消費セル容量ヲ檢知シ置キ更ニ對照液修酸〇、〇五瓦留水一〇〇〇、〇（瓦）百立方センチメートルヲ他ノ「ペーヘル」中ニ取り同上操作ヲ施シ茲ニ持續性ノ薔薇色ヲ呈スルニ至ルマデ消費セシ（理論上三、一六立方センチメートル）ノ過マンガン酸カリヲ要ス）過マンガン酸カリ液ノ容量ヲ檢水ニ要セシ容量ト比較スベシ檢水ニ於ケル過マンガン酸カリ液ノ消費量三、一六立方センチメートル以上ナルトキハ限界數ヲ超過セル有機質分ヲ含有スルモノト認ムベシ

○第八 總殘渣

凡ソ百二十立方センチメートルヲ入ルベキ清淨ナル磁皿ヲ乾燥シテ豫メ秤量シ次デ之ヲ重湯煎上ニ上セ更ニ二百五十立方センチメートルノ檢水ヲ硝子圓筒中ニ秤取シ該圓筒ノ流出口邊ニ薄ク脂肪ヲ塗り硝子棒ヲ以テ適量ヅ、ヲ磁皿ニ注ギ悉ク蒸發乾燥スルヲ待テ乾燥器ニ移シ百十度ノ温ヲ與ヘ大凡三時間放置スル後硫酸乾燥器中ニ放冷シテ秤定シ不變量ヲ得ルニ至リ之ヨリ磁皿ノ量ヲ減ジ其差量ニ四乗スルトキハ千分中ノ含量ヲ得ベシ

○第十九章 諸關節損傷之類症鑑別

輓近エツキス光線ヲ骨折及ビ脱臼等諸種ノ診斷ニ應用スルニ至リテ骨折脱臼等ノ診斷ハ此エツキス光線ニ由リテ最モ精密ニ之レヲ診斷シ得ベシ其他該光線ニ因テ異物ヲ證明シ得ルコト卷末挿圖ノ如シ即チ指内ニ霰彈ノ在ル寫眞版是レナリ

肩胛關節損傷之類症鑑別

○第一 肩胛關節ノ打撲

第一 年齡 年齡ニ關セス

- 第二 損傷發生 直達劇力ニ因テ生ズ
- 第三 肩頭圓隆 全肩胛部著シク平等ニ腫起ス逐日輕減シテ八日後ニ消失
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋ノ狀態肩峰突起著シク突隆セズ
- 第五 肩頭突起ノ軟部 溢血ヲ壓排スレバ虛性凹窩ヲ覺ユルコトアリ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 肩頭突起ノ前後ニ於テ屢關節血腫ノ隆起スルヲ見ル
- 第七 疼痛 關節部ニ劇痛アリ肩胛突起ノ下方關節ノ前後面及ビ腋窩ヨリ壓チ加フレバ疼痛増劇ス
- 第八 上肢軸ノ方向 關節内ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 變化ナシ肘頭ヲ強ク内轉スルコトヲ得又手ヲ容易ニ健側ノ肩下ニ置キ其際肘關節ヲ胸廓ニ觸接セシムルコトヲ得
- 第十 上肢ノ長サ 上膊ノ長サ變化ナシ
- 第十一 上肢機能 初メ著明ノ機能障害アリ然レドモ速カニ恢復ス
- 第十二 關節ハ關節内ニ運動スルコト常ノ如シ
- 第十三 軋音 ハ缺如ス
- 第十四 異常運動或ハ固定ナシ

第十五 整復ハ短小時日内ニ按摩法ニ由テ腫起著シク減少ス

○第二 肩頭突起上鎖骨脫臼

- 第一 年齡 專ラ中年
- 第二 損傷發生 直達劇力ニ因ル
- 第三 肩頭圓隆 著明ノ變化
- 第四 肩頭突起及三角筋狀態 異常ナシ
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起下ニ皮膚ノ凹窩ナシ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 鎖骨外端肩頭突起上ニ位スルガ故ニ著明ノ隆起チ呈ス此外端肩頭突起ト誤認スルコトアルヘシト雖ドモ鎖骨外端ハ肩頭突起ヨリモ遙カニ狹ク平滑ニソノ圓シ又疼痛劇甚ナラズ突隆下ノ凹窩内ニ於テ肩胛全部ハ前下方ニ下垂ス
- 第七 疼痛 三角筋損傷アルトキ突隆部ノ頂點ニ疼痛アリ其他該部ヲ壓迫スル際ニ方テ并ニ上肢ヲ強ク運動スル時ニハ疼痛ヲ發ス
- 第八 上肢軸ノ方向關節ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 體側下垂、上端廻轉スルコトアリ
- 第十 上肢ノ長サ 外觀的著明ノ延長アリ

- 第十一 虛動及實動共ニ容易
- 第十二 關節頭 關節頭ハ肩頭突起下ニ於テ營ムコト如常
- 第十三 軋音ナシ
- 第十四 異常運動、鎖骨ハ諸方ニ異常運動ヲ呈ス
- 第十五 整復 肩胛ノ上外方運動及ビ肩頭突起上突起ノ下方壓迫ニ因テ直ニ變形ヲ除クコトヲ得

○第三 肩頭突起下鎖骨脫臼

- 第一 年齡 中年
- 第二 損傷發生 直達劇力
- 第三 肩頭圓隆 稍扁平トナリタル外觀アリ然ドモ全ク扁平ナラズ鎖骨上窩及ビ下窩共ニ消失ス
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋ノ狀態銳ク突出關節面ハ軟部ヲ隔テ、觸知ス
- 第五 肩頭突起下ノ軟部凹窩ナシ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸(鎖骨外端ニ由テ肩頭突起下ニ前方突隆ヲ見ルヲアリ)
- 第七 疼痛 虛動實動ノ際疼痛ヲ發ス、上肢ニ於テ時トシテ蟻走ノ感アリ

- 第八 リ 上肢軸ノ方向關節内ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 體ニ密接ス
- 第十 上肢ノ長サ 稍延長セルガ如キ外觀ヲ呈ス
- 第十一 上肢機能 障害著シ
- 第十二 關節頭 異常ナシ
- 第十三 軋音ナシ
- 第十四 異常運動 鎖骨外端ニ異常運動アリ
- 第十五 整復 上膊ヲ外方ニ牽引シ鎖骨ヲ前上方ニ壓セバ容易ナリ

○第四 肩頭突起骨傷

- 第一 年齡 中年ニ最モ多シト雖ドモ老幼共ニ之レニ罹ルコトアリ
- 第二 損傷發生 大概直達劇力ニ因テ生ズ
- 第三 肩頭圓隆 肩頭扁平
- 第四 肩頭突起及三角筋ノ狀態 肩頭突起健側ニ比シテ稍低シ
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 凹窩ナシ

- 第六 肩胛異常凹凸 〔肩頭部突隆ノ増加ヲ證明スルコトアリ或ハ上肢ヲ上方ニ牽引スル際折骨部ニ角度狀屈折ヲ生ズルコトアリ〕
 - 第七 疼痛 肩頭突起ニ劇痛アリ壓迫及び上膊強度ノ外轉ニ由テ増加ス
 - 第八 上肢軸ノ方向 關節ニ達ス
 - 第九 上肢ノ位置 體側ニ下垂ス手ヲ健側肩胛部ニ置クコトヲ得
 - 第十 上肢ノ長サ 外觀的延長ス
 - 第十一 上下機能 實動的舉上不能或ハ困難ナルモ廻轉ニハ害ナシ
 - 第十二 關節頭 異常ナシ
 - 第十三 軋音 通常證明容易
 - 第十四 異常運動 通常容易ニ證明スルコトヲ得
 - 第十五 整復 上膊ノ鉛直舉上ノ際變形ハ消失ス然レドモ其他ノ位置ニハ再現ス
- 第五 肩胛骨頸骨傷
- 第一 年齡 中年及ビ老年
 - 第二 損傷發生 直達劇力
 - 第三 肩頭圓隆 甚ダ扁平ノ外觀アリ且ツ下垂ス

- 第四 肩頭突起及ビ三角筋ノ狀態 〔肩頭突起著シク突出ス三角筋其中央部ニ於テ緊張甚ダシ〕
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 〔肩頭突起下ニ或ハ前方ニ於テ一ノ凹窩アリ凹窩内ニ容易ク指頭ヲ以テ挿入スルヲ得〕
- 第六 肩頭部異狀ノ凹凸 〔肩頭突起ノ下方深部ニ於テ平滑ナル關節窩ノ位置ニ於テ骨折端ノ鋸齒狀ナルヲ觸知ス〕
- 第七 疼痛劇甚ナリ
- 第八 上肢軸ノ方向 關節内ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 〔弛緩狀ニ下垂シ或ハ稍輕度ノ内轉アリ疼痛ヲ發スルモ尙ホ手ヲ健側肩上ニ置クコトヲ得〕
- 第十 上肢ノ長サ 〔後方ヨリ觀察スルトキハ延長ノ觀、齶嘴突起ハ稍下方ニ位ス〕
- 第十一 上肢機能 實動殆ンド不能虛動ハ疼痛ヲ發スルモ容易ナリ
- 第十二 關節頭 腋窩ニ於テ殆ンド觸知セラル關節内ニ運動ス
- 第十三 軋音 證明容易ナリ
- 第十四 異常 運動アリ
- 第十五 整復 上肢鉛直舉上ニ由テ容易ニ恢復ス然レテ之ヲ止ムレバ變形再現ス

○第六 烏嘴下上膊骨脱臼

- 第一 年齢 小兒期ニ於テハ甚ダ稀有ナルモ其他ノ年齢ニハ多シ
- 第二 損傷發生 通常介達劇力時トシテ直達劇力或ハ筋收縮ニ因テ生ズ
- 第三 肩頭圓隆 形消失シテ扁平トナル
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 著シク突出ス三角筋緊張シ該筋附着點ニ於テ上膊屈曲ノ外觀ヲ呈ス
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起ノ下方ニ軟部ノ凹窩ヲ見且ツ觸知スルコトヲ得其深部ニ於テ關節窩ヲ觸知ス
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 モーレンハイム氏窩ニ於テ烏嘴突起ノ下方ニ當リ關節頭球隆起ヲ呈ス又腋窩ヨリシテ之レヲ觸知スルコトヲ得
- 第七 疼痛 劇甚ナリ特ニ運動ヲ試ムル際ニ強シ
- 第八 上肢軸ノ方向 關節窩ヨリ内方ヲ經過ス
- 第九 上肢ノ位置 外轉ノ位置ニアリ肘頭ヲ軀幹ニ近接スルコト能ハズ手ヲ健側ノ肩上ニ置クコト能ハズ
- 第十 上肢ノ長サ 稍延長セルノ觀アリ
- 第十一 上肢機能 異常固定アリテ其位置ヲ變セズ運動ヲ認ムレバ彈力性抵抗ヲ感ズ但結節ノ骨折ヲ合併スルトキハ可動性ナリ

- 第十二 關節頭 烏嘴突起下ニアリ關節窩内ニ存在セズ
- 第十三 軋音 缺如ス
- 第十四 異常運動 無シ却テ異常ノ固定アリ
- 第十五 整復 特種ノ還納法ニ因テ整復スルコトヲ得而シテ整復セバ再歸セズ

○第七 上膊骨々頭ノ骨折傷

- 第一 年齢 老年ニ多シ
- 第二 損傷發生 直達劇力
- 第三 肩頭圓隆 變化ヲ見ザルアリ或ハ僅カニ扁平トナル
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋ノ狀態 肩頭突起突隆セス
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 凹窩ナシ
- 第六 肩胛狀異常ノ凹凸 異常ノ突隆ナシ
- 第七 疼痛關節内ニアリ
- 第八 上肢軸ノ方向 關節内ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 胸側ニ下垂ス稀レニハ稍外轉ス

- 第十 上肢ノ長サ 變化ナシ
- 第十一 上肢機能 虛動自在ナリ實動モ亦障害ナキコトアリ
- 第十二 關節頭 骨頭ハ骨折端嵌入ノ爲メ常ニ上膊ノ運動ニ隨伴ス
- 第十三 軋音關節内ニ存在スル明瞭ニスルコト難シ
- 第十四 異常運動 異常運動ヲ證明セズ
- 第十五 轉位 殆ンドナク或ハ輕度

○第八 上膊骨横顆節骨傷

- 第一 年齡 老年者ニ見ル
- 第二 損傷發生 直達劇力
- 第三 肩頭圓隆 少シク扁平
- 第四 肩頭突起及三角筋狀態 稍々突起
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 關節ノ近傍ニ淺窩アリ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 上膊骨上端著シク其幅ヲ淺ス
- 第七 疼痛 骨折部顆節部ヲ壓迫シ或上肢ヲノ強ク運動ヲ營シメバ劇痛ヲ發ス

- 第八 上肢軸ノ方向 關節ニ達ス時トシテ稍内方ニ至ル
- 第九 上肢軸ノ位置 肘頭軀幹ニ密接ス手ヲ健側肩ニ置クコト容易ナリ
- 第十 下肢ノ長サ 楔狀嵌入ニ於テノミ稍短縮ス
- 第十一 上皮機能 障碍少シ
- 第十二 關節頭 〔骨頭關節窩内ニアルモ上膊ノ廻轉ニ隨伴スルコトナシ但楔狀嵌入ノ際ハ此限ニアラズ〕
- 第十三 軋音 〔顆節ヲ固定シ而シテ後上肢ヲ廻轉シ或ハ俄然外轉スルノ際軋音ヲ知ル〕
- 第十四 異常運動 關節ノ直下ニ異常運動アリ
- 第十五 整復 骨端轉位甚シカラズ

○第九 大顆節骨折傷

- 第一 年齡 殊ニ中年ニ來ル
- 第二 損傷發生 斷裂ニ由ル
- 第三 肩頭圓隆 肩胛部前後ノ直徑増加ス
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 強ク突出スルコトアリ

- 第五 肩頭突起下ノ軟部 淺キ陷凹アリ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 肩頭突起ノ後方及ビ下方ニ於テ骨折片ヲ觸知ス此骨折片ハ移動シ易シ
- 第七 疼痛 上肢ヲ強ク舉上シ及ビ後方ニ位スル大顆節上ヲ壓スレバ劇甚ノ疼痛ヲ發ス
- 第八 上肢軸ノ方向 關節内ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 變化ナキコトヲ得時トシテ肘頭稍外轉ス
- 第十 下肢ノ長サ 異常ヲ認メス
- 第十一 上肢機能 水平線下ノ運動ヲ認ムルコトヲ得外旋不能
- 第十二 關節頭 稍内方ニ轉位シ腋窩ヨリ觸知シ得ベシ
- 第十三 軋音 直角ニ外轉セル上肢ヲ廻轉シ其際顆節ヲ固定セバ軋音ヲ覺ユ
- 第十四 異常運動 顆節移動容易ナリ
- 第十五 整復 直達移動ニ因テ整復スルコト容易ナルモ其位置ヲ保續セシムルコト困難ナリ

○第十 烏嘴脱臼兼大顆節骨折傷

第一 年齢 中年者ニ限ル

- 第二 損傷發生 上肢過度ノ外轉ニ因ス
- 第三 肩頭圓隆 肩頭脱臼ノミノ如ク著シキ扁平ナシニケノ突隆アル爲メ著シク其幅ヲ増加ス
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 肩頭突起突隆スルコト微ナリ
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 扁平著明ナラス
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 大顆節ハ異常ノ隆起ヲ呈シ關節頭ハモートレンハイム氏窩内ニ突隆ス
- 第七 疼痛 脱臼ノ關節内ニ烈シキ疼痛ナシ
- 第八 上肢ノ方向 關節窩ヨリ内方ニ偏ス
- 第九 上肢ノ位置 肘頭ノ外轉脱臼ノ際ヨリモ微ナリ而シテ胸側ニ近接セシムルコト容易ナルモ手ヲ健側肩頭上ニ置クコト能ハズ
- 第十 上肢ノ長サ 稍延長セル外見アリ
- 第十一 上肢機能 脱臼アルニモ關セス運動ヲ營ムコトヲ得
- 第十二 關節頭 肩頭烏嘴突起下ニアリ腋窩ヨリ觸知スルコト容易ナリ
- 第十三 軋音 髌節ヲ骨頭ニ向ケ壓迫シ後移動スレバ時トシテ軋音ヲ感ズ
- 第十四 異常運動 脱臼ニ於ケルガ如ク上肢ノ固定強度ナラズ髌節ヲ移動スルコトヲ得

第十五 復位 單純脫臼ニ於ケルヨリモ容易ナリ

○第十一 小顆節骨折傷

- 第一 年齢 老年者ニ來ル
- 第二 損傷發生 脱臼合併症トシテ生ス
- 第三 肩頭圓隆 肩頭肩平トナルコト微ナリ上膊ハ三角筋附着點ニ於テ屈折セ
ル外觀アリ
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 肩頭突起突出セズ
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起下ニ凹窩ヲ呈セズ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 上膊骨上端ノ兩側ニ當テ移動シ易キ突起ヲ觸知ス
突起ト大顆節間ニ一溝アリ
- 第七 疼痛 移動シ易キ突起部ニ劇痛アリ上肢外旋ノ際又劇痛ヲ發ス
- 第八 上肢軸ノ方向 關節内ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 上肢稀ニ外轉外旋ヲ呈ス
- 第十 上肢ノ長サ 變化ヲ認メス
- 第十一 上肢機能 機能ニ障害ヲ呈スルコト著シ
- 第十二 關節頭 骨頭時トシテ内方ニ偏スルコトアリ

- 第十三 軋音 髁節ヲ固持シテ後移動ヲ試ムレバ軋音ヲ著明ナラシム
- 第十四 異常運動 髁節ニ異常運動アリ
- 第十五 還納 容易ニシテ上膊ノ前方ニ脱臼セントスルノ傾向アリ

○第十二 解剖頸骨折傷

- 第一 年齢 中年者及ビ老年者ニ多シ
- 第二 損傷發生 直達劇力ニ因テ生ズ
- 第三 肩頭圓隆 扁平微ナリ
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 肩頭突起突隆スルコト著明ナラズ
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起下僅カニ陷凹スル部アリ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 時トシテ腋窩内ニ骨折下端ヲ觸知ス
- 第七 疼痛 關節部ヲ壓スレバ劇痛アリ虛動ノ際亦然リ
- 第八 上肢軸ノ方向 上肢軸關節ニ達ス
- 第九 上肢ノ位置 上肢ノ體側ニ下垂ス稀ニハ肘頭ノ稍外方ニ轉ズルヲ視ル手
ヲ健側肩部ニ置クコト容易ナリ
- 第十 上肢ノ長サ 變化ナシ稀ニハ僅微ノ短縮アリ
- 第十一 上肢機能 運動ニ變化ナシ

- 第十二 關節頭 關節内ニ存在ス時トシテ前内方ニ移動ス
- 第十三 軋音 軋音アリ
- 第十四 異常運動 時トシテ異常運動アリ時トシテ之レヲ缺如ス
- 第十五 整復 腋窩内ニ枕子ヲ送入スレバ變形消失ス

○第十三 外科頸骨折傷

- 第一 年齡 〔横骨傷トシテ專ラ老人ニ斜骨傷トシテハ幼年者ニ發ス該骨折ハ上膊骨上ニ於テ最モ多ク見ルトコロノ骨傷ナリ〕
- 第二 損傷發生 横骨傷ハ直達劇力斜骨傷ハ介達劇力ニ因テ生ズ
- 第三 肩頭圓隆 稍扁平ノ外觀アリ
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 肩頭突起著シク突起ス
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起下數仙迷ニシテ一ノ凹窩アリ
- 第六 肩胛部異常ノ凹凸 〔骨折ノ下端烏嘴突起ノ内下方ニ於テ軟部ノ隆起ヲ惹起ス而シテ按ズルトキハ鋸齒狀ノ骨折面ヲ觸知スルコトヲ得〕
- 第七 疼痛 肩頭突起下骨折部ニ劇痛アリ
- 第八 上肢軸ノ方向 關節窩ノ内方ヲ通過ス

- 第九 上肢ノ位置 〔肘頭外轉ス然レドモ之レヲ内轉スルコト容易ナリ手ヲ健側肩上ニ置クコトヲ得〕
- 第十 上肢ノ長サ 著シク短縮ス
- 第十一 上肢機能 疼痛ヲ發スルモ虛動ヲ營ムコトヲ得
- 第十二 關節頭 〔骨頭ハ關節窩内ニアリ上肢ヲ廻轉スルモ之レニ隨伴セズ（楔狀嵌入ノ際ハ此限ニアラス）〕
- 第十三 軋音 軋音ヲ發セシムルコト容易ナリ
- 第十四 異常運動 運動異常ナク角度性屈折ヲ呈セシムルコトヲ得
- 第十五 整復 困難ナラザルモ轉位再ビ發シ易シ

○第十四 烏嘴下脱臼兼外科頸或ハ解剖頸 骨折傷

- 第一 年齡 中年及ビ老年者ニ多シ
- 第二 損傷發生 介達劇力ノ加ハルニ因ス
- 第三 肩頭圓隆 肩頭ノ扁平ヲ呈ス
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 著シク突起ス
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 肩頭突起直下ニ深窩ヲ生シ窩底ニ關節面ヲ觸

知ス

- 第六 肩頭部異常ノ凹凸 鳥嘴突起下ニ肩頭固定セララル
- 第七 疼痛 全肩胛部劇痛アリ
- 第八 上肢軸ノ方向 内方ヲ通過ス
- 第九 上肢ノ位置 〔上肢多クハ弛緩下垂ス稀レニハ稍外轉ス手ヲ健側肩ニ達セシムルコトヲ得〕
- 第十 上肢ノ長サ 上肢短縮ノ外觀アリ
- 第十一 上肢機能 上肢機能廢止ス
- 第十二 關節頭 骨頭ハ關節ノ前内方ニ位シ上肢ヲ回轉スルニ之レニ隨伴セズ
- 第十三 軋音 骨折片ヲ近接セシムレバ軋音ヲ生ズ
- 第十四 異常運動 諸方向ニ異常運動ヲ呈ス
- 第十五 整復ハ固有ノ方法ヲ要ス

○第十五 骨端部骨傷或ハ骨端離開

- 第一 年齢 二十年以下ノ幼者ニ見ル
- 第二 損傷發生 專ラ介達劇力ニ因テ生ス

- 第三 肩頭圓隆 肩頭扁平微ナリ
- 第四 肩頭突起及ビ三角筋狀態 肩頭突起隆起ス
- 第五 肩頭突起下ノ軟部 〔肩頭突起下ニ乃至三仙迷部ニ淺高ヲ呈ス即チ該淺窩所在ハ解剖頸骨折ノ際ヨリモ下方ニ位シ外科頸骨傷ノ際ヨリモ上方ニアリ〕
- 第六 肩頭異常ノ凹凸 下骨折片ハ上膊骨端骨前内側ニ隆起ス
- 第七 疼痛 損傷部ニ當テ疼痛アリ壓迫及ビ運動ニ因テ増加ス
- 第八 上肢軸ノ方向 轉位大ナルトキハ關節面ノ内方ヲ通過ス
- 第九 上肢ノ位置 上肢體側ニ下垂シ強度ニ轉位セハ稍ヤ外轉シテ後方ニ向フ
- 第十 上肢ノ長サ 輕度ノ短縮アリ
- 第十一 上肢機能 機能廢絶ス
- 第十二 關節頭 骨頭肩頭突起下ニ位シ上肢運動ニ隨伴セス
- 第十三 軋音 軟骨軋音アリ
- 第十四 異常整復 運動ヲ呈ス
- 第十五 整復 容易ナリ骨折片ノ固定困難ナリ

○肘關節損傷ノ類症鑑別

○第一 顆節上骨折傷

- 第一 外副髌節ヨリ肩頭突起ニ至ルノ長ヲ計リテ上膊ノ著シク短縮スルヲ見ル
- 第二 肘關節ハ屈曲シ手ハ前轉ス
- 第三 上膊ノ軸肘窩ニ達セス
- 第四 關節ノ横徑變化ナシト雖トモ關節前後徑増加ス
- 第五 三頭筋腱凹形ヲナシ前方ニ開口セル角度ヲナシテ經過ス
- 第六 膊肘窩ニ於テ肘皺襞ノ上方ニ狹キ突起ヲ觸知ス
- 第七 鷹嘴突起及ビ橈骨小頭ハ著シク後上方ニ位ス
- 第八 鷹嘴突起ト兩副髌節ノ關係ハ左ノ如シ
- 第九 前膊ハ諸方向ニ異常虛動ヲ呈ス(疼痛ヲ發スルモ)
- 第十 異常運動アリ
- 第十一 軋音アリ
- 第十二 前膊ヲ牽引スレバ容易ニ變形ヲ消失セシムベシト雖トモ牽引ヲ

廢スレバ變形再現ス

○第二 顆節上髌節間骨傷

- 第一、二、三、五、六、九、十、十一、及ビ第十二ハ髌節上骨折ニ同ジ
- 第四 關節ノ横徑著シク増加ス
- 第七 骨端髌節間ニ楔狀ニ嵌入スル片ハ時トシテ鷹嘴突起ノ缺如セル者ノ如シ
- 第八 兩髌節相互ノ距離増加ス又鷹嘴突起ヨリ離ル、コト甚シ

○第三 骨端部骨傷

- 第一、二、三、四、五、七、八、九及ビ第十二ハ髌節上髌節間骨傷ニ同ジ
- 第六 膊肘窩内ノ關節ニ近ヅキ其幅ヲ増加ス
- 第十 異常運動ハ關節部ニ近ヅキ又過度ノ伸展ヲナスコトヲ得
- 第十一 軋音アルトキハ軟骨ノ軋音ナリ

○第四 肘頭突起骨傷

- 第一 上膊短縮證明ス可カラズ

- 第二 骨端骨傷ニ同ジ
- 第三 上膊軸ハ關節ニ達ス
- 第四 肘關節部前後徑異常ナシ然レトモ前膊ヲ牽引スレバ大凡三仙迷増加ス
- 第五 前膊ヲ牽引スレバ三頭筋腱前方ニ緊張ス
- 第六 肘頭皺襞ハ關節腫脹ノ爲メ多クハ消失ス
- 第七 肘頭突起ノ折レタルヲ觸知ス
- 第八 肘頭突起尖端ハ兩髌節ヨリ上方ニ位ス
- 第九 前膊ハ運動ヲ營ム能ハズ
- 第十 副髌節ハ直下關節線ノ上ニ異常運動ヲ證明ス
- 第十一 軋音特ニ前膊ヲ側方ニ運動スルノ際
- 第十二 整備容易ナリ

○第五 後脱臼

- 第一 上膊ノ長サニ變化ナシ
- 第二、三、四、五及ビ七髌節上骨折ニ同ジ
- 第六 肘關節ニ於テ圓形圓柱狀ノ體ヲ發見ス

- 第八 鶯嘴突起ハ後方ニ偏ス兩髌節ヨリ上方ニ位ス
- 第九 關節實動ヲ營ムコト能ハズ
- 第十 虛動ニ於テモ直角ヨリ以上屈曲スルコトヲ得ズ
- 第十一 軋音ヲ呈スルナシ關節内握雪音ヲ軋音ト誤認スル勿レ
- 第十二 一定ノ方ニ非ザレバ整備スルコト能ハズ冠狀突起ノ骨折ヲ兼ヌル者ニ於テノミ整備後尙ホ脱臼再發スルノ傾向アリ

○股關節損傷ノ類症鑑別

○第一 股關節打撲

- 第一 年齢ニ關係ナシ
- 第二 直達劇力ニ因テ生ズ
- 第三 大轉子周圍ニ打撲ノ諸徵著明ナリ
- 第四 全股關節部ニ疼痛アリテ運動ノ際増加ス
- 第五 運動ノ際劇痛アリテモ運動障害ナシ(特ニ麻醉中ニ)
- 第六 軋音ナシ
- 第七 下肢ノ短縮ナシ

- 第八 大轉子ハローゼル子ラトシ氏線内ニアリ
- 第九 下肢稍ヤ外方ニ廻旋ヲ呈スルコトアリ
- 第十 骨頭ノ位置ニ變化ナシ

○第二 マルゲーヌ氏重複鉛直骨傷

- 第一 強壯ナル男子ニ多シ
- 第二 前額徑或ハ「ジアゴナル」徑ニ於テ骨盤ヲ壓迫スルニ因テ生ス
- 第三 劇力ノ直接ニ作用シタル部分ノ外甚シク挫傷ヲ呈ス
- 第四 劇痛アリ特ニ兩傷骨ヲ壓迫スル際
- 第五 麻醉中股關節運動ヲ檢スルニ自在
- 第六 傷骨ヲ壓スル際軋音ヲ呈ス
- 第七 骨盤全部上昇スルガ故ニ下肢ノ短縮ヲ生ス
- 第八 大轉子ハローゼル子ラトシ氏線内ニアリ
- 第九 下肢外旋
- 第十 骨頭ノ位置ニ變化ナシ

○第三 耻骨上脱臼

- 第一 小兒ニ來ルコト少シ
- 第二 伸展外轉外旋ニ因テ生ズ
- 第三 著明ナル挫傷ノ症候ナシ
- 第四 格別ノ疼痛ナシ
- 第五 異常固定アリ
- 第六 軋音ナシ
- 第七 上肢一二仙迷(短縮卵圓孔脱臼ニハ延長ス)
- 第八 大轉子ハ内方ニ轉位シ白ノ前ニアリ
- 第九 下肢外轉外旋
- 第十 大腿趾骨頭ヲ趾骨上ニ觸知ス

○第四 囊韌帶内頸骨折傷

- 第一 殆ンド老人而已ニ之ヲ發ス
- 第二 強大ナラザル外力ニ因テモ生ズ
- 第三 關節周圍ニ著明ナル挫傷ノ症候缺如ス
- 第四 安靜位置ニ於テハ疼痛少ク運動セバ劇痛アリ

- 第五 下肢廻轉ノ際大轉子ノ畫ク圈ハ稍ヤ小トナル等
- 第六 短縮ヲ除キタルトキハ軋音ヲ發見シ得ベシ
- 第七 短縮輕易ナル後ニ増加スルコトアリ
- 第八 大轉子ハローゼル子ラトン氏線ヨリ稍ヤ上方ニアリ
- 第九 下肢外旋ス
- 第十 骨頭ハ髀臼内ニアリ

○第五 囊韌帶外頸骨折傷

- 第一 老人ニ多キモ幼年者ニモ亦發スルコトアリ
- 第二 大概大轉子上ニ劇力ノ作用ニ因テ生ス
- 第三 大轉子部ニ著明ナル挫傷ノ諸症候アリ
- 第四 安靜ノ位置ニ於テモ疼痛アリ運動ハ疼痛ノ爲メ營ムコト能ハズ
- 第五 大轉子ハ麻醉中虛動ヲナスニ當リテ大腿骨長軸ノ周圍ニノミ廻轉ス
- 第六 大轉子上ニ手掌ヲ接スレバ軋音ヲ發スルコト容易ナリ
- 第七 下肢短縮スルコト大約六仙迷ナリ
- 第八 大轉子ハローゼル子ラトン氏線ノ上部ニアリ或ハ扁平或ハ粉碎ス

- 第九 下肢ノ外旋スルコト甚ダシ
- 第十 大腿骨髀臼内ニアリ

○第六 楔狀筋入外頸骨折傷

- 第一 老人ニ發生ス
- 第二 大轉子ニ跌仆スルニ因テ生ス
- 第三 股關節部ハ挫傷ノ著明ナル諸徵アリ
- 第五 下肢ハ著シキ運動ノ固定ヲ呈ス
- 第六 軋音ナシ
- 第七 下肢短縮ハ三仙迷ニ達スルコトアリ然レトモ屢々極メテ僅微ナル
トアリ
- 第八 大轉子ハ通常扁平トナリ或ハ片碎ス
- 第九 下肢少シク外旋ス
- 第十 大腿骨頭ノ位置變化ナシ

第二十章 妊娠及卵ノ發育

女ノ卵男ノ精蟲ト結合ス受胎是ナリ母ハ受胎卵ヲ約二〇八十日其體內ニ

養育ス妊娠是レナリ妊娠終レハ胎兒出產ス分娩是レナリ

受胎卵ノ一部ヨリ胎兒ヲ完成シ他部ハ其附屬器トナル故ニ成熟卵ハ五部

ヨリ構成ス(一)胎兒(二)臍帶(三)胎盤(四)卵膜(紙ノ如ク薄キ

ノ三膜ノ密着セルモノナリ内層ハ羊膜、中層ハ絨毛膜外層ト翻轉脱落膜)

第八十七圖ノ如キ是レナリ

各月末胎兒ノ狀 (第八十八圖ヲ看ヨ)

第一月末 卵ハ鳩卵大ニシテ卵内ノ胎兒ハ一〇×一〇即チ一仙迷ノ長

サヲ有シ他ノ哺乳動物ノモノト異ナル形狀ナシ頭ト軀幹ト同大ニシテ

眼ハ漸ク生ス四肢僅カニ其ノ兆ヲ呈スルノミ

第二月末 卵ハ鷄卵大ニシテ卵内ノ胎兒ハ一〇×一〇即チ四仙迷ノ長

サヲ算ス

人體ノ形已ニ顯ハレ四肢各三部ニ分レ臍帶漸ク長ジ胎盤ノ形成ハ第二

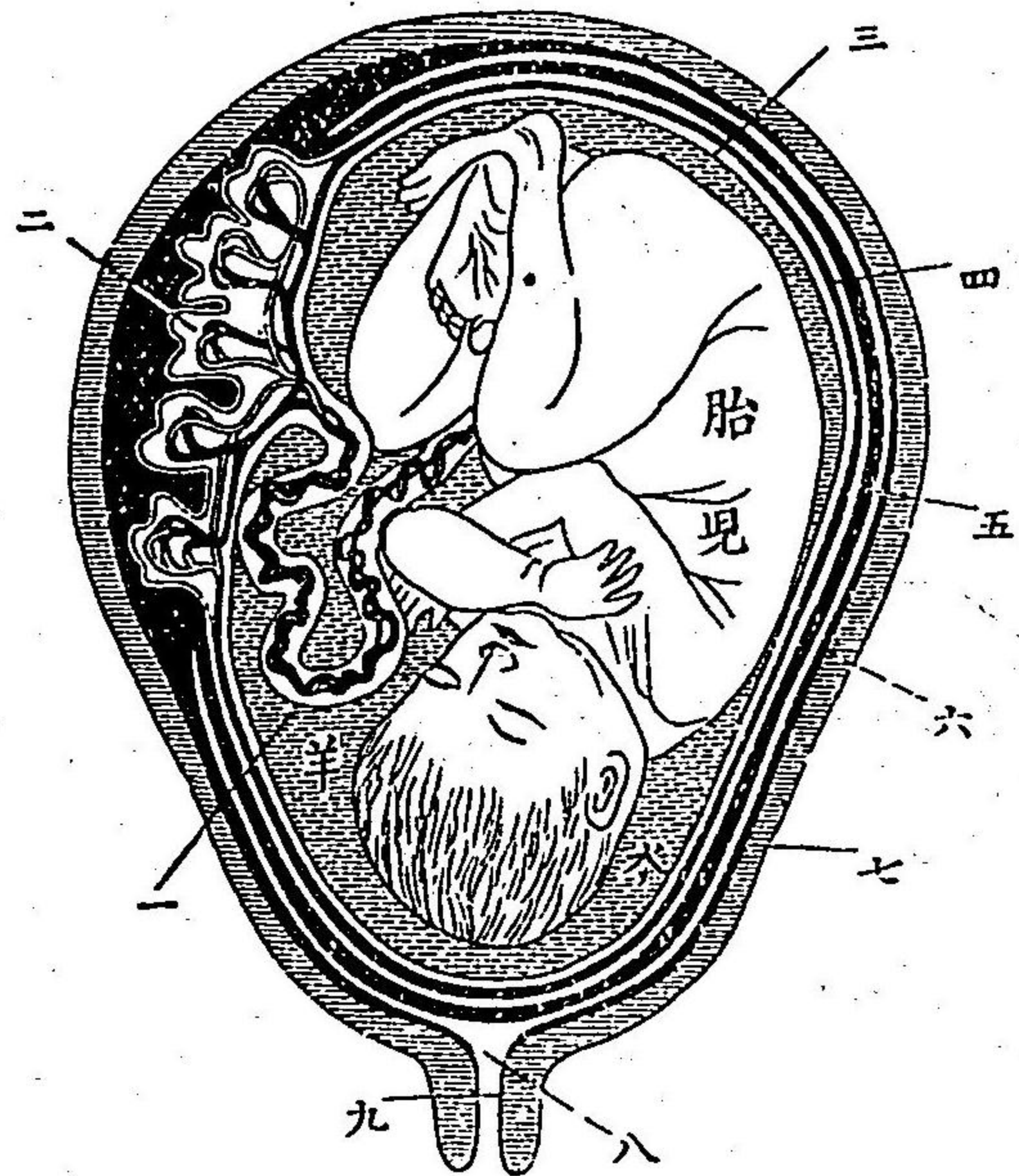
月ノ中旬ニ始マル

第三月末 卵ハ鶩卵大ニシテ卵内ノ胎兒ハ一〇×一〇即チ九仙迷ノ長

サヲ算ス指趾ヲ形成シ臍帶胎兒ヨリ長シ陰莖ナルカ陰核ナルカ不明ニ

シテ男女判スベカラス

第八十七圖
成熟卵
(ル據ニ氏ゲンル)



- 一 臍帶
- 二 胎盤
- 三 羊膜
- 四 絨毛膜
- 五 翻轉脱落膜
- 六 眞胎落膜
- 七 子宮壁
- 八 子宮内口
- 九 頸管
- 十 子宮外口

第八十八圖

初胎兒ノ自然大
(ル由ニ氏スヒ)



八五四

第四月末 身長 4 × 4 16 即チ十六仙迷男女ノ別分明シ毳毛發生ス胎盤完成ス

第五月末 身長 5 × 5 25 即チ二十五仙迷頭髮ヲ生ス

第六月末 身長 6 × 6 36 即チ三十仙迷皮下脂肪組織生スルモ皮膚尚ホ皺襞ニ富ム

第七月末 身長 7 × 7 49 即チ三十五仙迷ヲ算ス皮膚皺襞ニ富ム出產スレバ啼クモ直チニ死ス未ダ生活スルコトヲ得ス

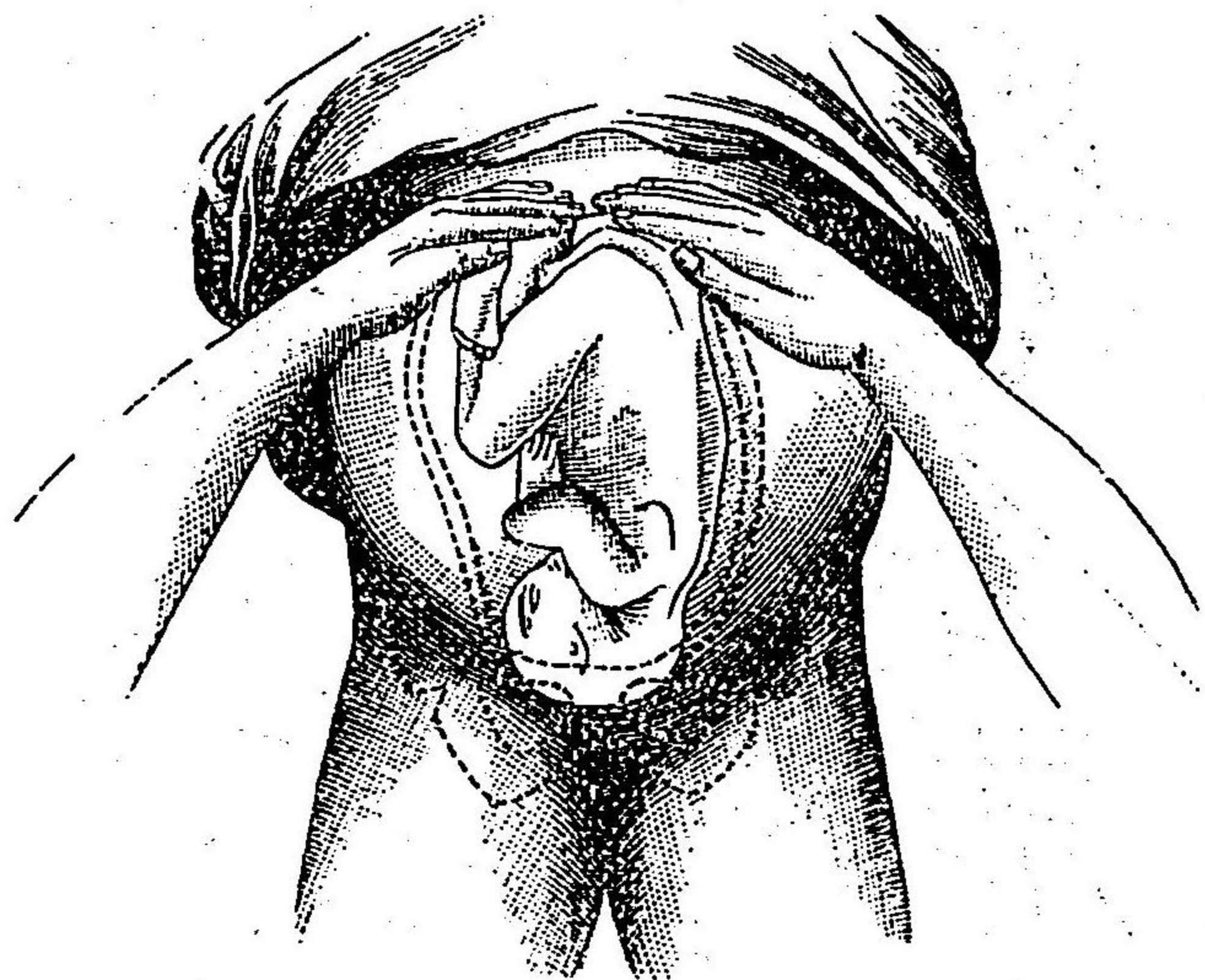
第八月末 身長 8 × 8 64 即チ四十仙迷皮膚尚ホ皺襞ニ富ム注意十分ナレバ出產生活シ得

第九月末 身長 9 × 9 81 即チ四十五仙迷ヲ算ス皮下脂肪發育シテ皺襞ヲ呈セス出產十分ニ生活スルコトヲ得

第十月 身長 10 × 10 100 即チ五十仙迷

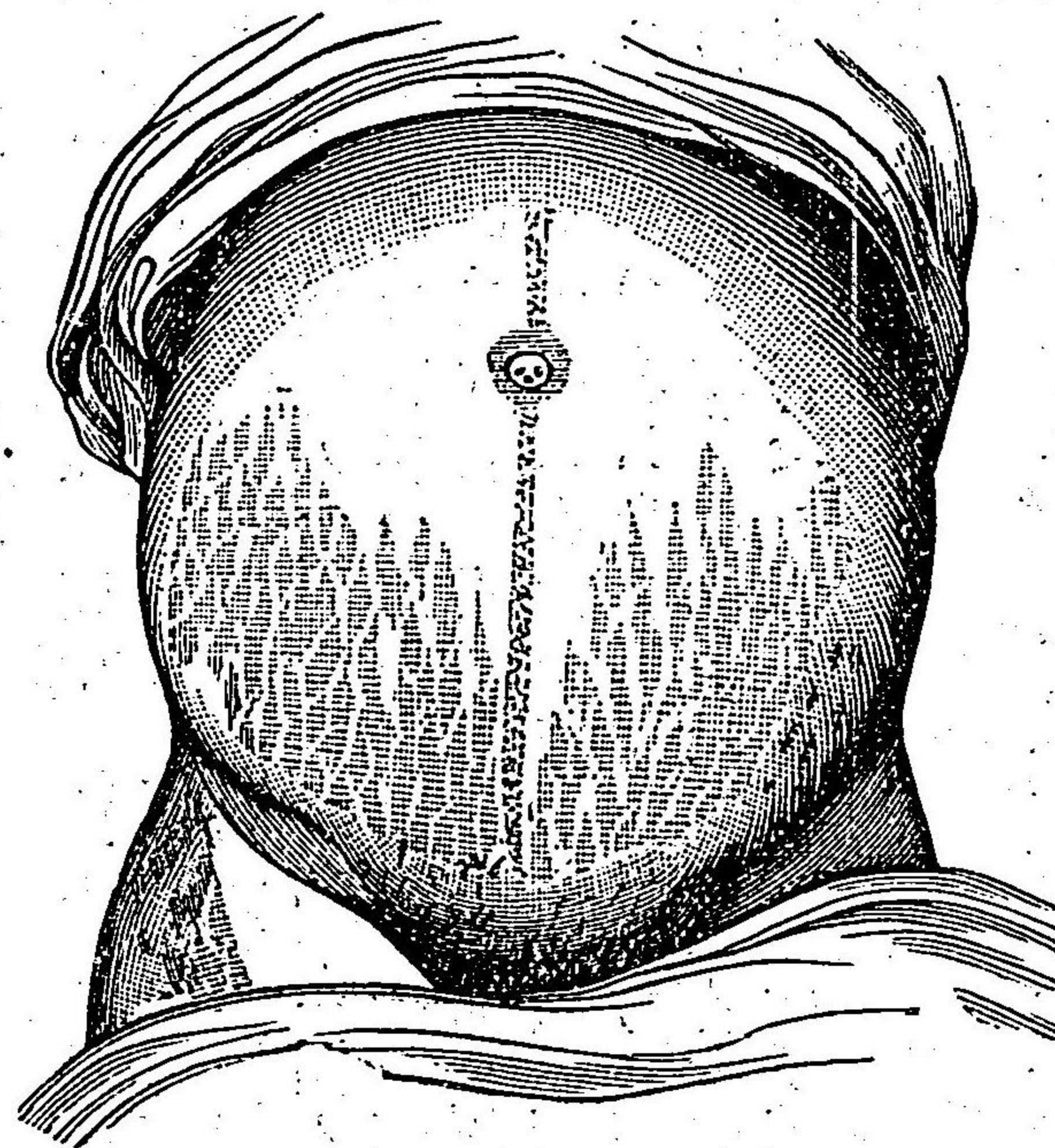
(以上各月ノ身長ハ獨逸人ニ就キテ概算セルモノ日本人ニ於テハ稍ヤ小ナルモノト知ルベシ) 皮膚ニ胎脂ヲ着シ體肥ヘ高聲ニ啼キ尿ヲ泄ラシ胎尿ヲ排ス
胎位、胎向及胎勢 胎位ニ縱位横位ノ二種アリ胎兒子宮内ニ縱ナルトキ

第十九圖



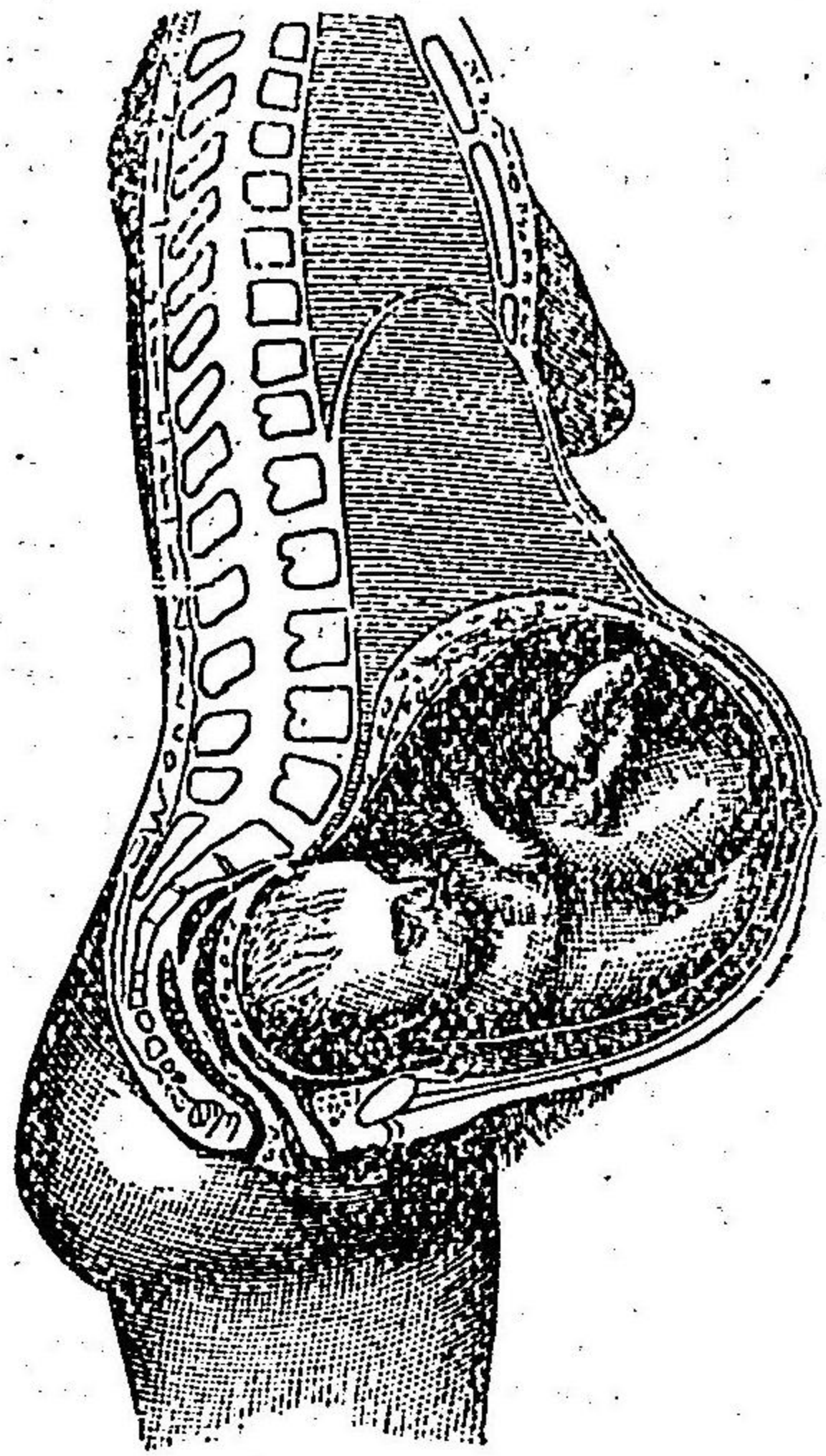
子宮底及胎部ヲ觸診ス
(ル由ニ氏ドルポアレ)

第十九圖



妊娠ノ線圖
(ル由ニ氏ゲシル)

第八十九圖



第一頭蓋
位ノ正規
胎勢ヲ示
ス(妊娠
末期)

(ル由ニ氏ツルユシ)

ハ縦位ニシテ之レヲ普通トス横位ハ稀ニシテ〇、六%ニ過キズ 〇胎兒ノ背母體ノ左側ニ向フトキヲ第一胎向トシ右側ニ對スルトキヲ第二胎向ト云フ第一ハ第二ヨリ多シ 〇胎勢ハ胎兒ノ姿勢ヲ云フ通常第八十九圖ノ如ク背ヲ屈シ頭ヲ胸ニ接シ四肢ヲ屈シテ胸腹ノ前ニ置キ左右ノ前膊及下腿ヲ交叉ス此姿勢ニ異ナルトコロアレバ之レヲ異常胎勢ト云フ

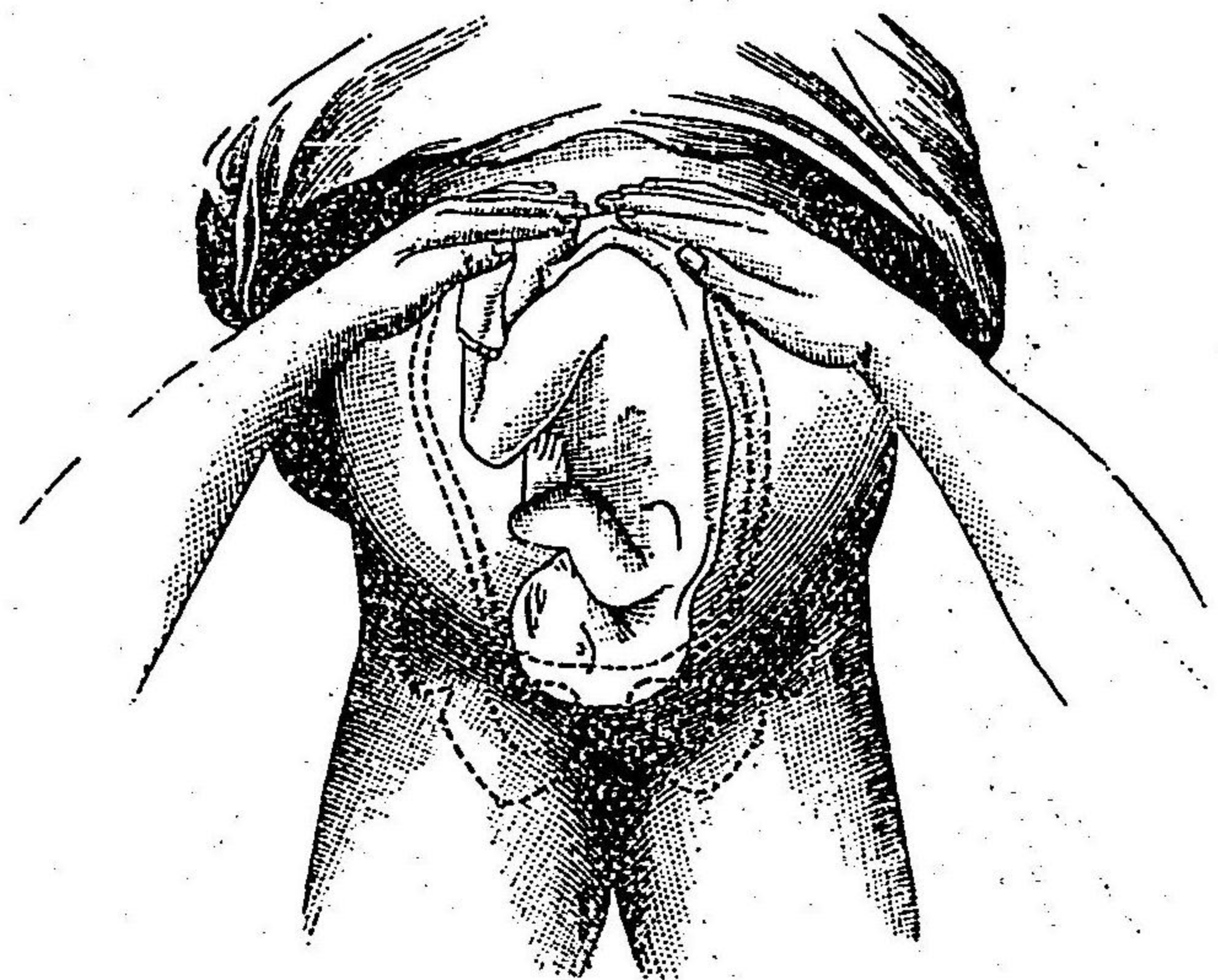
第二十一章 妊婦ノ診察

妊婦ノ診査 先ツ姓名年齢職業既往ノ状態(疾病月經妊娠)等ヲ尋テ現時ノ一般状態(體格榮養歩行狀態)ヲ明カニシ乳房、乳頭、乳腺ヲ診シ次ニ妊婦ヲ仰臥セシメ下肢ヲ屈セシメ腹部一般妊娠線(第九十圖)、及臍窩ヲ視診シ次ニ診者ハ妊婦ノ一側ニ坐シ第九十一圖ノ如ク兩手掌ヲ上腹ニ接シ子宮底ノ位置及是ニ存スル胎兒ノ體部ヲ診シ次ニ第九十二圖ノ如ク兩手ヲ子宮ノ側部ニ送り胎兒ノ脊部及ヒ小體部ヲ觸診シ次ニ第九十三圖ノ如ク一手ヲ以テ恥骨上ニ在ル體部ヲ觸診ス次ニ若シ下方ノ體部深ク骨盤内ニ存スルトキハ診者ハ坐ヲ妊婦ノ頭首ノ方ニ移シ第九十四圖ノ如ク骨盤内ニ兩手ヲ深ク送りテ觸診スベシ以上ノ外診ニ依リテ胎兒ノ大小、胎向胎位移動ヲ知悉スベシ次ニ聽診ヲ行フ即チ聽診器ヲ以テ左ノ諸音ヲ診ス

(甲)胎兒ニ就テ

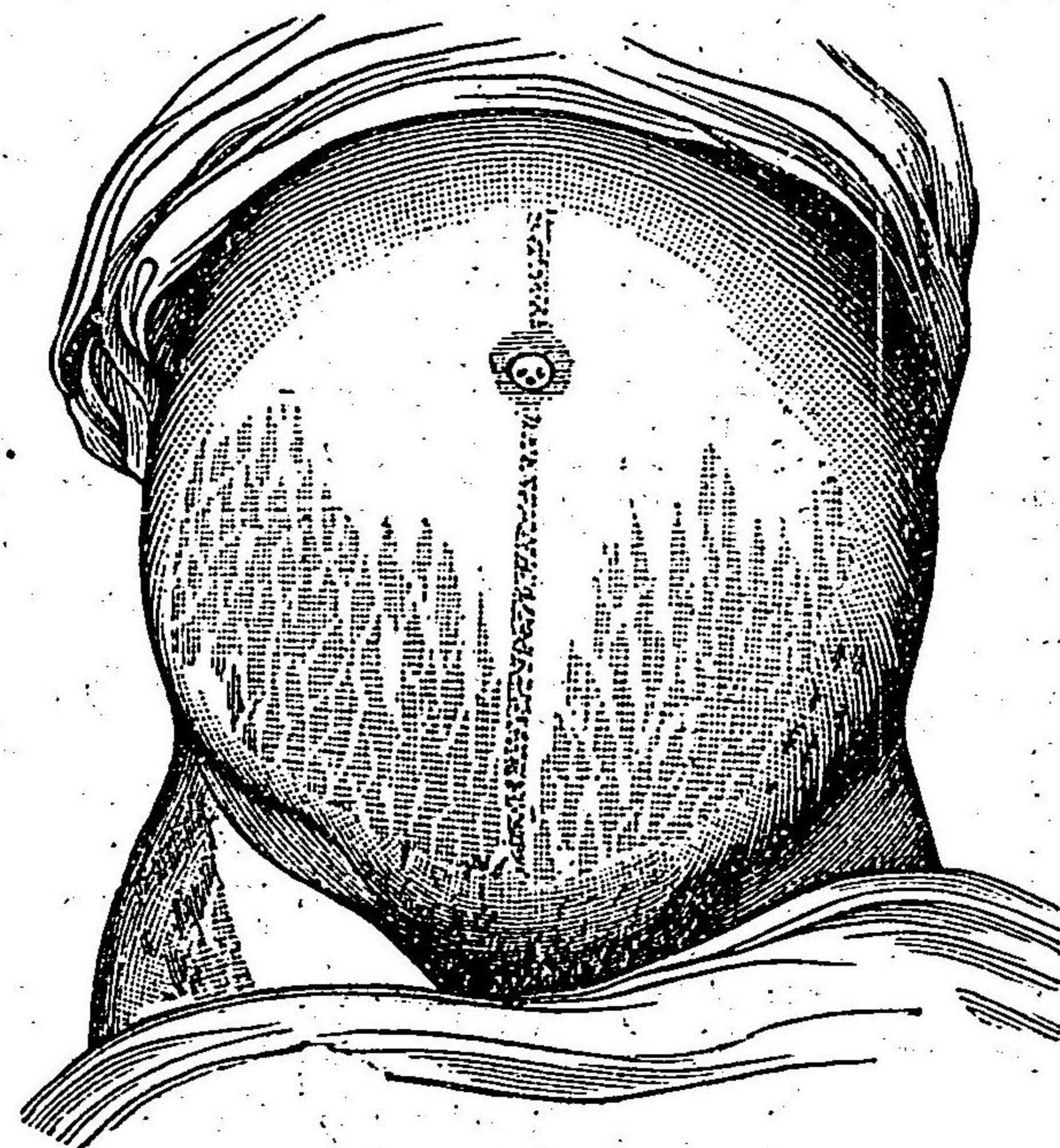
(イ)心音(兒背ニ於テ明カナリ其數約百二十乃至百四十女子ハ男子ヨリ少シク多シ)

第九十一圖



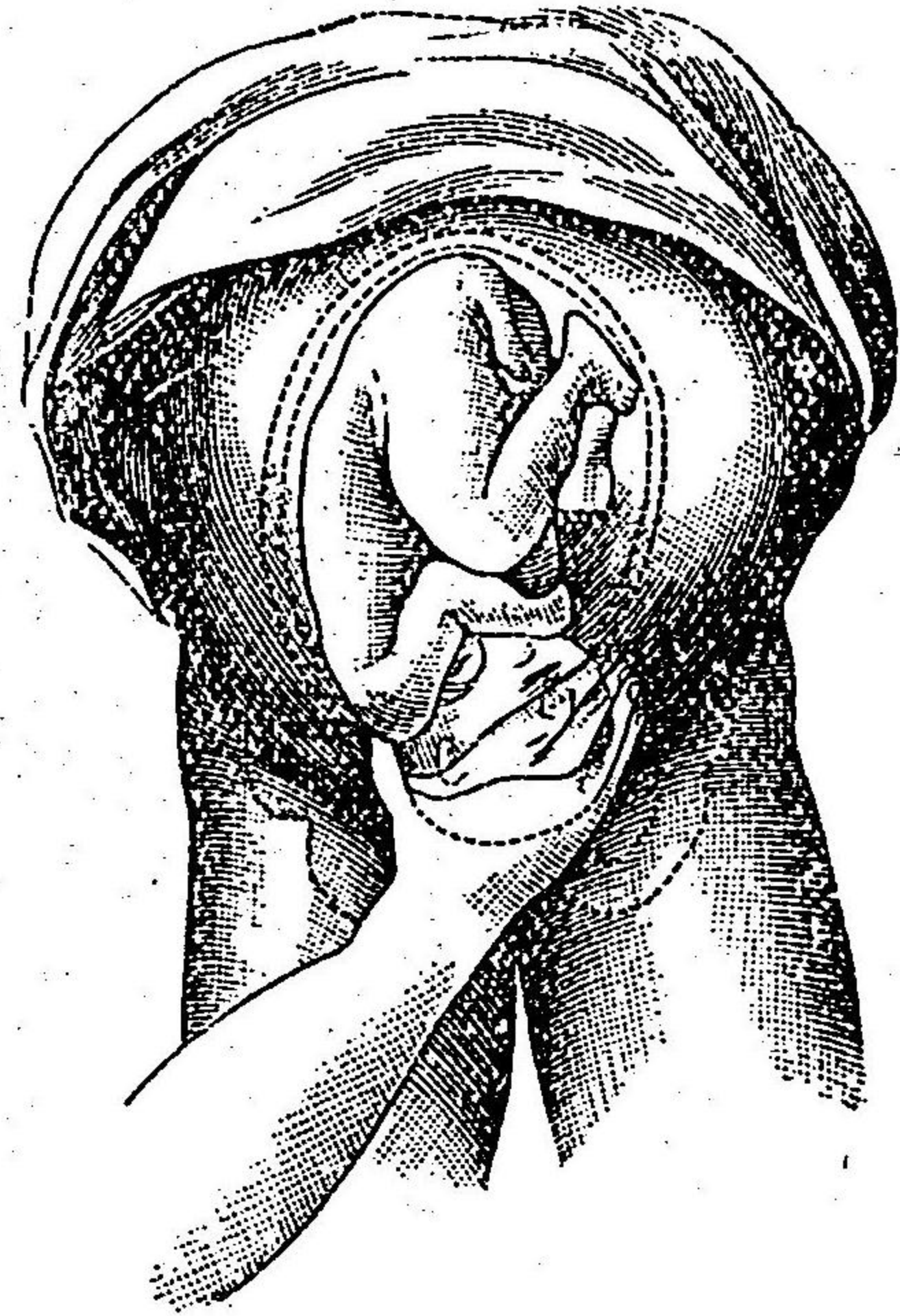
子宮底及胎部ヲ觸診ス
(ル由ニ氏ドルボオレ)

第九十圖



妊婦ノ線圖
(ル由ニ氏ゲシル)

圖 三 十 九 第



ス 診 觸 ヲ 頭 ノ 兒 胎

(ル由ニ氏ドルボオレ)

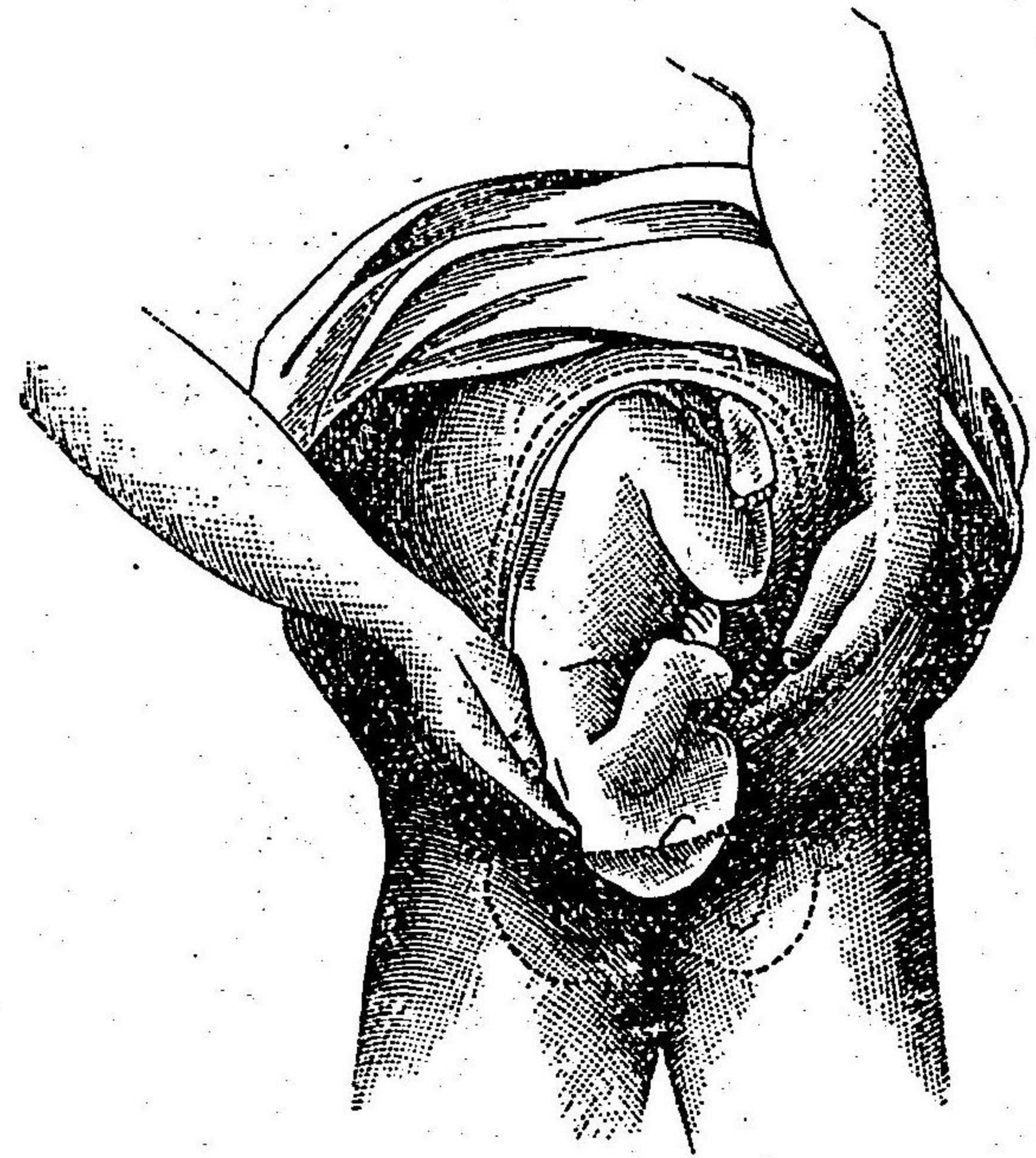
圖 二 十 九 第



診
ス
體
部
ヲ
觸
ノ
背
及
小
側
及
胎
兒
子
宮
ノ
兩

(ル由ニ氏ドルボオレ)

第九十四圖



骨盤内ニ
深ク進入
セル部を
觸診ス

(ル由ニ氏トルボオレ)

- (ロ)胎動雑音(足ト子宮トノ摩擦)
- (ハ)臍帶雑音(稀ニ存ス)
- (乙)母體ニ就テ
- (イ)子宮血管雑音(下腹ノ兩側ニテ聽診ス)
- (ロ)腹部大動脈音
- (ハ)腸内瓦斯雜音

内診ヲ行フニハ先ヅ外陰部腔ヲ消毒シ診者ノ手ヲ十分ニ消毒シ而後示指若クハ示指ト中指ヲ腔ノ後壁ニ沿フテ送入シ左ノ諸件ヲ診ス

- 一 尿道ノ状態(疼痛ノ有無)
- 二 胎兒先進部及其位置(前腔穹窿部ヨリ)
- 三 子宮腔部ノ状態(長短、形状、子宮口ノ形状)
- 四 會陰ノ硬軟(内ハ示指外ハ拇指ヲ以テ會陰ヲ狹ム)
- 五 尾骶骨ノ尖端薦骨尾骶骨關節ノ運動性
- 六 腔ノ廣狹、硬軟、恥骨頭廣狹

雙合診ハ内診ト同時ニ他手ヲ下腹上ニ接シテ子宮ヲ下方ニ壓シテ内診中ノ手ヲシテ觸診ニ容易ナラシムルノ法ニシテ子宮ノ硬軟、胎兒ノ體部移

動性等ヲ診スルニ便ス

第二十二章 妊娠ノ診斷

古來ヨリノ習慣ニ由リ確徵疑徵不確徵トス

確徵 胎兒心音ヲ聽取ス胎兒ノ部分ヲ明カニ觸知スルコト他覺的ニ胎兒運動ヲ認ム臍帶雜音

疑徵 月經閉止ヘガール氏徵候子宮球狀ニ増大スルコト觸診時子宮收縮

腔部穹窿部軟化帶青赤色トナル乳房ノ變化腹壁妊娠線及臍窩全ク扁平又ハ水泡狀ニ隆起ス乳房外陰部白線稀レニ顔面等ニ着色ス

不確徵 自覺障害即チ最モ多キハ惡心嘔吐トス其他身體倦怠、憂鬱、頭痛、眩暈、薦骨痛、腰痛、齒痛、浮腫、尿意頻數等ナリ

妊娠時期ノ診斷

一ヶ月ノ末 月經ナク子宮腔部ハ軟化帶赤色ヲ呈シ子宮少シク増大ス

二ヶ月末 子宮大凡鶯卵大外子宮口ハ圓形、白線ハ多少着色ス膀胱壓迫症惡心嘔吐乳房一時性刺痛

三ヶ月 子宮ハ兒頭大子宮益々軟化シ殆ンド膠ニ觸ル、ガ如キ感アリ

リ

第四ヶ月 子宮底ハ耻骨縫際ヲ越ヘテ大骨盤ニ出デ大サ大人頭大トナル腹壁多少膨大ス子宮雜音ヲ聞ク

第五ヶ月 子宮底ハ耻骨縫際ト臍部ノ中央ニ來リ子宮ハ多少長軸ニ廻轉シ左縁ハ前方ニ出デ下腹著シク膨隆ス白線ノ著色著シ又妊娠線ヲ見ル著シキ子宮腔部軟化乳房緊張モントコメリー氏線著名能ク注意スルトキハ胎兒心音ヲ聞クコトアリ

第六ヶ月末 子宮底ハ殆ンド臍部ニ達シ子宮體ハ殆ンド球狀胎動ヲ感シ子宮腔部ハ舉上シ腔部肥大スル故ニ幾分カ短縮シタルカ如ク見ユ第七ヶ月末 子宮底ハ臍部ヨリ二指横徑ニ在リ臍窩ハ扁平胎兒移動シ易ク時々其ノ位置ヲ變ズ

第八ヶ月末 子宮底ハ臍部ト心窩ノ中間ニ達シ側方ハ殆ンド肋骨弓ニ達ス歩行時 Stolzgang (反身歩行) ナス下肢ニ浮腫胸部側方ニ疼痛ヲ訴フ腹圍ハ本邦人ニ於テハ平均七二乃至七五仙迷ナリ

第九ヶ月末 子宮底ハ心窩ニ達シ呼吸困難外子宮口ニ指ヲ挿入シ得經産婦ハ全子宮口ニ指ヲ挿入シ得胎兒ノ部分ヲ觸知シ得時々妊娠陣痛

ヲ起ス

第十ヶ月 子宮底降り臍部ト心窩ノ中央ニ來ル呼吸困難緩解シ臍窩水
泡狀トナル子宮腔部ノ前唇ハ消失ス腹圍本邦人ハ平均八五乃至九〇
仙迷

第二十三章 妊婦ノ攝生法

妊娠ハ元來生理的機能ナルヲ以テ平素ノ生活法ヲ持續スルヲ要ス然レモ
凡テ(過度ノ勞働長途ノ步行乘車、重荷ノ提舉等)ヲ避ケ毎日一定ノ勞働
精神作用ヲ營マシムレバ身體爽快トナリ且妊娠ニ對スル憂鬱ノ念ヲ去ラ
シムルヲ得、○飲食物ハ可成消化シ易クシテ滋養ニ富メルモノヲ適度ニ
用ユベク強テ平素ノ習慣ヲ破ルニ及バザルモノ不消化ナルモノ及峻烈ナル
モノ假令芥子、蕃椒、山葵等ヲ用ユベカラズ其他酒精飲料モ用井ザルヲ可
トス○衣服ハ氣候ニ從ヒ撰擇ス可キハ勿論常ニ寬濶ナルヲ可トス○便通
ヲ整ヘ若シ便秘スルトキハ早朝適度ノ運動ヲ命ジ且ツ其後ニ一椀ノ冷水
又ハ冷牛乳ヲ飲マシメ加之毎朝一定時ニ上圍セシム可シ其他果物ヲ食セ
シメ或ハ結晶カル、ス泉鹽、硫酸苦土等ノ緩下劑ヲ與ヘ又ハ灌腸ヲ行フ

ベキモ峻下劑ハ決シテ用ユベカラズ○乳房ハ毎日一回冷水又ハ酒精ヲ以
テ能ク之ヲ拭淨シ且ツ乳嘴發育不良或ハ陷沒セルモノニアリテハ之ヲ提
舉セシムベシ

婦人ノ入浴ハ差支ナキノミナラス妊娠ノ後半期ニ於テハ勉メテ入浴セシ
ムベシ但シ温度ノ適當ナランコトヲ要ス冷ニ過キ熱キニ失スル時ハ共ニ
害アリ○精神ハ常ニ安靜ヲ要ス殊ニ初妊娠ニ然リ凡テ精神感動ヲ惹起ス
ルガ如キコトハ可及的之ヲ避クルコトヲ要ス且妊娠中ハ時トシテ失神卒
倒スルガ如キコトアレバ劇場寄席等ノ如キ衆人群集ノ場處ニ至ルコトヲ
避クベシ

○第二十五章 産婦ノ診査

産婦ヲ診スルニハ左ノ順序ニ從フベシ

甲、問診

- (1) 姓名年齢職業
- (2) 兩親及同胞ノ健康狀態
- (3) 小兒時代ノ疾病
- (4) 月經ノ開始時期及爾後ノ經過
- (5) 爾後ノ疾病
- (6) 最終ノ月經、時期及持續
- (7) 分娩ノ有無、若シ有リタルモノハ其妊娠分娩及産褥ノ經過
- (8) 流産ノ有無、有リタルトキハ何ケ月ナリシヤ及其原因
- (9) 子女ノ健否

乙、一般ノ診査

- (1) 體格及榮養
- (2) 肺及心ノ診査

- (3) 體温、脈搏、呼吸
 - (4) 畸形ノ有無
 - (5) 下肢ノ診査(浮腫、靜脈瘤)
 - (6) 尿ノ検査(尿白及圓塊)
- 丙、産科科診査
- (1) 乳房ノ視診(形狀、大小等)及觸診、腺實質ノ多少及分泌物ノ有無)
 - (2) 腹部ノ視診(形狀、大小、妊娠線、臍ノ狀態、白線ノ着色、浮腫、靜脈瘤、胎動、脊椎及骨盤腹壁ノ狀態)
 - (3) 腹部ノ觸診
 - (イ) 腹壁ノ狀態(皮下脂肪組織ノ厚サ緊張ノ度)
 - (ロ) 子宮底ノ位置及壁ノ抵抗及疼痛
 - (ハ) 兒頭ノ位置(兒頭ハ護謨球ノ如ク手ニテ壓却スルモ反挑シ來ル大ニシテ硬ナルモノ)
 - (ニ) 兒ノ臀部ノ位置(大ニシテ軟ナル部)
 - (ホ) 四肢ノ部分

(へ) 兒背ノ位置(廣クシテ抵抗アル面)
(ト) 胎動

(4) 聽診

- (一) 胎兒ニ就テ
- (イ) 心音(數、正不正、音ノ清雜、其最モ著明ナル部位)
- (ロ) 臍帶雜音
- (ハ) 胎動音
- (一) 母體ニ就テ
- (イ) 子宮雜音
- (ロ) 腹大動脈音
- (ハ) 腸内雜音

(5) 測定

- (イ) 腹ノ周圍(呼氣ノ際正常八十五仙迷)
- (ロ) 臍及子宮底ノ高サ(恥骨縫際上線ヨリ計ルモノトス)
- (ハ) 骨盤ノ測定(獨ハ獨逸婦人日ハ日本婦人)
仰位ニ於テ

一、腸骨前上棘ノ距離(獨二十五仙迷)

二、腸骨櫛ノ最大距離(正常日二十八仙迷)

側位ニ於テ

三、外結合線或ハポーゾロツク氏形即チ第五腰椎棘狀突起
恥骨縫際ノ前面トノ距離(二十仙迷)

四、外斜徑、即チ一側ノ腸骨後上棘ト他側ノ前上棘トノ距離
(獨二十二仙迷)
(日二十仙迷)

(6) 內診

(イ) 子宮外口ノ診查先ツ陰門及腔ノ状態ヲ明ニシタルノ後チ外口
ノ所存、大小形狀、外口唇ノ状態方向、)

(ロ) 子宮頸及腔部ノ長サヲ診查ス

(ハ)ノ上 胎胞未ダ破レザルトキハ卵膜緊張及厚サノ如何ヲ診查ス

(ハ)ノ下 胎胞破綻後ナレハ臍帶四肢ノ脱出シアルヤ否ヤ搏動シツ
、アルヤ否ヤ

(二) 先進體部ノ大小、形狀、硬度及移動性ヲ查ス(縫合及顛門、口及
顛肛門及薦骨棘狀突起、肩胛若クハ鎖骨及肋骨)

(附) 胎兒ノ位置

(一) 頭蓋位(全分娩ノ九十五%)

甲、後頭位或ハ單ニ頭位

トモイフ

第一後頭位(兒背子宮ノ右側ニ
面ス)第九十五及第九十六圖
第二後頭位(兒背子宮ノ右側ニ
面ス)第九十七及第九十八圖

乙、前顛位(稀ナリ)

第一前顛位(或ハ第四頭蓋位トモイフ)
第二前顛位(或ハ第二頭蓋位トモイフ)

(二) 顔面位(〇、六%)

第一、第二ニ分ツコト
前ハ如ク以下同シ

(三) 額位(稀有ナリ)

(四) 骨盤端位(四%)

(五) 斜位(橫位)〇、四%

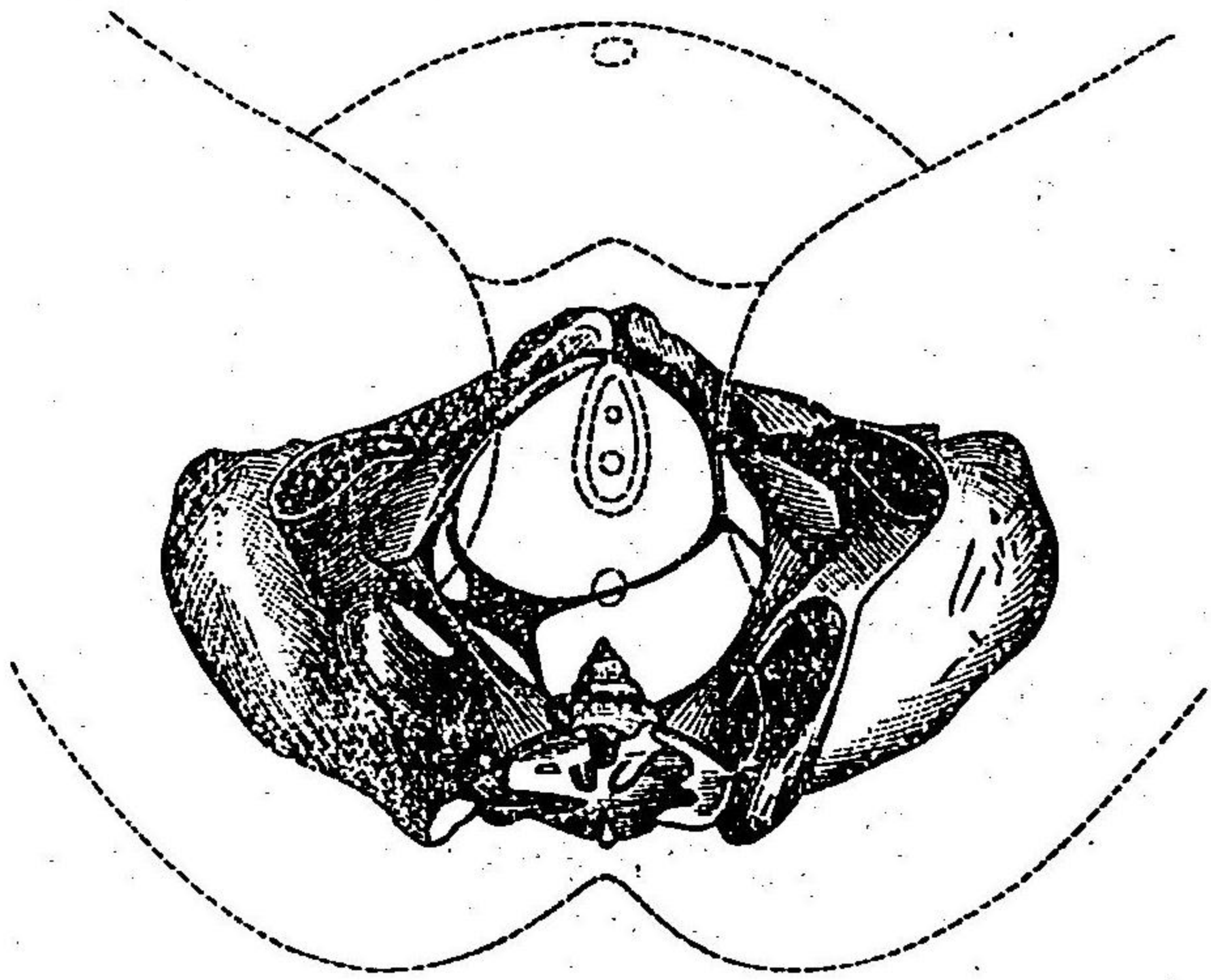
第一橫位(兒頭ノ子宮左側ニ位スルモノ)
第二橫位(前ニ反ス)

(ホ) 先進部ノ骨盤内ノ位置

(ハ) 對角直徑線ノ測定

醫師ノ產婦ヲ診スルヤ其時期ノ如何ニ從ヒ診查ノ順序ヲ取捨變更セザル

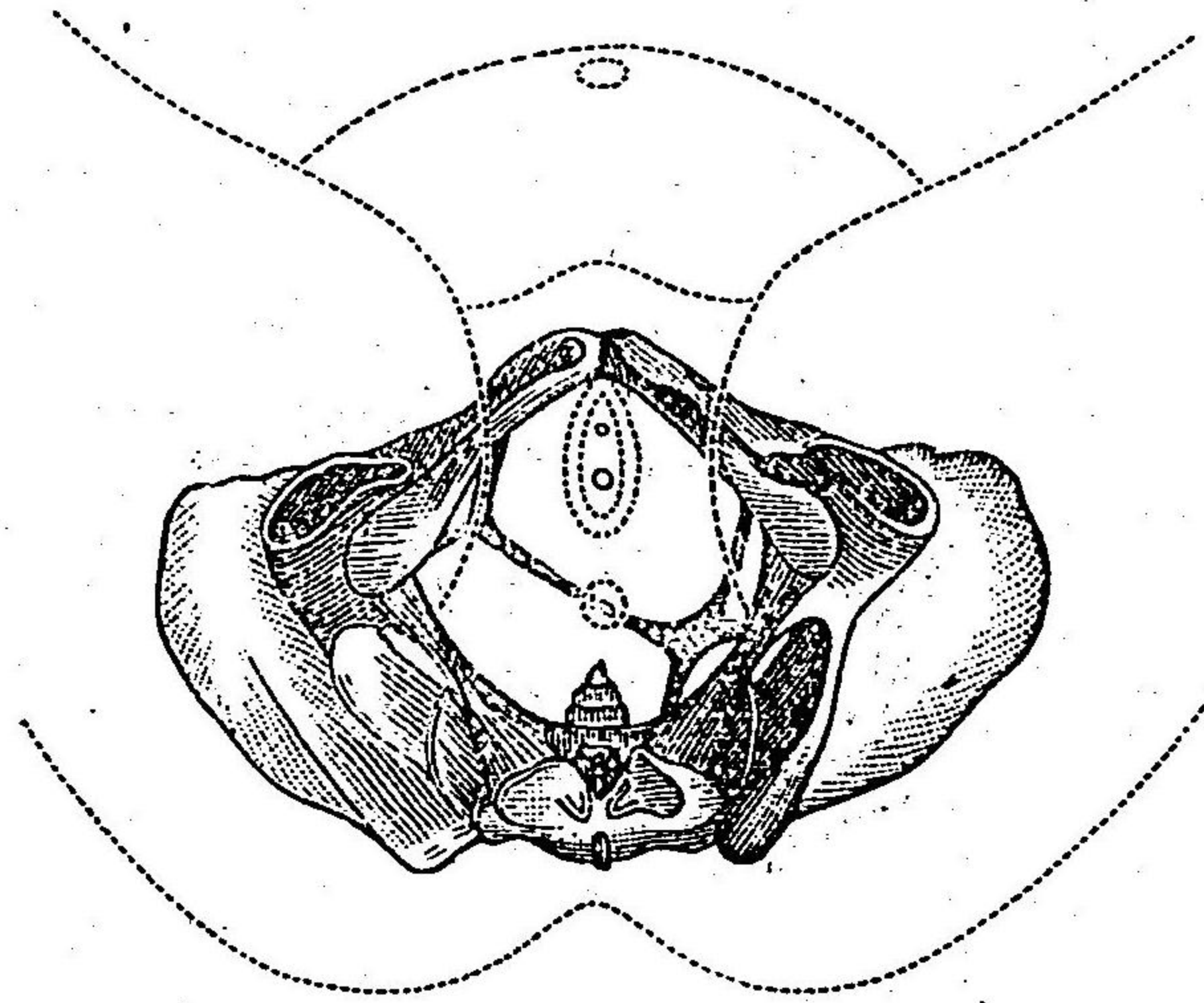
第九十五圖



第一頭蓋
位ニ於テ
矢狀縫合
ト右斜徑
線ト一致
ス(分娩
ノ初期)

(ル由ニ氏ドルボオレ)

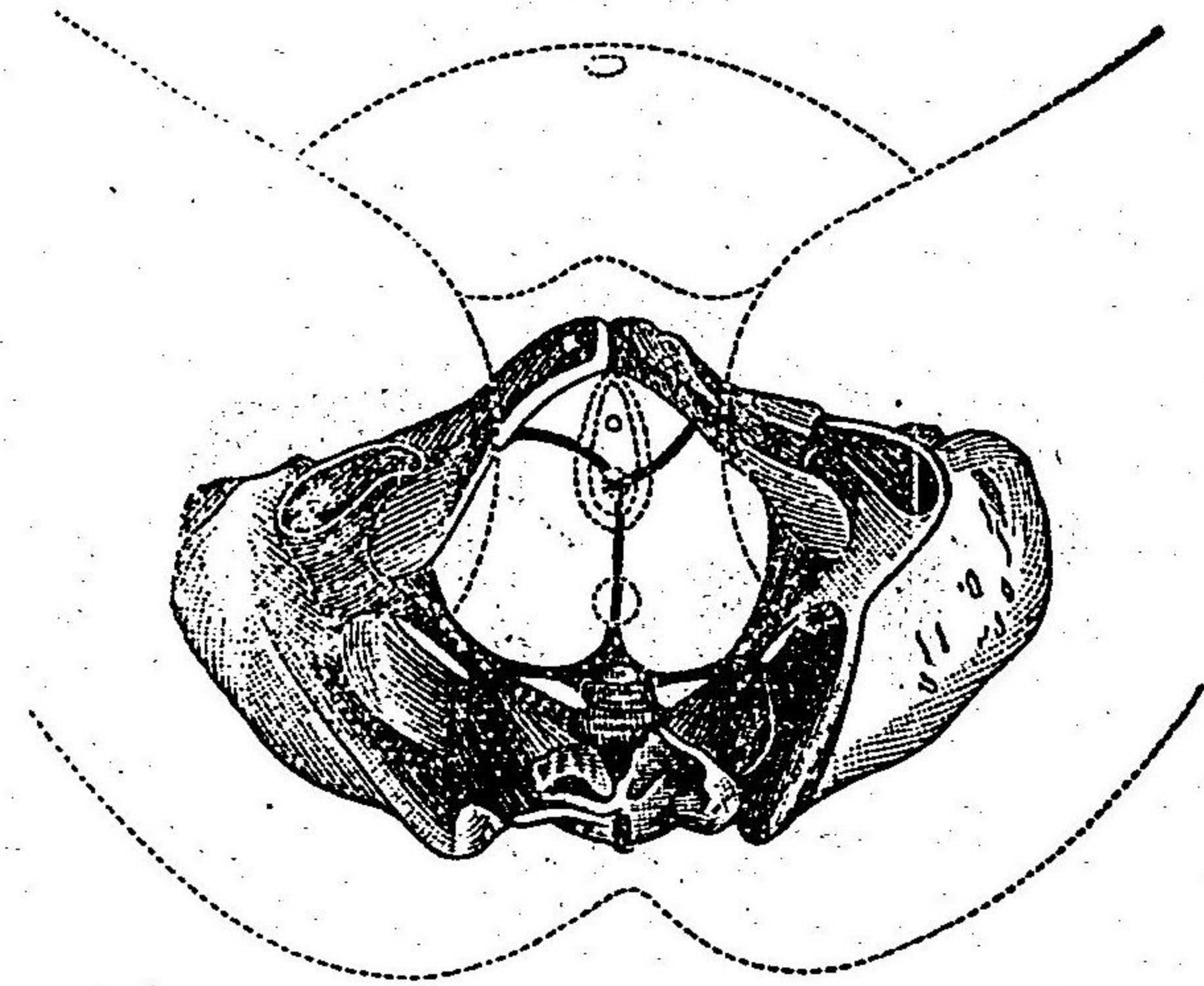
第九十七圖



第二頭蓋
位ニ於テ
矢狀縫合
ト左斜徑
線ト一致
ス(分娩
ノ初期)

(ル由ニ氏ドルボオレ)

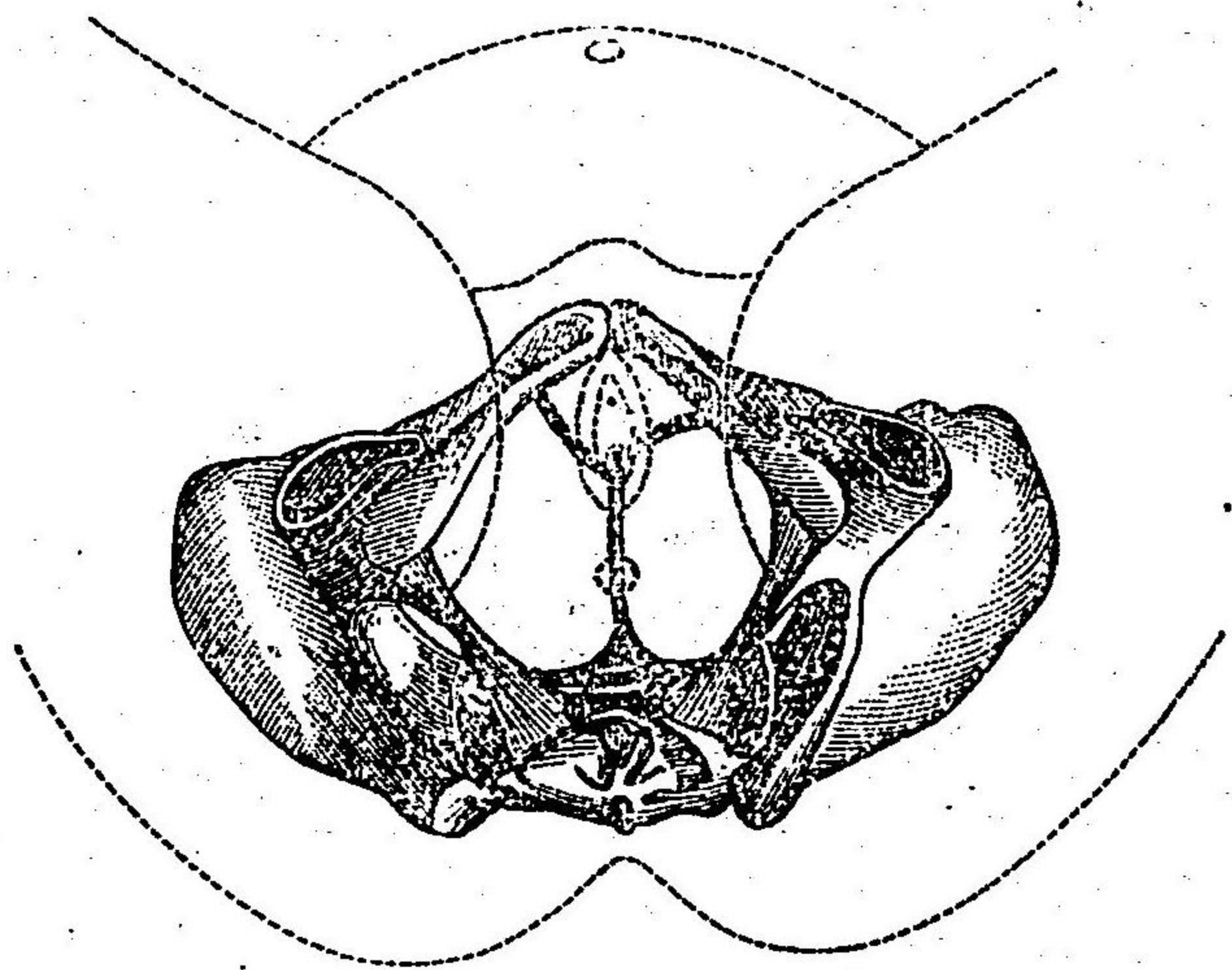
第九十六圖



第九十五
圖ヨリ轉
シタルモ
ノニソ矢
狀縫合ト
骨盤出口
直徑ト一
致ス(骨
盤出口ニ
達シタル
時)

(ル由ニ氏ドルボオレ)

第九十八圖



第九十七圖ヨリ轉シタルモノニシテ矢狀縫合ト骨盤出口直徑線ト一致ス(骨盤出口ニ達シタル時)

(ル由ニ氏ドルボオレ)

ヲ得スト雖モ分娩マデ尙ホ充分ナル時間ヲ有スルトキハ以上ノ順序ニ從フベシ

○第二十六章 分娩ノ處置

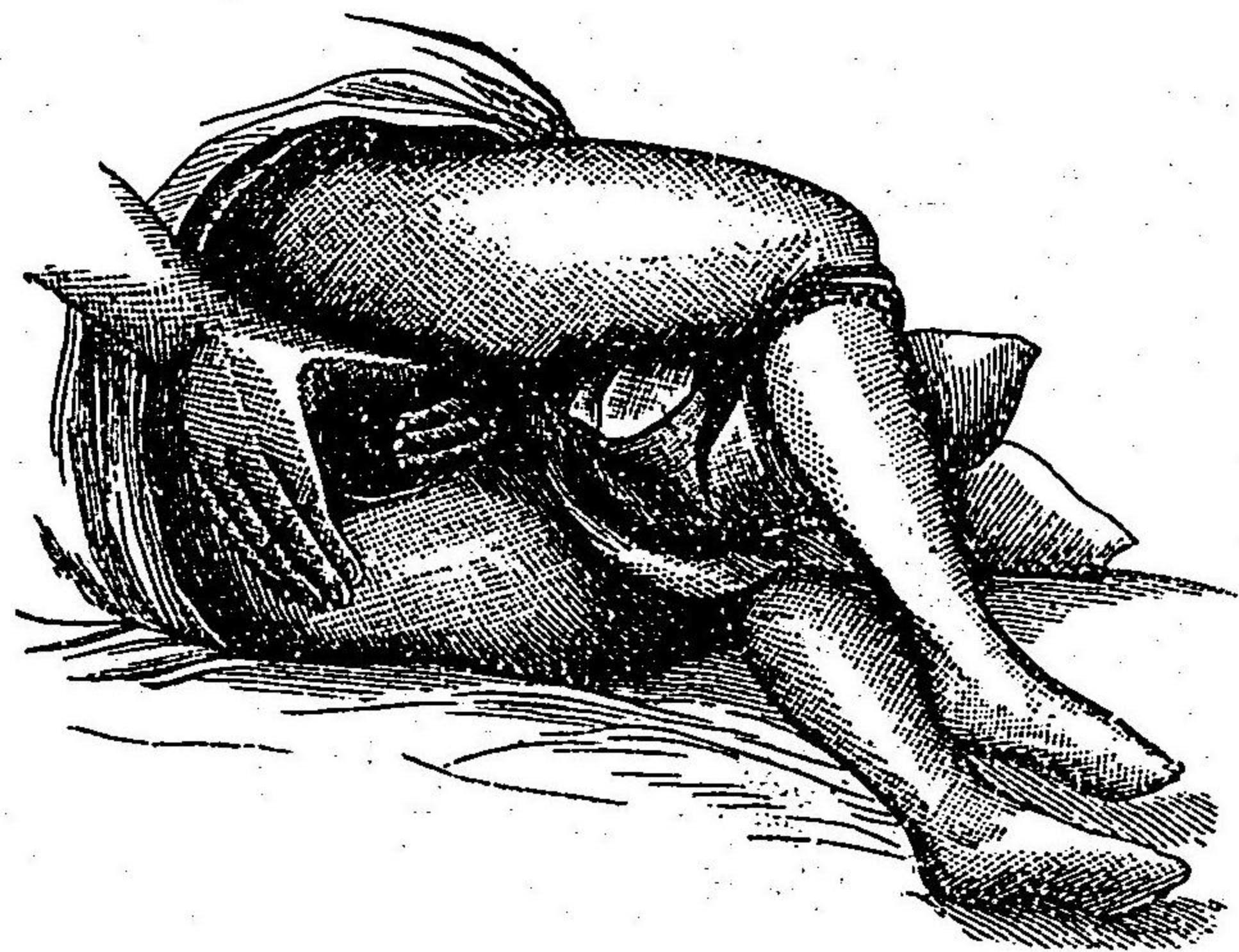
甲 開口期及產出期

- (一) 内診ヲ行フトキハ
- (イ) 産婆ニ命シテ産婦ヲシテ適當ノ位置ヲ(膝ヲ屈シ股ヲ開カシム)取ラシムベシ
- (ロ) 陰部ヲ一%リゾール水(或ハ二%石炭酸水)ヲ以テ洗フベシ但シ腔内ノ洗滌ハ膿様若クハ惡臭アル分泌液ノ存在スルトキニ行フベシ普通ノ場合ニ行フベカラズ
- (ハ) 醫師ハ手及前膊ヲ消毒シ手術衣ヲ着スベシ(消毒法ハ種々アリ例ヘバ石鹼温湯ヲ用井刷子ニテ三分間洗ヒ後二%リゾール水ニテ三分間洗フガ如シ)
- (ニ) 一手ノ示指及拇指ニテ小陰唇ヲ開キ他手ノ示指及中指ヲ腔内ニ送入シテ内診スベシ

- (一) 第一期ナルトキハ産婆ニ命ジテ灌腸セシムベシ
- (二) 陣痛増劇、子宮口開大セバ産床ニ就カシムベシ胎水ノ漏泄後直チニ娩出スルコト多ク且ツ羊水ノ漏泄ハ産婦平臥ノ位置ニ於テナサシムベキモノナリ
- (三) 胞破レ胎水出レバ其液ノ清ナルカ濁ナルカ(胎尿)綠色(死兒)ナルカヲ檢シ且ツ其ノ時間ヲ記スベシ
- (四) 陣痛ノ性質産婦ノ状態(體温脈搏等)胎兒ノ状態(心音臍帶雜音)ハ頻回診察スベシ
- (五) 内診ハ先進部ニ異常位置アリタルトキ其正常位ニ變シタルヤ否ヤ若クハ兒頭尙ホ高キトキ胎胞破レタルトキ肢若クハ臍帶ノ脱出ヲ來タシタルヤ否ヤヲ定ムル爲メノ他ハ猥リニ之レヲ反覆スベカラズ
- (六) 産婦過敏ナルトキハ兒頭ノ子宮口ヲ出ルノ際及陰門ヲ出ツルノ際ニ短時間ノ「クロ、ホルム」麻醉ヲ用ユルコトヲ得
- (七) 産出期ニ於テハ産婦自ラ努責ヲ始ムベシ其際産婆ニ命ジテ努責ノ方法ヲ教ヘシムベシ(手足ヲ他物ニ當テ、固定シテ之レヲ營マシム而テ陣痛休止スレバ努責モ休止ス)若シ約半時ヲ過グルモ産機發展ヲ見ザレバ一時努責ヲ休止シ時期ヲ待ツテ更ニ開始セシム

- (九) 會陰保護法ハ經産婦ニ在リテハ陣痛時兒頭ヲ認メ得ルヤ直チニ之レヲ行ヒ初産婦ニ在リテハ陣痛休止時ニ於テモ兒頭陰門ニ停止スルヲ待チテ之ヲ施スベシ而シテ此ノ期ニ到レバ努責ヲ禁ス其法二種アリ
 - 一 側臥保護法 第一頭蓋位ニハ左側(第二頭蓋位ニハ右側ニ臥サシメ)百圖ノ如ク膝間ニ大枕子ヲ入レ施術者ハ背側ニ座シ肛門及會陰部ニ殺菌綿花ノ一片ヲ貼シ消毒セル手ノ拇指ト四指トヲ各陰唇ニ接着シ他ノ手ヲ恥骨縫際ヨリ股間ニ送りテ兒頭ヲ支持ス而シテ陣痛發スレバ會陰ノ手ヲ以テ兒頭ヲ骨盤内ニ壓シ恥骨縫際ヨリセル手ヲ以テ兒頭ヲ前方ニ牽引ス前額露出スルノ際會陰ノ手ヲ以テ會陰ヲシテ顔面ヲ拭フガ如ク之レヲ推送シテ顳部ヲ出サシムベシ顳部出ツレバ本術完了ス
 - 二 仰臥保護法 第一百圖ノ如ク仰臥ヲ命シ膝ヲ屈シ脚ヲ開キ大枕子ヲ臀下ニ入レ施術者ト産婦ノ右側ニ座ス而シテ肛門及會陰後部ニ殺菌綿花ヲ貼シ圖ノ如ク手ヲ接着ス其後ハ全ク側臥ニ於ケルト同シ
- (十) 兒頭産出スレバ頸部ト臍帶ノ纏絡ナキヤ否ヤヲ檢シ之レヲ發見スル

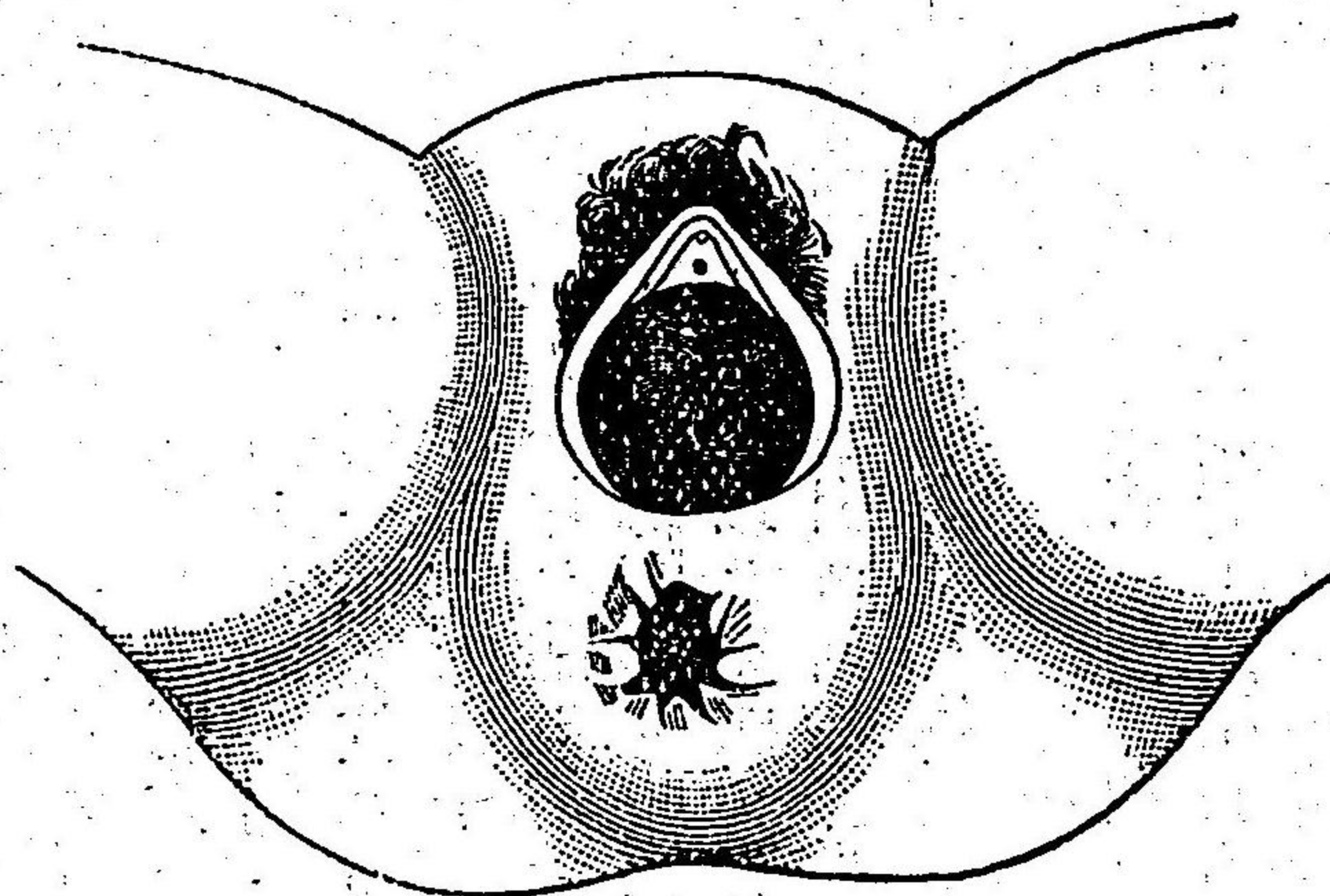
圖 百 第



法 護 保 陰 會 臥 側

(ル 由 ニ 氏 ゲ ン ル)

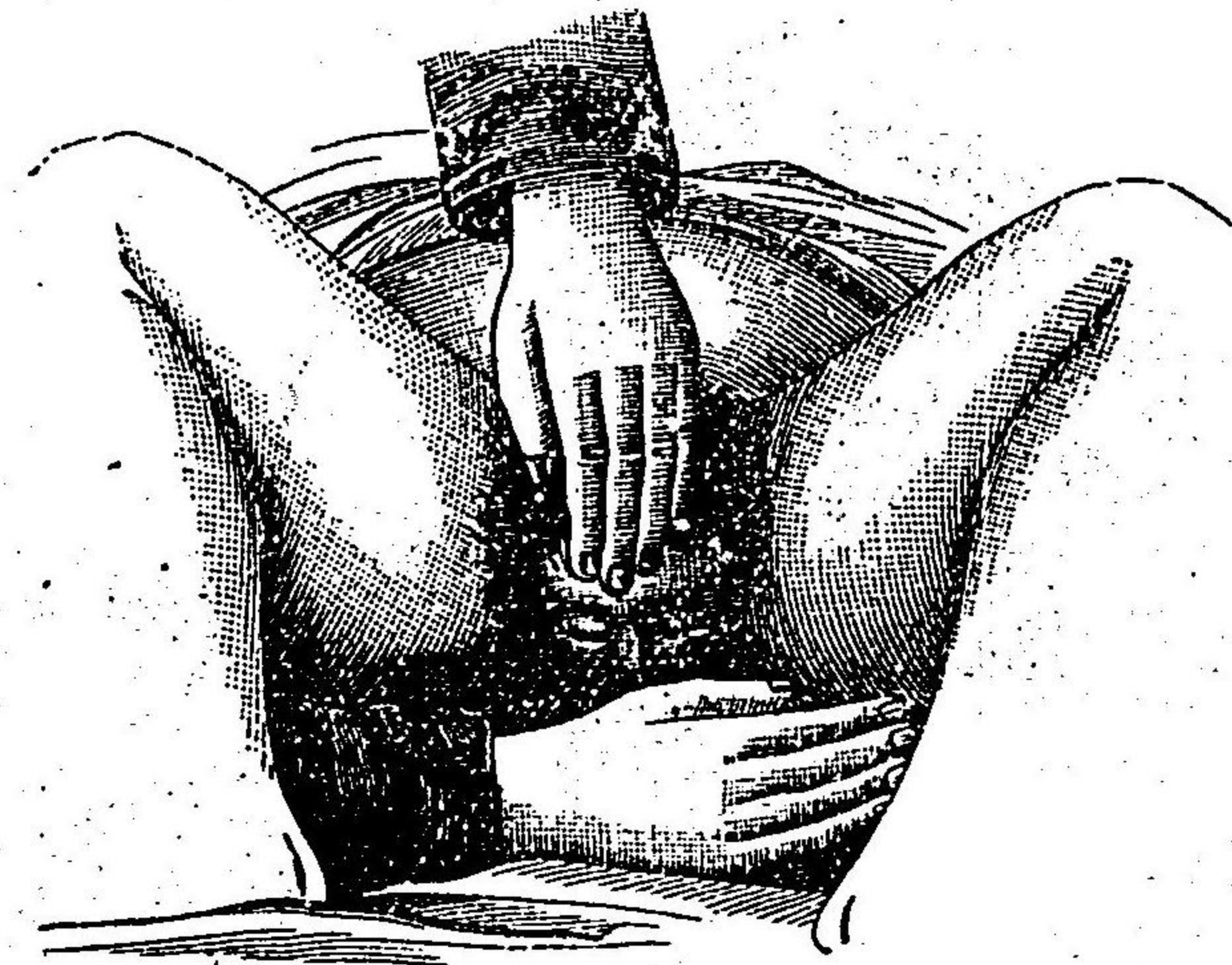
圖 九 十 九 第



ス 開 哆 門 肛 脹 膨 陰 會 出 露 頭 兒

(ル 由 ニ 氏 ー リ メ ス)

第 百 一 圖



仰臥會陰保護法

(ツワイツル氏ニ由ル)

トキハ輕ク之ヲ牽キテ緩クシ頭ヲ廻ラシテ胸ニ送ルベシ若シ緩クスル
コト能ハザレバ後肩胛上ニ推移スベシ之レヲモナシ得ザルトキハ剪刀
ニテ切ルヲ可トス兩結紮ヲ行ヒ能ハザレバ直チニ切離シ直チニ兒體ヲ
挽出スベシ

(十一) 兒頭産出スレバ其強啼及臍帶脈搏消失ヲ認ムルヤ直チニ臍ヲ去ル
八仙迷ニ於テ臍帶ニ二個ノ結紮ヲ施シ第三ノ結紮ヲ施シ第三ノ結紮ヲ
陰門ニ接スル部ニ於テ施ス(第三結紮糸ハ後産進行ノ程度ヲ知ル爲)
シテ二個結紮ノ中間ヲ切離ス

(十二) 兒體産出後産婦ノ下腹ヲ按診シ子宮ノ良ク收縮セルヤ其底ノ何處
ニアルヤヲ知ルベシ

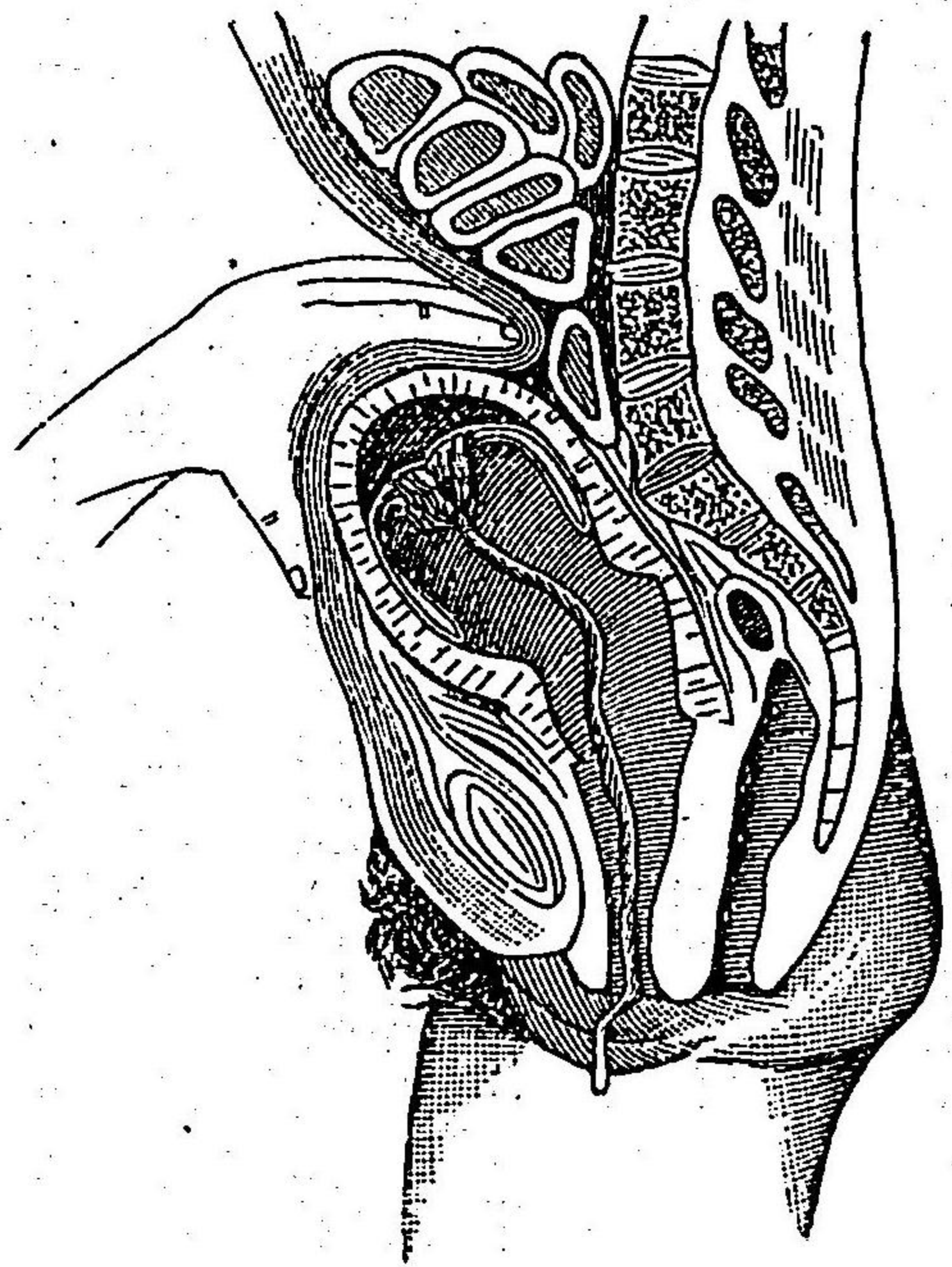
乙 後産期

(十三) 兒體産出後約十五分ニシテ陣痛再ビ發ス後陣痛時輕度ニ努責セシ
ムレバ後産ヲ完了スベシ若シ後産遲延スルモ出血尠ナケレバ約半時ヲ
待チテクレデ氏術(第百〇二圖)ヲ用ユ其方法左ノ如シ
先ツ子宮ヲ腹上ヨリ輪狀ニ按摩シ陣痛ヲ發スル時ニ當リ第百〇二圖ノ
如ク拇指ヲ子宮前面、他ノ四指ヲ其後面ニ附ケ以テ子宮底ヲ把握シ次

テ骨盤内ニ壓迫スベシ之レヲ施スコト五分乃至十分ニシテ後産娩出スルヲ常トス

(十四)卵膜停滯スルトキハ産出セル胎盤ヲ數回轉振シテ卵膜ヲ索狀トナ

第 百 二 圖



法出壓盤胎氏アレク

(ル由ニ氏ルフツエシ)

シ而シテ産婦ノ臀ヲ高クシ後産ハ自己ノ重量ニ因リテ産出セシムベシ
卵膜裂ケテ遺殘スルトキハ指頭或ハ麥粒鉗子ニテ之レヲ固定シ轉振シ
テ索狀トナシ徐カニ牽出スベシ此ノ方法ヲ用ユルモ尙ホ遺殘スル部ア
ルトキハ之レヲ放置スベシ

(十五)後産娩出後ハ陰部ニ損傷ナキヤ否ヤヲ診シ若シ之レ有ラバ之レヲ
療シ之レナケレバ兩脚ヲ閉合シ産婦ヲ仰臥セシメ一手ヲ腹上ニ送り子
宮ヲ輪狀ニ按摩シ陣痛ヲ催進シ陣痛ヲ發スレバ按摩ヲ止メテ手ヲ靜カ
ニ腹上ニ留メ反覆按摩シテ子宮ノ善ク收縮シ圓形硬固兒頭大ノモノト
ナリ再ビ弛緩増大セザルヲ確カムルニ至リ按摩法ヲ止ム

(十六)子宮能ク收縮シタルトキハ更ニ外陰部及其周圍ヲ消毒シ消毒セル
脱脂綿或ハ布片ヲ外陰部ニ貼シ丁字帶ヲ施シ安靜ヲ守ラシムベシ

(十七)後産完了スレバ胎盤及卵膜ノ各部ヲ檢シ其ノ完全ナルヤ否ヤヲ檢
スベシ

第二十七章 産科手術適應一般

第一 人工流産法ヲ行フ可キ適應症ハ左ノ如シ

- (一) 骨盤非常ニ狹隘ニシテ妊娠八ヶ月スラ經過セザル所ノ胎兒モ尙ホ其胎路ヲ經テ分娩スルコト能ハザルニ當リ產婦若シ帝王截開術兒頭截割術胎兒分斷術等ヲ嫌忌スルガ爲メ是等ノ手術ニ據テ胎兒ヲ出スコト能ハザル乎或ハ例令敢テ此至難ナル手術ヲ施シ得ルトスルモ其手術ノ豫後或ハ極メテ不良ナランコトヲトシ得ルトキ
 - (二) 骨盤内ニ新生物ヲ生ジテ產道軟部ヲ壓迫狹隘ナラシムルニ際シ之ヲ手術ニ依テ除去スルコト能ハザルトキ
 - (三) 子宮後屈或ハ子宮脫ノ嵌頓症ニ於テ之ヲ挽回シ得可キ望ナク而シテ既ニ危險ノ症狀ヲ發シタルトキ
 - (四) 產婦若シ重症ノ疾病例ヘバ武雷篤氏病心臟病ノ代償機障二由テ其妊娠ヲ持續スル能ハザルノミナラズ其胎兒ヲ墮出スルニ於テハ本病ノ輕快ニ望有ルトキ
 - (五) 子癇嘔吐劇甚ニシテ百方之ヲ鎮靜スルコト能ハザルトキ
- 第二 人工早産法ニ適應スル諸症ハ左ノ如シ
- (一) 骨盤ノ狹隘ナルコト扁平骨盤ニシテ前後ノ直徑七乃至八仙迷半ニ過ギサル者及全體狹隘ニシテ前後ノ直徑九八仙迷ニ達セザル者

- 但シ骨盤ノ分娩時ニ當リテ其口徑ノ權衡ヲ失スルコトハ之ヲ豫定スルコト素ヨリ確實ナル能ハザルヲ以テ其產婦ニ質シテ往時分娩ノ模様ヲ鑑ミ始メテ手術ノ適否ヲ定メ得可キナリ
- (一) 産婦重症ノ疾病ニ罹リ當時流産ノ効以テ能ク本病ノ危急ヲ救ヒ得ヘキ望有ルトキ
 - (二) 子癇ヲ發シテ其勢劇甚ナルコト「クロ、フオルム」ノ嗅入クロラールノ灌腸莫比ノ皮下注射モ尙ホ之ヲ鎮靜セシムルヲ能ハズ或ハ熱浴及纏絡被包等ノ發汗法ヲ試ムルモ毫モ其發作ヲ制スルヲ能ハザルトキ
- 第三 卵膜穿開法ヲ行フ可キ適應症左ノ如シ
- (一) 人工流産ヲ誘導スル時期
 - (二) 子宮口ノ充分ニ開張セルモ卵膜鞣韌ニシテ其破潰ノ再在遷延スベキ者(但シ縱位ニ限ル)
 - (三) 痙攣性陣痛即チ間歇時ナク陣痛連綿トシテ止マラザル者ヲ整然タル陣痛機能ニ調節センガ爲メノ必要アル時
 - (四) 羊膜水腫ノ徵ヲ認メタル時
 - (五) 胎盤ノ剝離早キニ過グルカ若クハ創位胎盤ニ於テ其出血ヲ止ムル

ノ要有ル時（但シ此際ニハ子宮口充分ニ開張シ有リテ以テ先降ノ胎兒部ヲ栓塞ノ如ク受容シ得可キ區域ナカル可カラス）

（六）胎兒ノ異常位置即チ斜位或ハ横位等ニ於テ其回轉法ヲ施シ正位ニ復シタル後之ヲ固定スヘキ必要アル時

但シ卵膜穿開ノ禁忌症骨盤狹窄、或ハ子宮口ノ狹窄及ビ強直、或ハ臍帶肢等ノ先降、或ハ胎兒ノ異常位置ナリトス

第四 鉗子娩出法ヲ行フ可キ適應症ハ左ノ如シ

（一）子宮口ノ開張シ卵膜モ亦既ニシテ破裂セルモ兒頭ハ尙ホ骨盤ノ底部ニ旋轉シテ出デザルニ際シ母體及ビ胎兒ノ狀態完全ノ分娩ニ望有ル時

（二）子宮口開張後二時間以上ヲ過クルモ兒頭深ク骨盤内ニ在リテハ外面ニ露ハレズ既ニシテ其胎兒及ビ母體ニ危險ノ虞有ルコトヲ認ムル時

（三）胎兒既ニシテ其頸部以下全體ヲ出セルモ子宮口ヲ以テ頸圍ヲ繫抑スルガ爲メ兒頭ノ子宮内ニ遺リテ其分娩ヲ妨ゲラル、時

（四）陣痛微弱ヲ起シ爲メニ分娩久シキニ瀰リ母子ヲ害スル時

（五）産婦非常ノ劇痛ヲ感ズルトキハ麻醉法ヲ行フテ正當ナリト雖モ或ル場合ニ於テ之ヲ行フベカラザルトキハ鉗子ヲ應用シテ分娩痛ヲ短縮セシムル一法アルノミ

第五 回轉法 凡テ先ツ外術ニ由テ之ヲ試ム可ク而シテ此法ヲ行フ可キ適應症左ノ如シ

（一）子宮口ノ開張不十分ナル時（殊ニ頭位回轉法ヲ宜トス）

（二）胎兒ノ斜位或ハ横位ニ在テ卵膜尙未ダ破綻セズ、且ツ骨盤ノ廣潤ナル者（頭位回轉法）

（三）骨盤ノ廣狹不分明ナル乎若クハ非常ナル者ニ於テハ臀位回轉法外術ノ諸回轉法ヲ行フモ其効ナキニ於テハ手ヲ送入シテ足位回轉法ヲ施ス適應症左ノ如シ

（四）胎兒横位ニ在テ卵膜ノ尙ホ破綻セザルニ當リ子宮口ノ開張セル時或ハ羊水流後ト雖モ尙ホ子宮口ヲ開張スルヲ得可ク且ツ子宮破裂ノ危險ヲ來ス可キ症候ヲ認メザル時

（五）諸般ノ頭蓋位ニ於テスル兒頭尙ホ未ダ骨盤内ニ固定セズシテ容易ニ之ヲ回轉シ得可キ鑑識ノ確實ナル時

- (六) 胎兒頭位ニ在リテ先ツ四肢或ハ搏動性臍帶ノ脫出スル時
 - (七) 骨盤中度ノ狹隘ニシテ往時分娩ノ胎兒頭蓋位ニ於テ其生命ヲ損セザルコトヲ詳ニスル者
 - (八) 分娩時ニ臨ミ母體若クハ胎兒ノ狀態他ニ傍發危險症ノ虞有ルガ爲メ當時速ニ分娩セシムルコトヲ要スルモ頭部尙ホ鉗子ノ應用ニ到來セザル時
 - (九) 胎盤ノ先降ニ在リテハ可成速ニ回轉法ヲ行フ可シ此際ニハ脚或ハ臀部ヲ牽出シテ子宮口ヲ栓塞セシムルハ肝要ナリ但子宮口ヲ損傷セザル様注意ス可キハ勿論ナリトス大抵二指ヲ用井テ足ル者ナリ
- 第六 骨盤端位娩出法** ハ回轉法ヲ行ヒタル後ニ行フベキモノニシテ可成時期ヲ早マラザルヲ宜トス而シテ其適應症左ノ如シ
- (一) 自然骨盤端位ニ在ルモ分娩遲延シテ胎兒ノ生命ニ危險ノ疑アルカ若クハ産婦ニ危險ノ症狀ヲ發シタル時
 - (二) 先降胎盤ニ於テ産婦ノ強壯ナル者(但シ可成猶豫シテ此術ヲ施サバルヲ宜トス子宮口ノ裂創ハ假令小ナルモ其危險ナル者ニシテ貧血家ノ如キハ爲メニ惡性出血ヲ來スコト屢々ナリ)

- 第七 骨盤端位ノ用手娩出法ヲ適應ス可キ症左ノ如シ**
- (一) 骨盤端位ノ自然分娩ニ於テ胎兒ハ既ニ臍部ニ至ル迄産出セルモ尙ホ體上半部ノ娩出ニ困難ナル時
- 第八 破顱術** ハチーゲル氏鉗ヲ用井テ穿顱術ヲ施シ腦髓ヲ搾出セル後頭顱破砕器ヲ用井テ頭部ヲ挫分シ以テ分娩ニ易カラシムル法ナリ其適應症左ノ如シ
- (一) 胎兒頭位ノ如何ナル場合ニ論ナク他ニ原因有リテ胎兒既ニ死亡スルカ若クハ死亡セザルモ瀕死ニ陥井ルカ若クハ骨盤口或ハ産道軟部ノ非常ニ狹隘ナルガ爲メ分娩セザル時
 - (二) 子宮破裂ノ傾向有ル時
 - (三) 分娩第一期ニ臨テ窒息子癇等母體生命ノ危險ナルガ爲メ胎兒ノ生活ヲ顧ミルノ違ナキ時
 - (四) 胎兒ノ頸部以下全身既ニ分娩スルモ頭部ノ遺殘シテ露出セズ通常ノ用手法或ハ鉗子娩出法モ其効ヲ奏スルコト能ハザル時
- 第九 斷首法** ヲ行フ可キ適應症ハ左ノ如シ(プラウス氏鎖鉤ヲ賞用ス)
- (一) 胎兒ノ横位ナル者ニ回轉法ヲ因循セルガ爲メ羊水流出シテ肩胛

部ハ深ク骨盤内ニ壓下セラレ頸部ニ縦ニ牽掣セラレテ子宮ハ胎圍ニ緊張スルヲ認ムルモ子宮破裂ノ虞有ルヲ以テ回轉法ヲ行フコト能ハザル時

第十 帝王截開法ヲ行フヘキ適應症ハ左ノ如シ

(一) 骨盤ノ非常ニ狹隘ニシテ百般ノ分娩法全ク無効ナルカ若クハ敢テ他ノ分娩法ヲ施スモ其豫後ヲ帝王截開術ノ豫後ニ比較シテ不良ナリト確診シタル時其他癍痕收縮或ハ新生物ノ壓迫ニ由テ產道軟部ノ非常ニ狹隘トナル時

(二) 胎兒分娩ニハ他ニ尙ホ種々ノ法有リテ母體ニハ危險ヲ招カザルノ望有ルモ妊婦自ラ生命ヲ棄ツルモ其胎兒ノ生育ヲ切望シテ止マザル時

第十一 胎盤剝離手術ハ其技術ノ困難ナルト或ハ此技術ヨリ來ル傳染

毒危險ノ大ナルコト有ルヲ以テ必ズシモ賞用スベキモノニ非ズ唯分娩第三期遷延ノ爲メニ危險ノ出血ヲ起スカ若クハ例令注意シテ其止血法ヲ試ムルモ尙ホ危險ナルトキニノミ限リテ行フベキモノトス

第十二 用匙除去法トハ殘留卵膜ヲ產科匙ニ依リ除去スル法ニシテ頗

ル熟練ヲ要スル者ナリト雖トモ之ヲ用手法ニ比スレハ遙ニ優レリ其適應症ハ不全墮胎或ハ胎盤ノ殘留症ニ於テ或ハ出血スルカ或ハ敗血症ヲ發セントスル時ナリトス

○第二十八章 產褥婦攝生法

產婦ハ心身ノ安靜ヲ要ス而シテ產後少ナクモ二週間ハ宜シク就褥セシメ以テ完全ナル生殖器ノ恢復ヲ圖ルベシ

○產褥室ハ廣濶清潔ニシテ空氣ノ流通宜キヲ要ス○食物ハ初メハ消化シ易キ滋養品ヲ與ヘテ漸次常食ヲ用ユルニ至ルベシ○尿利及便通ハ共ニ注意スベキモノニシテ通常便秘ノ傾向アルガ爲ニ產褥第三日ニ至ルモ便通ナキ時ハ石鹼水グリセリン等ノ灌腸ヲ行ヒ或ハ一乃至二食匙ノ蓖麻子油ヲ投ズベシ若シ嘔吐スル時ハ大黃サグラダ越、旃那、硫酸苦土等ヲ與フベシ○褥婦若シ尿閉ヲ發スル時ハ一日三回殺菌セル「カテトテル」ヲ用井テ排尿セシムベシ

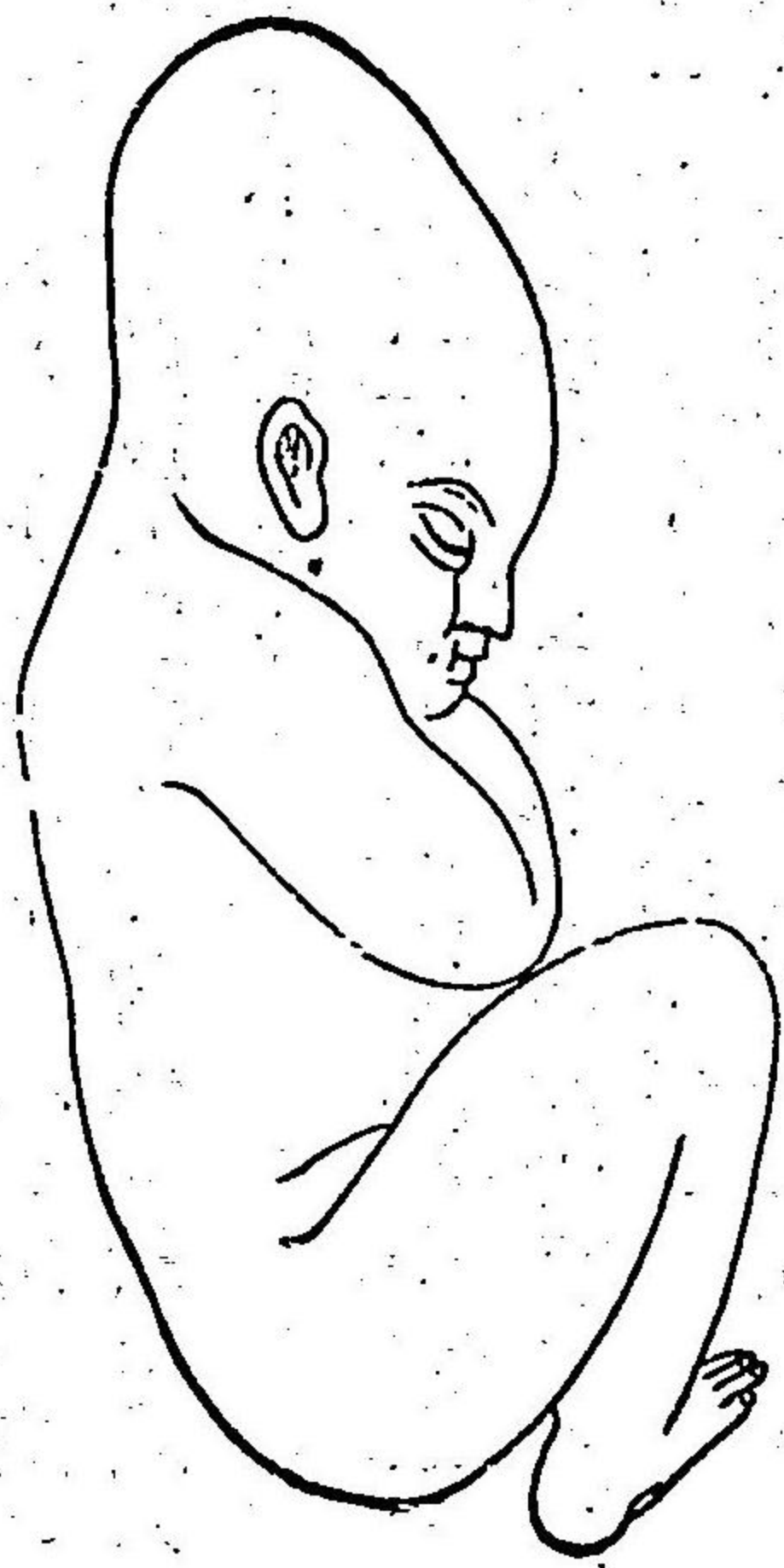
起立及ビ歩行○褥婦ハ第三日以後ニ於テ子宮ノ收縮佳良ナルニアラザレバヨリニ長ク側臥ヲ取ラシムベカラズ若シ子宮ノ收縮佳良ニシテ側臥ヲ取ルコトヲ許スモ一側ニ偏セザラシメ必ズ兩側相互ニ臥位ヲ取ラシムベ

シ而シテ第十日以後ニアラザレバ決シテ起立セシムベカラズ又屢々起立ニ際シ眩暈ヲ起シ摔倒スルコトアルヲ以テ充分注意ヲ加ヘ徐々ニ身體ヲ運動セシムルコトヲ要ス其乳房ハ産褥ニアリテモ授乳ノ前後ニ淨水ヲ以テ拭淨シ清潔ニ保持スベシ其惡露ハ其量、色、臭氣等ノ性質ニ注意シ多量ニシテ臭氣ヲ帶ビ其色膿様ナルガ如キトキハ創傷傳染ノ疑ヲ置キ適應ノ處置ヲ怠ルベカラズ

○第二十九章 初生兒ノ取扱法

臍帶ヲ切除シタル後煮沸殺菌セル水中ニ清潔ニシテ柔カキ小布片ヲ浸シ之レヲ以テ先ヅ口ヲ清拭シ直チニ體温ト同温度ノ温浴ヲ施シ胎脂ヲ除キ

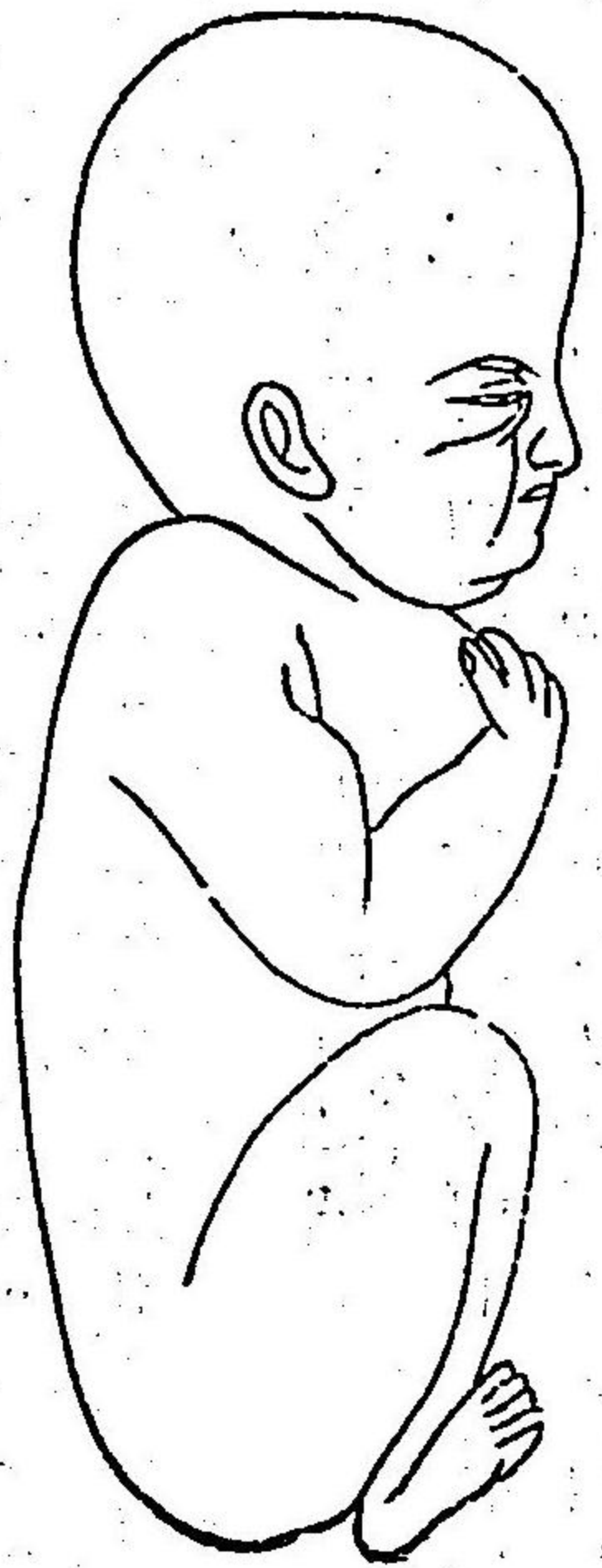
圖三百第



後頭位
ニテ産
レタル
兒頭

(ル由ニ氏ゲンル)

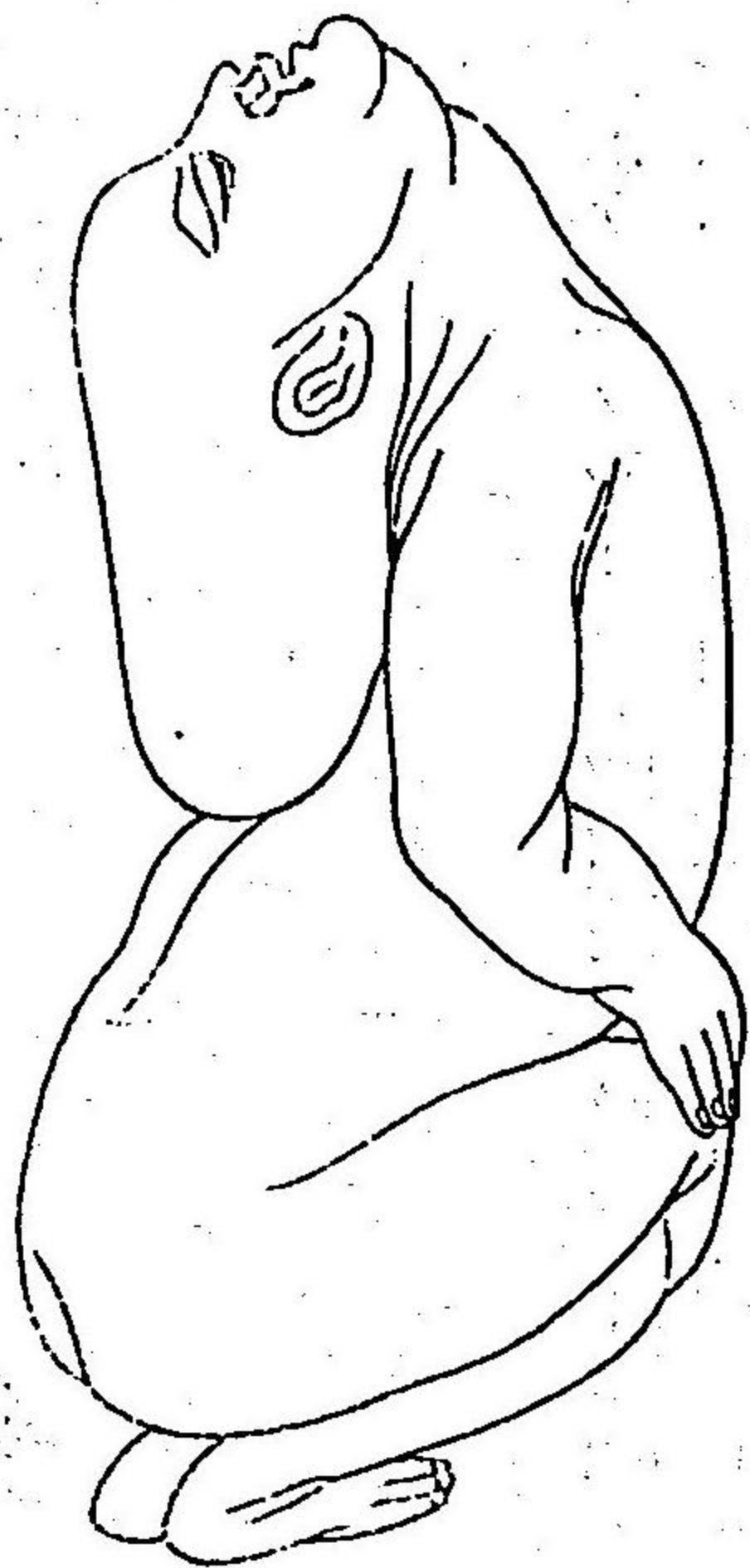
圖四百第



前頭位
ニテ産
レタル
兒頭

(ル由ニ氏ゲンル)

圖五百第



顔面位
ニテ産
レタル
兒頭

(ル由ニ氏ゲンル)

(胎脂除去困難ナルトキハ鷄卵或ハ暖カキ「オレーフ」油ヲ用ユ)而シテ眼瞼ノ不潔物ヲ洗滌除去シ眼瞼ヲ開キ五十倍ノ硝酸銀溶液一滴ヲ點眼スベシ是レ初生兒膿漏性結膜炎ヲ豫防センガ爲ナリ次ニ臍帶ノ殘餘ヲ殺菌

「ガーゼ」ヲ以テ纏絡シ之ニ縋帶ヲ施シ初衣ヲ着セシム兒頭ハ其産出ノ如
何ニ從ヒテ其形ヲ異ニス(第百〇二圖ヨリ百〇六圖)爾來毎日眼及口ヲ清

第百六圖



額位ニ
テ産レ
タル兒
頭
(ル由ニ氏ゲアル)

潔ニシ、温浴ヲ探ラシメ頸部腋窩鼠蹊臀部膝膕ニハ撒布藥ヲ撒布スベシ
初生兒ノ榮養ハ産後八時間ノ後初メテ母乳ヲトラシメ(母乳ノ分泌未ダ
ナキ時ハ茴香茶劑ニ乳糖ノ少量ヲ混ジタルモノ若シクハ單ニ温湯ニ乳糖
ヲ加ヘルモノ、少量ヲ與フ)爾後毎二時間(晝夜)若シクハ三時間(夜間)
ニ之ヲ探ラシム

第三十章 乳母ノ撰定

乳母ノ年齢ハ二十歳乃至三十歳ノ者ヲ可トス乳房ヲ壓シテ六乃至八個ノ
乳管ヨリ乳汁ノ噴出ヲ認メザルベカラズ又乳頭ノ勃起ノ十分ナルモノヲ

可トス。乳母ノ生ミタル子ハ發育十分ニシテ消化器ノ作用ニ變化ナキハ
乳母トシテ適當ナルコトヲ證スルモノナリ然レドモ實際ニ於テ乳母ノ適
當ナルヤ否ヤヲ定ムルニハ先ヅ數日間假ニ乳母ヲシテ授乳セシメ其成績
如何ヲ見テ之ヲ用ユルヲ可トス但シ左ノ疾病アルモノハ一時ナリトモ乳
母ノ職ニアラシム可カラズ即チ黴毒、結核、癩病、急性癩、腎臟病、貧
血、トラホーム及自餘ノ傳染性疾病トス近來黴毒ノ爲メニワツセルマン
血清診斷ヲ行フモノアリ

第三十一章 人工榮養飲食料品

(甲) 小兒ノ人工榮養法

第一 牛乳 十分ニ煮沸シ適當ニ稀釋シテ用ユ又諸種ノ品ヲ加ヘテ用
ユ但シ煮沸スルニソクスレー若クハゾルトマン氏器ヲ用ユレバ最モ佳
ナリ
○第一月牛乳一分稀釋液三分○第二月一分二分○第三及ヒ第四月等
分○第五及第六月二分一分○第七及ヒ第八月三分一分○第九月ヨ
リ以上ハ純牛乳。牛乳ニ加フベキ諸品左ノ如シ

(イ)水 十分ニ煮沸シタルモノヲ牛乳ノ稀釋ニ用ユ

(ロ)砂糖 乳糖ヲ可トスルモ蔗糖ヲ用ユベシ

(ハ)麥芽越 一〇〇、〇乃至一五〇、〇立方仙迷ノ牛乳ニ一茶匙、味ヲ美ニシ便秘ニ効アリ

(ニ)石灰水 二〇〇、〇立方仙迷ノ牛乳ニ一食匙過多ノ酸ヲ胃ニテ生ズルトキニ加フベシ

(ホ)燉製マグチシア 一〇〇、〇乃至二〇〇、〇立方仙迷ノ牛乳ニ一刀尖

(ヘ)粘滑液 一食匙ノ米ニ五〇〇、〇(凡ソ二合五勺)ノ水ヲ加ヘテ半時間煮テ半量ニ煮ツメ布ニテ漉シ更ニ水ヲ加ヘテ最初ノ量トナス下痢ノトキ加ヘテ効アリ

(ト)茴香水 一食匙ヲ一〇〇、〇立方仙迷ノ牛乳ニ加フベシ風氣ニ効アリ

第二肉羹汁 ^{ソップ} 犢肉或ハ鶏肉ノ肉羹汁ヲ其儘或ハ牛乳ニ加ヘ用ユ

第三卵白水 鶏卵ノ卵白ニ水二〇〇、〇立方仙迷ヲ間斷ナク攪拌シナカラ加ヘ更ニ砂糖一五、〇ヲ加ヘテ用ユ

第四「コンデンスミルク」〇第一月「コンデンスミルク」一分水二十二分〇

第二月 一分ト二十一分〇 第三月 一分ト二十分〇 第四月 一分ト十九分〇

第五月 一分ト十八分〇 第六月 一分ト十七分〇 第七月 一分ト十六分〇

第八月 一分ト十五分〇 第九月 一分ト十四分〇 第十月 一分ト十三分〇

十一月 一分ト十二分〇 十二月 一分ト十一分

第五小兒粉 子ストル氏、ハクフエーケ氏、ゲルベル氏等ノ小兒粉多ク賞

用セラル然レトモ本品ノミテハ養育シ難キヲ以テ本品ハ牛乳ニ伍用スベキモノトス

(乙) 大人及ビ年長ノ小兒人工榮養法

第一生肉液 新鮮ナル生牛肉ノ脂肪ナキトコロヲ細截シ強ク壓搾シテ製ス、時々一食匙宛内服スベシ「ソップ」杯ニ加ヘテ用ユルモ可ナリ但シ本品ハ決シテ温メテ用ユベカラズ

第二肉液 アイスクリーム 肉液ニ「コンニツヤク」酒、「ワニルレン」糖枸櫞汁ヲ加ヘテ製ス

第三ワレチン氏肉液 冷水若クハ湯二分ニ本品一分ヲ加ヘテ用ユ

第四牛肉ブイヨン四〇〇、〇ノ脂肪ナキ牛肉ヲ細截シ凡ソ一〇〇〇、〇入
リノ瓶ニ入レ輕ク栓ヲナシ湯ノ中ニ入レ徐々ニ熱シテ沸騰セシメ沸騰
シ始メテヨリ二十五分間ノ後瓶ヲ取り出シ其汁ノミヲ取りテ用ユ
高度ナル消化不良ノ者或ハ嘔吐アル者ニ用ユ

第五ロイベ、ローゼンタール氏肉液 一椀ノ「ソツプ」若クハ湯ニ本品一
食匙ヲ加ヘテ用ユベシ

第六肉粉 牛肉ヲ細ク薄ク截リテ重湯煎ニテ十分ニ乾燥セシメ乳鉢ニテ
粉末トナシテ製ス本品五〇、〇瓦ヲ牛乳或ハ「ブイヨン」ニ和シテ用ユ
一日一回ヨリ數回

第七ソマトーゼ 「ソマトーゼ」ハ一日三乃至四回一食匙宛肉羹汁、牛乳、
咖啡等ニ加ヘテ用井或ハ單ニ本品ノミヲ用ユ、人事不省ノ患者ニ八十
乃至二十五%ノ液トナシ其二十五立方仙迷ヲ皮下ニ注射スベシ凡テ貧
血、胃病、熱性病ノ患者及恢復期ノ患者ニ用井テ効アリ

第八リービヒ氏肉越幾斯 生肉液或ハ「ブイヨン」等ニ加ヘ若クハ本品ノ
ミヲ用ユ

第九ペプトーン (イ)コッフ氏肉ペプトーン一茶匙ヲ二五〇、〇ノ「ブイ

ヨン」ニ加フ(ロ)ケンメリチヒ氏肉ペプトーン一茶匙ヲ二五〇、〇ノ
「ブイヨン」ニ加フ(ハ)リチーグト氏流動肉ペプトーン一食匙ヲ一椀ノ
「ブイヨン」ニ加フ(ニ)アントワイレル氏アルブモージェン、ペプトーン
一茶匙ノ本品ヲ一椀ノ湯、牛乳等ニ溶解シ食前ニ用ユ

凡テ「ペプトーン」ハ下痢ヲ惹起スルコトアリ又夕皮下注射ニ供スルト
キハ有毒ナルガ故ニ皮下注射用トナスコトヲ禁ス

第十ラーデマン氏 マウエナリア(燕麥粉)肉羹汁、牛乳、水ニ和シテ用ユ
美味ナリ

第十一アロイロナート 一分ノ「アロイロナート」粉ヲ三分ノ牛乳、水ニテ
煮沸シテ用ユ專ラ糖尿病患者ニ用ユ

第十二リバニン 一日數回一茶匙乃至一食匙

第十三卵黃 卵黃九乃至十二個牛乳五合ニ砂糖二〇〇、〇ヲ加ヘ三回ニ
用ユ又卵黃二個コンニヤック酒四食匙水八食匙若クハ四食匙ノ葡萄酒
四食匙ノ水トニ適宜ノ砂糖ヲ加ヘテ用ユ

○第三十二章 飲食物並嗜好品分析表

内務省衛生試驗所分析ニ據ル

第十一表

番 號	名 稱	含窒素 物(蛋 白質ト シテ)	脂 肪	無窒素 有機物
2	大豆(野州沼田産白種)	36.71	17.43	24.93
3	同 (武州秩父産青種)	最大 42.85	13.58	23.68
4	小豆(野州宇都宮産)	22.01	0.40	最大 55.39
5	同 (北海道室蘭産)	22.97	0.38	51.67
6	豌豆 陳	23.69	0.56	51.03
7	蠶豆(ソラマメ)陳	28.88	1.29	49.74
8	菜豆(インゲンマメ)陳	20.36	1.07	53.19
9	同 (未熟莢共)	3.68	0.20	3.80
10	綠豆(ヤイナリ)陳	25.59	0.70	最小 53.60
11	刀豆(ナタマメ未熟莢 共)	2.39	0.14	5.32
12	鵲豆(フシマメ未熟莢 共)	最小 2.26	最小 0.15	最小 2.35
計 十二種	最 大	42.85	18.26	55.39
	最 小	2.26	0.14	2.35

附錄

飲食物並嗜好品分析表

九〇五

菽 類

纖維質	礦物質	水 分	乾燥物質百分中		
			含窒素物 (蛋白質 トシテ)	脂 肪	無窒素 有機物
3.88	4.55	最小 11.09	45.27	最大 20.54	最小 24.71
2.47	最大 5.00	13.46	42.42	20.14	28.81
2.91	4.70	12.28	最大 48.85	15.48	27.00
6.44	3.06	12.70	25.20	最小 0.46	63.45
4.44	3.54	17.00	27.68	0.46	62.25
最大 7.30	2.49	14.93	27.85	0.66	59.99
最小 1.22	3.11	15.76	34.28	1.53	59.05
4.46	3.47	17.51	24.61	1.30	最大 64.49
2.88	0.91	88.53	32.08	1.74	33.13
5.01	3.25	11.85	29.03	0.79	60.81
2.28	0.91	88.96	最小 21.65	1.27	48.19
2.46	最小 0.62	最大 92.16	28.83	1.91	29.88
7.30	5.00	92.16	43.85	20.54	64.49
1.22	0.62	11.09	21.65	0.46	24.71

九〇四

第十四表

番 號	名 稱	含窒素 物(蛋 白質 ト シテ)	脂 肪	無窒素有機物
1	銀杏	3.87	2.18	41.71
2	白胡麻	20.54	51.57	12.60
3	黒胡麻	1.965	44.15	19.43
4	胡桃	最大28.47	最大59.18	3.19
5	乾柿	1.50	0.12	最大65.22
6	柿(樽拔キ)	0.58	最小0.02	12.56
7	同(キザハシ)	0.61	0.02	13.62
8	椎子	3.37	0.73	60.52
9	胡瓜(キウリ)	0.85	0.08	1.96
10	甜瓜(マクワウリ)	1.15	0.48	4.10
11	茄子	1.00	0.06	3.11
12	南瓜(トウナス)	0.65	0.13	6.08
13	冬瓜(トウゲワシ)	最小0.26	0.02	最小1.72
14	栗	2.90	0.38	36.49
計 十 四 種	最 大	28.47	59.18	65.22
	最 小	0.26	0.02	1.72

附録
飲食物並嗜好品分析表

九〇七

種 實 類

纖維質	鐵質物	水 分	乾燥物質百含中		
			含窒素物 (蛋白質 トシテ)	脂 肪	無窒素有機物
0.39	1.85	50.00	7.74	4.36	83.42
—	8.36	6.93	22.07	55.41	13.54
—	最大10.12	6.65	21.05	47.30	20.81
1.54	2.88	小 4.74	最大29.89	最大62.12	最小 3.35
—	1.67	31.49	最小 2.19	0.18	最大95.20
2.76	0.43	83.65	3.55	0.12	76.82
最大 3.29	0.43	82.03	3.39	最小 0.11	75.79
2.28	1.12	31.98	4.95	1.07	88.93
—	0.47	91.64	25.30	2.38	58.33
1.24	0.59	92.44	15.21	6.35	54.27
1.41	0.42	94.00	16.67	1.00	51.83
2.15	0.75	90.24	6.66	1.33	62.30
最小 0.35	最小 0.23	最大 97.42	10.08	0.78	66.67
1.12	1.22	57.89	6.89	0.90	86.65
3.29	10.12	97.42	29.89	62.12	95.20
0.35	0.23	4.74	2.19	0.11	3.35

九〇六

第十五表

番 號	名 稱	含窒素物 (蛋白質 トシテ)	脂 肪	無 窒 有 機 素 物
1	水蕪(セリ)	2.01	0.13	3.22
2	薇(ゼンマイ)	最大20.26	0.49	最大41.96
3	蕨	2.83	0.13	1.41
4	波稜草(ハウレ ンサウ)	2.30	0.27	1.65
5	芋莖(イモガラ)	4.08	最大2.09	41.03
6	根芋	1.12	0.08	2.51
7	根冬(フキ)	最小0.40	最小0.04	2.73
8	コマツ菜	2.51	0.52	1.18
9	トウ菜	1.74	0.22	0.93
10	三河島菜	2.44	0.62	0.79
11	三ツ葉	0.89	0.12	2.46
12	京菜	2.12	0.16	最小0.21
計十二 程	最 大	20.26	2.09	41.96
	最 小	0.40	0.04	0.21

附錄 飲食物並嗜好品分析表

九〇九

葉 類

纖維質	鐵質物	水 分	乾燥物質百分中		
			含窒素物 (蛋白質 トシテ)	脂 肪	無窒素 有 機 物
—	1.04	93.60	31.41	2.03	50.31
20.25	最大10.74	最小6.30	21.61	最小0.52	44.78
3.27	1.18	91.18	32.09	1.47	15.99
最小0.57	1.30	93.91	37.77	4.43	27.09
最大21.63	8.83	22.34	最小5.25	2.69	52.83
0.48	0.68	95.13	23.00	1.64	51.54
0.71	最小0.52	最大95.60	9.09	0.91	最大62.05
1.79	1.38	92.62	34.01	7.05	15.99
1.17	0.89	95.05	35.15	4.44	18.79
1.83	1.34	92.98	34.76	最大8.83	11.25
1.28	1.32	93.96	14.24	1.99	40.73
1.16	1.07	95.28	最大44.92	3.39	最小4.45
21.53	10.74	95.60	44.92	8.83	62.05
0.57	0.52	6.30	5.25	0.52	4.45

九〇八

第十六表

番 號	名 稱	含窒素 物(蛋 白質) トシテ	脂 肪	無窒素有機物
1	甘藷(白)	1.35	0.19	28.77 { 澱粉 24.60 葡萄糖 4.17
2	青芋(サトイモ)	1.40	0.08	11.70 { 澱粉 10.40 葡萄糖 0.12
3	九面芋(ヤツガ シラ)	2.78	0.29	最大 25.69 { 澱粉 18.00 葡萄糖 4.48
4	薯蕷(ナガイモ)	2.75	0.12	17.97 { 内澱粉 14.80
5	佛掌薯(ツク イモ)	2.85	0.11	14.71 { 澱粉 12.20 葡萄糖 0.85
6	蓮根	1.70	0.08	10.86 { 内澱粉 9.20
7	鹹草(アシタバ)	3.51	最大 0.39	11.63 { 脂肪ア ンゲリ チン
8	亞米利加芋	2.21	0.09	17.84 { 内澱粉 9.50
9	土當歸(ウド)	1.06	0.10	最小 2.47 { 澱粉 2.05 葡萄糖 0.42
10	蕪菁(カブ)	1.62	0.07	2.82 { 内葡萄 糖 1.12
11	慈姑(クワイ)	最大 4.27	0.20	24.36
12	蘿蔔(ダイコン)	最小 0.73	最小 0.01	3.70
13	胡蘿蔔(ニン ジン)	1.25	0.35	7.41
14	午莠	1.36	0.07	25.23
15	葱	1.47	0.07	4.33
16	百合	3.34	0.11	24.15 { 内澱粉 19.10 葡萄糖 0.92
17	馬鈴薯	1.49	0.10	19.22
18	筍(武州大久 保村産)	1.82	0.12	5.64
計八 十種	最 大 最 小	4.27 0.73	0.39 0.01	25.69 2.47

附錄
飲食物並嗜好分折表

九一

根及球根類

纖維質	鐵質物	水 分	乾燥物質百分中		
			含窒素物 (蛋白質 トシテ)	脂 肪	無窒素有機物
最大 2.48	0.93	最小 66.28	40.02	0.56	84.07
0.63	9.99	85.20	9.46	0.54	79.05
1.15	1.28	68.81	8.91	0.93	82.36
1.79	1.17	76.20	11.56	0.50	75.51
0.75	1.26	80.32	14.48	0.56	74.75
0.84	1.13	85.39	11.64	0.55	74.31
—	最大 0.22	84.25	22.29	2.48	73.84
—	0.25	79.61	10.84	0.44	最大 87.44
0.70	0.57	最大 95.10	21.63	2.04	49.59
0.71	0.78	94.00	27.00	1.17	最小 47.00
最小 0.45	最大 1.44	69.28	13.90	0.65	79.26
0.52	0.49	94.55	13.39	0.37	67.89
1.10	0.77	89.12	11.49	最大 3.22	68.11
2.18	最小 0.63	70.53	最大 46.15	最小 0.24	85.61
1.06	0.44	92.63	19.95	0.95	58.75
1.42	1.35	69.63	11.00	0.36	79.52
1.36	1.03	76.80	最小 6.42	0.43	82.85
1.42	0.74	90.26	18.69	1.23	57.91
2.48	1.44	95.10	46.15	3.22	87.44
0.45	0.22	66.28	6.42	0.24	47.00

九一〇

第十七表

番 號	品 名	水 分	含窒素物	
			(蛋白質 トシテ)	脂 肪
1	鵲豆(ウズラマメ)	14.570	18.900	1.160
2	嚙麥(カラスムギ)	10.404	12.537	4.180
3	蜀黍(モロコシ)	13.100	10.500	3.620
4	王蜀黍	15.050	9.450	3.524
5	薏苡(ハトムギ)	12.740	13.650	5.380
6	麻實(アサノミ)	最小 9.986	21.175	最大 24.560
7	菊花	最大 86.645	1.925	最小 0.037
8	紫蘊卷唐辛	64.090	2.887	0.971
9	酢漬蕪	85.900	0.937	0.076
10	鹽漬生姜	75.225	0.787	0.319
11	鹽漬李	80.835	最小 0.057	0.063
12	鹽漬梅	70.725	0.079	0.183
13	粕漬白瓜	72.210	2.651	0.043
14	味噌漬大根	62.020	6.140	0.190
15	醃(アマザケ)	63.070	3.500	—
16	生揚	78.660	10.230	8.200
17	貫錢蕪	12.590	最大 25.880	1.510
18	苧布卷	67.510	2.670	0.180
計入	最 大	86.645	25.880	24.560
十種	最 小	9.986	0.057	0.037

附錄

飲食物並嗜好品分析表

九一三

植物性榮養品

無窒素 有機物	纖維質	礦質物	乾燥物百分中	
			含窒素物 (蛋白質 トシテ)	脂 肪
57.750	6.460	1.160	22.123	1.358
最大 66.919	4.160	7.800	13.993	4.665
66.390	6.280	0.110	12.083	4.166
66.656	3.080	2.240	11.124	4.148
64.940	3.170	0.120	15.643	6.166
12.906	最大 29.328	2.045	23.524	2.729
8.799	2.542	最小 0.052	14.414	0.279
6.637	3.430	最大 21.985	8.040	2.704
7.856	最小 0.325	4.906	6.645	0.539
13.580	2.089	8.000	3.177	1.288
5.795	2.515	10.735	0.297	0.329
8.943	1.615	18.450	最小 0.270	0.625
18.796	0.709	5.591	9.539	最小 0.155
16.520	2.230	12.900	16.170	0.500
32.392	0.753	0.285	9.480	—
最小 2.030	—	0.830	最大 48.160	最大 38.420
58.510	—	1.510	29.610	1.730
24,920		4.720	8.210	0.550
66.919	29.328	21.985	48.160	38.420
2.030	0.325	0.052	0.270	0.155

九一二

第十八表

番 號	名 稱	水 分	含窒素物 (蛋白質 トシテ)	脂 肪
1	椎 蕈	14.59	11.63	1.68
2	松 蕈	81.73	3.73	0.76
3	同	87.30	2.15	0.52
計 三種	平 均	61.21	5.84	0.99

附錄 飲食物並嗜好品分析表

九一五

第廿三表

生 (空氣中ニ於テ乾燥シタル儘)

番號	品 名	水 分	蛋白質	脂 肪	無窒素越 幾斯分
1	章魚	18.83	73.14	1.28	—
2	螟脯乾	3.08	69.53	3.22	—
3	鵝毛脰	44.51	49.62	2.07	—
4	干鰻	54.71	29.18	6.20	—
5	石決明	—	—	—	—
6	牡蠣	—	—	—	—
7	文蛤	—	—	—	—
8	蛤仔	—	—	—	—
9	魁蛤	—	—	—	—
10	蜆	—	—	—	—
11	バカ	—	—	—	—
12	昆布	23.08	7.11	0.87	47.70
13	瓊脂	22.80	11.71	62.06	
計 十三種					

菌 茸 類

無窒素 有機物	礦質物	乾燥物質百分中		
		含窒素物 (蛋白質 トシテ)	脂 肪	無窒素 有機物
67.73	4.37	13.62	1.97	79.30
12.78	1.00	20.42	4.16	69.95
9.10	0.93	16.93	4.09	71.65
29.87	2.10	16.99	3.41	73.63

海產食品類 (甲) 雜類

乾 (全ク水分ヲ去リタルモ)

礦質物	養分比 例一ト	蛋白質	脂 肪	無窒素越 幾斯分	礦質物
6.75	0.03	90.10	1.57	—	8.32
6.17	0.08	88.10	4.08	—	7.82
3.80	0.08	89.42	3.73	—	6.85
9.91	0.37	64.43	13.68	—	21.88
—	0.03	91.04	1.63	—	7.33
—	0.19	83.58	8.81	—	7.61
—	0.11	83.06	5.10	—	11.84
—	0.14	82.86	4.84	—	12.30
—	0.05	88.92	2.51	—	9.57
—	0.08	90.06	4.11	—	5.83
—	0.09	80.06	4.05	—	15.89
21.24	6.96	9.24	1.13	62.01	27.62
3.44	5.30	15.17	80.38		4.45

九一四

第廿四表

番 號	名 稱	含窒素 物(蛋 白質ト シテ)	脂 肪	無窒素 有機物
1	裙帶菜(ワカメ)	11.61	最小 0.31	最小 37.81
2	羊栖菜(ヒジキ)	11.37	0.49	最大 54.84
3	昆布	最小 7.11	0.87	47.70
4	青海苔	19.35	最大 1.73	46.18
5	乾海苔	最大 33.75	1.30	41.22
6	黑菜(アラメ)	9.58	0.46	51.63
計六種	最 大 最 小	39.75 7.11	1.73 0.31	54.84 37.81

第廿五表

番 號	水 分	含窒 素物	石油エ ーテル 可溶分 (脂肪 及葉綠 素)	90% 酒精 可溶 分	水可 溶分	マン ニツ ト	纖 維 質	礦 質 物	含 窒 素 物
1	26.67	5.00	0.51	16.95	19.05	—	5.51	26.30	最小 6.82
2	23.93	9.30	2.33	21.15	18.27	—	4.15	20.87	12.22
3	80.52	2.75	0.11	31.9	5.61	0.88	3.02	4.81	13.42
4	80.17	3.42	0.62	0.74	7.85	1.50	20.9	4.11	最大 17.24
5	—	—	—	—	—	—	—	—	14.12
6	—	—	—	—	—	—	—	—	17.23
計六種							平 均 最 大 最 小	13.51 17.24 6.82	

同上(乙)海藻類

纖維質	礦質物	水 分	乾燥物質百分中		
			含窒素物 (蛋白質 トシテ)	脂 肪	無窒素 有機物
—	最大 31.35	18.92	14.32	最小 0.38	最小 46.83
—	17.56	15.74	13.49	0.58	最大 65.08
—	21.24	最大 23.08	最小 9.24	1.13	62.01
—	19.21	最小 13.53	22.38	最大 2.00	53.41
—	最小 9.75	13.98	最大 39.24	1.51	47.92
9.79	9.79	18.75	11.78	0.57	63.54
	31.35 9.75	23.08 13.53	39.24 9.24	2.00 0.38	65.08 46.63

同上(丙)昆布類

無 水 物 百 分 中					
石油エ ーテル 可溶分 (脂肪 及葉綠 素)	90%酒 精可溶 分	水 可 溶 分	纖 維 質	礦 質 物	備 考
0.69	23.11	25.97	7.51	最小 35.85	販賣品其儘 ヲ試験シタ ルモノ
3.06	最大 27.80	最小 23.70	最小 5.45	27.43	同上ヲ一回 水洗シ表面 ノ砂分ヲ除 去シタルノ
最 0.53	16.42	28.84	14.74	23.48	
3.12	最小 3.73	最大 39.58	10.39	20.77	
0.88	16.39	28.78	最大 15.52	24.66	
最大 3.17	8.77	39.57	10.56	最大 20.74	
1.85	16.03	31.07	10.69	25.49	
3.17	27.80	39.58	15.52	35.85	
0.53	3.73	23.70	5.45	20.74	

附録 飲食物並嗜好品分析表

第廿六表

番 號	名 稱	含窒素 物(蛋 白質ト シテ)	脂 肪	無窒素有機物	
1	鯉節	最大 75.60	5.11	ナシ	
2	豆腐	6.55	2.95	1.05	
3	油揚	21.96	最大 18.72	0.49	
4	雪花菜(カラ)	3.66	0.84	6.35	
5	蒲鋒(カマボコ)	20.89	0.07	6.24	
6	豆腐皮(ユバ)	51.60	15.62	6.65	
7	生麸(ナマフ)	13.31	0.17	14.43	内葡 萄糖 20.08
8	乾瓢	8.19	1.54	54.31	
9	納豆	19.26	8.17	6.09	
10	白味噌	11.12	4.92	14.02	
11	味噌(鹹)	25.42	5.94	11.36	
12	味噌(淡鹹)	10.71	6.04	19.15	
13	乾饅飩	11.90	0.55	63.87	
14	素麵	8.45	0.74	最大 65.78	
15	煮素麵	2.45	6.07	17.11	
16	蒟蒻	最小 0.01	ナシ	3.10	
17	澤庵漬	1.38	0.06	6.01	
18	三河島菜漬	2.21	0.31	3.52	
19	煮饅飩	4.86	0.10	25.93	
計 十 九 種	最 大	75.60	18.72	65.78	
	最 小	0.01	0.06	0.49	

附錄

飲食物並嗜好品分析表

九一九

調製榮養品類

纖維質	礦質物	水 分	乾燥物質百分中		
			含窒素物 (蛋白質 トシテ)	脂 肪	無窒素 有機物
ナシ	5.03	14.27	最大 88.18	5.96	ナシ
最小 0.02	0.64	88.79	58.43	26.32	9.37
0.08	1.35	57.40	51.55	最大 43.94	最小 1.15
2.90	0.59	85.66	25.52	5.86	44.92
ナシ	2.43	70.37	70.50	最小 0.24	21.06
0.46	2.82	22.85	66.88	20.25	8.63
0.15	0.38	71.49	46.64	0.60	50.91
最大 10.69	4.92	20.35	10.28	1.93	68.19
2.80	1.86	61.82	50.45	21.40	15.95
3.83	10.14	55.97	25.26	11.17	31.84
4.72	最大 14.02	48.54	30.00	11.54	22.08
4.50	8.10	51.50	22.08	12.45	39.49
0.44	5.54	最小 17.70	14.46	0.67	77.61
0.29	5.16	10.58	10.51	0.92	81.80
0.12	最小 0.29	79.96	12.23	3.49	最大 85.35
0.26	0.48	最大 96.15	最小 0.26	ナシ	80.52
1.53	8.30	82.72	7.99	0.35	34.78
2.23	0.48	91.25	25.26	3.54	40.23
0.26	0.53	68.32	15.34	0.32	81.78
10.69	14.02	96.15	88.18	43.94	85.35
0.02	0.29	17.70	0.26	0.24	1.15

九一八

第六十表

番 號	品 名	水 分	含 窒 素 物 (蛋白質トシテ)
1	アコウ	最大 81.515	17.135
2	帶魚	71.765	19.841
3	イナダ	76.750	20.899
4	鱈(ボラ)	72.600	21.968
5	ギンボ	77.185	18.259
6	牛尾魚(コチ)	78.885	19.677
7	アナゴ	81.510	16.730

第六十一表

番 號	名 稱	水 分	含 窒 素 物 (蛋白質トシテ)	脂 肪	
1	兔肉	73.05	22.05	3.61	
2	養兔肉	73.15	21.86	1.76	
3	白兔肉	74.13	19.18	0.49	
4	鯨赤肉	70.18	20.95	7.62	
5	鯨皮肉	14.19	最小 9.09	最大 75.25	
6	鯨畝肉	24.07	12.86	62.36	
7	鯨尾羽毛	45.27	32.00	19.84	
8	肯身皮鯨肉	最小 12.73	10.64	72.83	
9	泥龜	79.19	19.38	0.55	
10	綠蠵龜肉	最大 84.63	14.07	最小 0.45	
11	鳥肉(信天翁)	79.85	17.82	1.27	
12	信天翁肉(南洋鳥島鵝鳥)	78.76	18.33	1.79	
13	鯉魚	71.79	17.42	9.77	
14	養成鯉魚	70.71	18.55	6.63	
15	鹽漬膾内臍肉	40.05	31.11	13.18	
16	乾海鼠	21.55	最小 55.51	1.85	
計十 六種	最 最	大 小	84.63 12.73	55.51 9.09	75.25 0.45

動物性營養品

脂 肪	礦 質 物	乾燥物質百分中	
		含窒素物(蛋白質トシテ)	脂 肪
0.375	最小 0.975	92.697	2.028
7.064	1.330	70.270	25.018
1.101	1.250	89.888	4.735
4.267	1.165	80.174	15.573
3.056	1.500	80.030	13.350
0.336	1.122	93.095	1.591
0.595	1.165	90.471	3.217

肉 類

礦 質 物	乾燥物質百分中		備 考
	含窒素物(蛋白質トシテ)	脂 肪	
1.11	81.82	13.40	無窒素有機物 2.02 Diomedea brachycera Tamm. アホードリ 食鹽 14.31
1.22	81.42	6.58	
1.28	74.14	最小 1.89	
1.25	70.25	25.55	
1.47	最小 10.59	最大 87.69	
最小 0.71	16.94	82.12	
2.89	53.03	36.25	
3.80	12.19	83.45	
0.87	最大 93.12	26.43	
0.85	91.54	29.30	
1.06	83.43	6.30	
1.12	86.29	8.43	
1.03	61.75	34.63	
1.11	63.33	32.83	
16.62	51.95	20.31	
最大 21.09	70.75	2.36	
21.09	93.12	87.69	
0.71	10.59	1.89	

附錄 飲食物並嗜好品分析表

九二一

九二〇

第六十二表

番 號	名 稱	含窒素物	脂 肪
		(蛋白質 トシテ)	
1	棘鬚魚(タイ)	{ 17.65	{ 3.07
		{ 20.28	{ 0.75
2	比目魚(ヒラメ)	19.16	0.47
3	鰈(カレイ)	21.93	0.74
4	竹麥魚(ホウボウ)	18.12	3.30
5	香魚(アユ)	17.66	1.89
6	馬鮫魚(サハラ)	19.21	1.66
7	鮪(マグロ)	{ 15.79	{ 10.64
		{ 17.07	{ 4.51
8	松魚(カツナ)	25.06	1.21
9	鰯(ニシン)	68.44	最大 13.86
10	鯖(サバ)	21.10	4.88
11	鰭(コノシロ)	20.43	4.78
12	鰻虎魚(ハゼ)	18.35	0.50
13	鯽(フナ)	17.86	1.45
14	鶏魚(キス)	18.09	0.60
15	前魚(ワラサ)	19.98	0.91
16	鰯(ブリ)	21.96	1.45
17	梅魚(イシモチ)	13.24	2.83
18	鯉(コヒ)	18.94	0.83
19	鱧(スロキ)	18.62	2.59
20	華鱒魚(アンコウ)	最小 13.07	最小 0.12
21	鱈(イワシ)	21.39	6.72
22	鱈(アジ)	21.00	0.75
23	石斑魚(アイナメ)	21.03	0.45

附錄 飲食物並嗜好品分析表

九二三

魚 類

鐵質物	水 分	乾燥物質百分中	
		含窒素物 (蛋白質トシテ)	脂 肪
{ 1.38	{ 77.90	{ 79.26	{ 13.89
{ 1.36	{ 77.61	{ 90.58	{ 3.35
1.12	79.25	92.34	2.27
1.45	75.88	90.92	3.07
1.20	77.38	80.11	14.59
1.55	78.90	83.70	8.96
1.35	77.78	86.46	7.47
{ 1.82	{ 71.75	55.89	最小 { 37.66
{ 1.42	{ 77.00	74.22	{ 19.61
1.00	72.73	91.90	4.43
6.85	最小 10.85	76.77	15.55
1.52	72.50	76.73	17.75
1.45	73.34	76.63	17.93
2.02	79.13	87.93	2.40
1.23	79.46	86.95	7.06
1.32	79.99	90.41	3.00
1.21	77.90	90.41	4.12
1.16	75.43	89.41	5.90
0.86	83.07	78.20	16.71
1.37	78.86	89.59	3.93
1.09	77.70	83.45	11.61
0.95	最大 85.86	92.43	8.49
1.64	70.25	71.90	22.59
1.53	76.72	90.21	3.22
1.57	76.95	91.24	1.95

九二三

第六十三表

番 號	名 稱	含窒素物	
		(蛋白質ト シテ)	脂 肪
1	蛤(ハマグリ)	13.19	0.81
2	蜆(アサリ)	13.20	0.77
3	石決明(アハビ)	最大 24.58	最小 0.44
4	蜆(シロミ)	18.40	0.84
5	牡蠣(カキ)	最小 8.45	最大 0.89
6	魁蛤(アカガイ)	15.79	0.45
7	馬鹿貝	11.08	0.56
計七 種	最 大	24.58	0.89
	最 小	8.45	0.44

附録
飲食物並嗜好品分析表

九二五

貝 類

礦 質 物	水 分	乾燥物質百分中	
		含窒素物 (蛋白質ト シテ)	脂 肪
1.88	84.12	83.06	5.10
1.96	84.07	82.86	4.83
1.98	最小 73.00	最大 91.04	最小 1.63
1.19	79.57	90.06	4.11
最小 0.77	最大 89.89	83.58	最大 8.80
1.72	82.04	87.92	2.51
最大 2.20	86.16	最小 80.06	4.04
2.20	89.89	91.04	8.80
0.77	73.00	80.06	1.63

九二四

○第三十三章 滋養灌腸料

第一肉液 前章ヲ参照スベシ

第二ペプトーン 一五、〇二一〇〇、〇ノ水ヲ加フ

第三ソマトーゼ 前章参照スベシ

第四ロイベ氏肉腓灌腸法 三分ノ牛肉、一分ノ腓ニ攝氏四十度ノ温湯ヲ

加ヘテ灌腸ス

第五クッスマウル氏卵灌腸法 數個ノ卵ニ其半量ノ水ヲ徐々ニ加ヘテ良

ク混合シ十二時間ノ後之レヲ漉シ攝氏三十七度ニ温メテ用ユ卵一個ニ

食鹽一、〇ノ割合ニテ食鹽ヲ加フルヲ更ニ可トス

第六ボアス氏ノ滋養灌腸法 牛乳二五〇、〇卵黃二個食鹽一茶匙赤葡萄

酒一食匙以上混和シテ用ユ、之レヲ灌腸スル前ニ先チ洗滌灌腸ヲ行ヒ

而シテチラトン氏カテーテルヲ深ク直腸内ニ入レテ灌腸ス

○第三十四章 皮下注射藥及其用量主治

皮下注射器ハ其製普通藥液ノ量一瓦ヲ容ルベキ玻璃製唧筒ニシテ其中軸ノ表面ニ標刻セル分割線ハ每線藥液一瓦ノ十分一ヲ示ス者ナリ故ニ注射

用ノ藥液モ亦其液中ニ含有スル藥品ノ現量幾許ナルヤヲ知り易キガ爲メ一二對スル五百、百、五十等凡テ十分比ノ配合ヲ以テス可シ而シテ注射器ノ套管鍼ハ之ヲ用ユルノ際可成速カニ皮下ノ深組織ニ達スルコトヲ要スル者ナルヲ以テ銳利清潔ヲ貴ブベシ彼ノ酸化シテ錆ヲ帶ビタル套管鍼ノ如キハ之ヲ深ク組織中ニ刺入スルコト容易ナラザルノミナラス或ハ徒ラニ組織ヲ傷ケ或ハ患者ヲシテ痛楚ニ苦マシメ或ハ病毒ノ附着セル者ヲ送ル等其害妙ナカラズ

藥液注射ノ際ハ其皮膚ヲ左手ノ拇食二指間ニ摘テ高ク扛舉シ又注射後ニハ其部ヲ接壓シテ藥液法ノ吸入ヲ促進ス可シ

○石炭酸水 (〇、三)一〇、〇(即チ石炭酸〇、三留水一〇、〇)一回ノ量半筒乃至一筒(即チ石炭酸ノ量ハ〇、〇一五乃至〇、〇三)或ハ以上主治

局處消炎神經痛

○アンチピリン水 (五、〇)一〇、〇(但シ熱湯ヲ用ユ)一回量一筒乃至二筒(〇、五〇至一、〇)局處鎮痛、解熱

○鹽酸アポモルヒ子水 (〇、一)一〇、〇一回量大人ニハ半筒乃至一筒(〇、〇〇五乃至〇、〇一)小兒ニハ十分一筒半乃至十分三筒(〇、〇〇

附錄

滋養灌腸料

皮下注射藥及其用量主治

九二七

一五乃至〇、〇〇三吐劑
 ○硫酸アトロピン水 (〇、〇一) 一回量十分ノ四筒乃至一筒
 (〇、〇〇四乃至〇、〇〇一)ピロカルピン中毒、モルヒネ中毒、
 ○エーテル 一回量半筒乃至一筒興奮
 ○樟腦油 (樟腦一、〇オレーフ油一〇、〇)一回量一筒乃至二筒(〇、一乃至〇、二)興奮
 ○鹽規水 (鹽規〇、五グリセリン、餾水各二、五)一回量一筒或ハ以上
 (〇、一以上)解熱麻拉里亞
 ○鹽酸コカイン水 (〇、二)一回量半筒乃至二筒局處麻醉
 ○磷酸コデイン水 (〇、五)一回量半筒乃至一筒
 ○安息香酸ナトリウムカフェイン水 (二、〇)一回量半筒乃至一筒(〇、一乃至〇、二)偏頭痛
 ○麥角越水 (二、〇)一回量半筒乃至一筒(〇、一乃至〇、二)止血、陣痛、陣痛催進、子宮筋腫
 ○鹽酸ヘロイン水 (〇、〇五)一回量半筒乃至一筒
 ○鹽莫水 (〇、二)一回量半筒乃至一筒半(〇、〇一乃至〇、〇三)

鎮痛、鎮痙

○亞砒酸カリウム液水 (二、〇)一回量半筒乃至一筒(〇、一乃至〇、二)乾癬、舞蹈病、痙痛、神經痛、神經疾患
 ○食鹽水 (食鹽六、〇炭酸ナトリウム二、〇蒸餾水一〇〇〇、〇)一回量五〇〇、〇乃至一〇〇〇、〇三十九度ニ温メテ用ユ、大失血虎列刺
 ○鹽酸ピロカルピン水 (〇、二)一回量一筒乃至二筒(〇、〇二乃至〇、〇四)發汗
 ○硝酸ストロキニーチ水 (〇、〇五)一回量半筒乃至一筒(〇、〇三乃至、〇一)

第三十五章 吸入藥及其用量主治

(但シ蒸氣吸入器ヲ用ユ)

藥品名稱	分量	溶解液	量	主治
石炭酸	〇、五—二、〇	餾水	二〇〇、〇	肺壞疽 腐敗性氣管支炎
乳酸	五、〇—一〇、〇	同	二〇〇、〇	實扶的里性喉頭炎

タンニン酸	一〇〇—四〇〇	同	二〇〇〇	氣管支粘液漏
亞硝酸アミール	二乃至五滴ヲ布片上ニ滴シ用ユ	同	二〇〇〇	痙攣性偏頭痛
粗製明礬	〇、五—四、〇	同	二〇〇〇	慢性氣管支加答兒
石灰水、溜水	各等分	溜水	二〇〇〇	同 喉頭加答兒
クレオソート水	二〇—一〇〇	溜水	二〇〇〇	格魯布性喉頭炎
タール水	二〇—四〇	同	二〇〇〇	肺癆
プローム、臭素カリ	各〇、四	同	二〇〇〇	肺癆 喉頭癆
酸キニー子	〇、五	同	二〇〇〇	實扶的里性喉頭炎
過ロクール鐵液	一〇—五〇	同	二〇〇〇	定型性喘息
グリセリン	二〇〇	同	二〇〇〇	咯血
ヨードカリウム	一、〇—二、〇	同	二〇〇〇	肺癆、喉頭癆
炭酸リチウム	〇、五—四、〇	同	二〇〇〇	喘息
				格魯布性、實扶的里性喉頭炎

○第三十六章 配合禁忌藥

安息香酸ナトリウム	一〇、〇—二〇、〇	同	二〇〇〇	同上
重炭酸ナトリウム	〇、五—四、〇	同	二〇〇〇	喉頭炎、氣管支炎
食鹽	〇、五—四、〇	同	二〇〇〇	喉頭炎、氣管支炎
鹽酸及硝酸硫酸	アルカリ類 酸化金屬類 有機酸鹽類 越幾斯類			過マンガン酸カリウム ヨードカリウム 石灰水 醋酸燐酸及硼酸ナトリウム
亞砒酸	炭酸マグネシウム 酸化マグネシウム 酸化鐵 ヨードカリウム 石灰水			蛋白質膠質澱粉 金燭鹽類 石灰水 炭酸アルカリ
主藥	主藥	配合藥	配合藥	

硝酸銀	硫酸鹽酸及其鹽類 醋酸、酒石酸、青酸 及其鹽類、杏仁水 ヨードプロムム及 其鹽類、植物性 植物鹽基、植物性 粉末	次硝酸蒼鉛	タンニン酸含有物 甘汞、硫黃、硫化ア ンチモニー	鹽酸キニー子	レゾルチン タンニン酸含有物	抱水クロラール	水溶液トナシ置ク 時ハ炭酸アルカリ アシモニアルカリ 有機酸ノアルカリ 鹽類	鹽酸コカイン	タンニン酸含有物 アルカリ鹽類 ヨード化鹽類
カフェイン	ヨード化鹽類 タンニン酸含有物	キナ皮	硫酸マグネシウム ヨード鹽類 炭酸アルカリ アルカリ鹽類	ギギタリス葉	鉛糖、ヨード、ヨ ドカリ、炭酸アル カリ鐵鹽類	ウワウルシ葉	酸類ニ由リテ、ア ルカロイド含有 物 石炭酸類 蛋白質類		

甘汞	酸類及酸性鹽類 炭酸アルカリ及石 灰水 ヨード鹽類 ヨード鹽及其製劑 次硝酸蒼鉛 越幾斯類 白糖、モルヒネ含 有物、其他還元性 有物	醋酸カリウム	鐵酸類 キナ製劑 抱水クロラール其 赤葡萄酒	ヨードカリウム 及ナトリウム	鐵酸類及酸性鹽類 硝酸銀、酸化鐵 植物鹽基 水銀及鉛鹽類	鹽酸モルヒネ	ヨード鹽類 タンニン酸含有物 ノ重金屬酸類		
重炭酸ナトリウム	酸類、酸性鹽類 植物鹽基含有物 タンニン酸及其 含有物、金屬酸類 炭酸アルカリ	阿片	炭酸アルカリ 金屬鹽類 タンニン酸含有物 蕃木鼈及其製劑 ペラドンナ及其製 劑	吐根	タンニン酸及其含 有物 硝酸アルカリ 炭酸アルカリ鹽類	ゼ子ガ根	酸類 アンモニヤ含有物 及其鹽類	蕃木鼈、越幾斯及 丁幾	炭酸アルカリ ヨードカリ タンニン酸及其含 有物、金屬鹽類

ヨード鐵舍利別	ヨードカリ ヨード酸及含有物 酒精含有物 重金屬鹽類	ヨロソボ	ヨードカリ 酸類
アソモニア茴香精	甘汞 植物鹽基含有物 酸類及其溶液	アンチピリン	亞硝酸化合物 撒曹 甘汞 抱水クロラール
		プロームカリウム 及プロームナトリウム	鑛酸 水銀鹽類 銀鹽類

第三十七章 第三改正日本藥局方

○内務省令第二十一號
 明治二十四年五月内務省令第五號日本藥局方左ノ通改正シ明治四十年一月一日ヨリ施行ス
 但前日本藥局方所定ノ藥品ハ本方施行後ト雖モ明治四十年十二月三十一日マテハ本方ト共ニ仍ホ其効ヲ有ス其前日本藥局方ニ據ルモノハ「前日本藥局方」ノ六字ヲ明記スヘシ

明治三十九年七月二日

内務大臣 原 敬

第三改正日本藥局方

中略

(第一表) 藥局ニ於テ常ニ貯藏スルヲ要スル藥品

アセトアニリド	タンニン酸	アンチピリン
アセチールサリチール酸	酒石酸	鹽酸アポモルヒ子
亞砒酸	含水ラノリン	アムモニア水
硼酸	麻醉用エーテル	石炭酸水
石炭酸	蘆薈	蒸餾水
稀鹽酸	礮砂	杏仁水
サリチール酸	澱粉	熔製硝酸銀
稀硫酸	砒石解毒劑	硫酸アトロピン

<p>ペルーパールサム 次硝酸蒼鉛 次サリチール酸蒼鉛 煨製石灰 煨製硫酸カルチウム 精製樟腦 鹽酸キニー子 抱水クロラール クロロフォルム 鹽酸コカイン キナ皮 硫酸銅</p>	<p>英法紳創膏 綿馬越幾斯 ゲンチアナ越幾斯 黃荳越幾斯 麥角越幾斯 還元鐵 ザギタリス葉 センナ葉 フォルマリン グリセリン アラビアゴム 昇汞</p>	<p>甘草 ヨードフォルム 重酒石酸カリウム プロームカリウム クロール酸カリウム ヨードカリウム クレオソート 過クロール鐵液 醋酸カリウム液 亞砒酸カリウム液 次醋酸鉛液 煨製マグネシア</p>
--	---	--

<p>硫酸マグネシウム 鹽酸モルヒネ 重炭酸ナトリウム クロールナトリウム サリチール酸ナトリウム カオ脂 硫酸ナトリウム 肝油 カレーフ油 蓖麻子油 胡麻油 阿片</p>	<p>ドーフル散 吐根 大黃 ヤラツパ脂 乳糖 人工カルス泉鹽 サントニン 麥角 ヨード鐵舍利別 單舍利別 酒精 甘草煮</p>	<p>苦味丁幾 橙皮丁幾 吐根丁幾 ヨード丁幾 阿片丁幾 ストロファンツス丁幾 番木鱉丁幾 縮草丁幾 水銀軟膏 單軟膏 亞鉛華軟膏 フセリン 硫酸亞鉛</p>
---	---	---

(第二表)

本表ノ藥品ハ猛烈ナル作用ヲ有シ所謂毒藥ニ屬ス他ノ藥品ト區別シテ閉鎖セル場所ニ藏メ最モ注意シテ貯フベシ

亞砒酸
 稀青酸
 鹽酸アポモルヒ子
 ヨード砒素
 硫酸アトロピン
 アコニツト越幾斯
 カラバル豆越幾斯
 プロロム水素酸ホマトロ
 ビン
 昇汞

黄色酸化汞
 赤色酸化汞
 サリチール酸汞
 ヨード砒素汞液
 亞砒酸カリウム液
 鹽酸モルヒ子
 硫酸モルヒ子
 ニトログリセリン

巴豆油
 昇汞錠
 鹽酸モルヒ子錠
 磷
 サリチール酸フイヅスチ
 グミン
 硫酸フイヅスチグミン
 鹽酸ピロカルピン
 硝酸ストリキニー子
 ウエラトリン

(第二表)

本表ノ藥品ハ劇藥ニ屬ス他ノ藥品ト別區シテ注意シテ貯フ

アセトアニリド
 石炭酸
 粗製石炭酸
 流動石炭酸
 クロム酸
 鹽酸
 硝酸
 粗製硝酸
 發烟硝酸
 ピクリン酸
 硫酸
 粗製硫酸

トリクロール醋酸
 アガリチン
 亞硝酸アミール
 アンチピリン
 サリチール酸アンチピリ
 ン
 苦扁桃水
 杏仁水
 パクチ水
 硝酸銀
 硝酸銀加硝石
 熔製硝酸銀
 プロロム

息香酸ナトリウムカ
 エイン
 サリチール酸ナトリウム
 カフェイン
 カフェイン
 プロロム樟腦
 カンタリンス
 萘酸セリウム
 抱水クロラール
 クロ、フオアルム
 鹽酸コカイン
 磷酸コダイン
 發泡コロザウム
 銅礬

硫酸銅	ヒヨス葉	黄色ヨード汞
ヂメチールアミドアンチ ピリン	曼陀羅葉	油酸汞
印度大麻越幾斯	フォルマリ ン	白降汞
コロシント越幾斯	コロシント實	ヨードフォルム
ヒヨス越幾斯	昇汞綿	ヨード
阿片越幾斯	ヨードフォルム綿	苛性カリ
商陸越幾斯	グアヤコール	クロール酸カリウム
賞着越幾斯	藤黃	ヨードカリウム
麥角越幾斯	印度大麻草	クレオソート
蕃木鼈越幾斯	ロベリヤ草	グツタベルカ液
ベラドンナ葉	甘汞	ニトログリセリン液
ヂギタリス葉	蒸瀝製甘汞	次醋酸鉛液

メチールズルフオナール	コロシントヒヨス丸	麥角
鉛丹	醋酸鉛	コルヒクム子
鹽酸ヂアセチールモルヒ 子	酸化鉛	カラバル豆
苛性ナトロン	ドーフル散	ストロファンツス子
揮發芥子油	アユニツト根	蕃木鼈
阿片	ゲルゼミウム根	ヂフテリア血清
パラアルデヒード	吐根	破傷風血清
アンチピリン錠	ヤラツパ根	硫酸スパルテイン
鹽酸コカイン錠	賞着根	吐酒石
甘汞錠	ヤラツパ脂	金硫黃
阿片吐根錠	ポドフィルム脂	ズルフオナール
フエナセチン	サントニン	昇汞ガーズ

ヨードフォルムガーゼ
 サリチール酸ナトリウム
 テオプロミン
 アコニツト丁幾
 カンタリス丁幾
 複方クロロフォルムモル
 ヒ子丁幾
 コルヒクム丁幾
 コロシント丁幾
 ナギタリス丁幾
 ゲルゼミウム丁幾

吐根丁幾
 ヨード丁幾
 ロベリア丁幾
 阿片丁幾
 阿片安息香丁幾
 荳蔻丁幾
 ストロファンツス丁幾
 番木鱧丁幾
 ツベルクリン

コルヒクム酒
 吐根酒
 芳香阿片酒
 吐酒石酒
 クロール亜鉛
 スルフォ石炭酸亜鉛
 硫酸亜鉛
 纈草酸亜鉛

(第四表) 大人ニ對スル藥品一回及一日ノ極量
 醫師其處方箋ノ藥名ノ下特ニ注意標(！)ヲ記スルニアラサレハ此量ヲ
 超エテ處方スルヲ許サス

藥品ノ目	一回ノ極量	一日ノ極量	藥品ノ目	一回ノ極量	一日ノ極量
アセトアニリド	0.5	1.5	ヨード砒素	0.005	0.015
亞砒酸	0.005	0.015	硫酸アトロピン	0.001	0.003
石炭酸	0.1	0.3	安息香酸ナトリウムカ フェイン	1.0	6.0
稀靑酸	0.1	0.3	サリチール酸ナトリウ ムカフェイン	1.0	6.0
アガリチン	0.1		カフェイン	0.5	1.5
鹽酸アポモルヒ子	0.01	0.06	プローム樟腦	0.3	1.0
苦扁桃水	2.0	6.0	カンタリス	0.05	0.15
杏仁水	2.0	6.0	蔞酸セリウム	0.3	1.0
バクチ水	2.0	6.0	抱水クロラール	2.0	6.0
硝酸銀	0.03	0.1	鹽酸コカイン	0.05	0.15
熔製硝酸銀	0.03	0.1	燐酸コデイン	0.1	0.3

硫酸銅(催吐薬トシテ 傾服スルノ量)	一・〇			
サメチールアミドアン チピリン	〇・五	一・五		
アコニツト	〇・〇二五	〇・〇五		
印度大麻越幾斯	〇・一	〇・三		
コロシント越幾斯	〇・〇五	〇・一五		
ヒヨス越幾斯	〇・一	〇・三		
阿片越幾斯	〇・一五	〇・五		
カラバル豆越幾斯	〇・〇二	〇・〇六		
商陸越幾斯	〇・五	一・五		
荳蔻越幾斯	〇・〇五	〇・一五		
麥角越幾斯	〇・二	〇・六		
番木鱉越幾斯	〇・〇五	〇・一		
サギタリス葉	〇・二	一・〇		
ヒヨス葉	〇・三	一・〇		
グアヤコール	〇・三	一・〇		
藤黄	〇・三	一・〇		
ロベリア草	〇・一	〇・三		
プローム水素酸ホマト ロピン	〇・〇〇一	〇・〇〇三		
昇汞	〇・〇三	〇・〇六		
赤色ヨード汞	〇・〇三	〇・〇六		
黄色ヨード汞	〇・〇三	〇・〇六		
黄色酸化汞	〇・〇三	〇・〇六		
赤色酸化汞	〇・〇三	〇・〇六		
サリチール酸汞	〇・〇三	〇・〇六		

ヨードフォルム	〇・二	〇・六		
ヨード	〇・〇二	一・〇六		
クレオソート	〇・五	一・五		
ヨード砒素汞液	〇・五	一・五		
亞砒酸カリウム液	〇・五	一・五		
メチールスルフオナー ル	二・〇	四・〇		
鹽酸デアセチールモル ヒ子	〇・〇一	〇・〇三		
鹽酸モルヒ子	〇・〇三	〇・一		
硫酸モルヒ子	〇・〇三	〇・一		
巴豆油	〇・〇五	〇・一五		
阿片	〇・一五	〇・五		
パラアルデヒード	五・〇	一〇・〇		
フェナセチン	一・〇	三・〇		
燐	〇・〇〇一	〇・〇〇三		
サリチール酸フィゾス チグミン	〇・〇〇一	〇・〇〇三		
硫酸フィゾスチグミン	〇・〇〇一	〇・〇〇三		
鹽酸ピロカルピン	〇・〇二	〇・〇六		
コロシントヒヨス丸	〇・五	一・五		
醋酸鉛	〇・一	〇・三		
荳蔻根	〇・一	〇・三		
ヤラツバ脂	一・〇	三・〇		
ホドフィルム脂	〇・一	〇・三		
サントニン	〇・一	〇・三		
麥角	一・〇	五・〇		

番木鱧	0.1	0.2	阿片丁幾	1.5	5.0
吐酒石	0.2	0.6	荳蔻丁幾	1.0	3.0
金硫黃	0.2	0.6	ストロファンツス丁幾	0.5	1.5
硝酸ストリキニーチ	0.05	0.15	番木鱧丁幾	1.0	2.0
スルフォナール	2.0	4.0	ウエラトリン	0.05	0.15
カンタリス丁幾	0.5	1.5	コルヒクム酒	2.0	6.0
コルヒクム丁幾	2.0	6.0	芳香阿片酒	1.5	5.0
コロシント丁幾	1.0	3.0	硫酸亞鉛(催吐薬トシ テ頓服スルノ量)	1.0	
ヂギタリス丁幾	1.5	5.0			
ゲルゼミウム丁幾	0.5	1.5			
ヨード丁幾	0.2	0.6			
ロベリア丁幾	1.0	3.0			

(第五表) 重要ナル原素ノ記號及原子量

原素ノ目	記號	原子量
Aluminium.	Al	27.1
Argentum.	Ag	107.93
Arsenicum.	As	75.0
Baryum.	Ba	137.4
Bismutum.	Bi	208.5
Borum.	B	11.0
Bromum.	Br	79.96
Calcium.	Ca	40.0
Carboneum.	C	12.0
銀		
砒素		
バリウム		
蒼鉛		
硼素		
ブローム		
カルチウム		
炭素		

Cerium.	セリウム	Ce	一四〇・二五
Chlorum.	クロール	Cl	三五・四五
Chromium.	クローム	Cr	五二・一
Cuprum.	銅	Cu	六三・六
Ferrum.	鐵	Fe	五六・〇
Hydrargyrum.	水銀	Hg	二〇〇・三
Hydrogenium.	水	H	一・〇一
Jodum.	ヨード	J	一二六・八五
Kalium.	カリウム	K	三九・一五
Lithium.	リチウム	Li	七・〇三
Magnesium.	マグネシウム	Mg	二四・三六
Manganum.	マンガン	Mn	五五・〇

Natrium.	ナトリウム	Na	二三・〇五
Nitrogenium.	窒素	N	一四・〇四
Oxygenium.	酸素	O	一六・〇
Phosphorus.	燐	P	三一・〇
Plumbum.	鉛	Pb	二〇六・九
Stannum.	錫	Sn	一一八・五
Stibium.	アンチモニウム	Sb	一二〇・〇
Sulfur.	硫黄	S	三二・〇六
Zincum.	亜鉛	Zn	六五・四

法定藥品名及慣用藥品名對照表

(甲表)

Acidum. acetsalicylicum.	Aspirinum.
アセチールサリチール酸	アスピリン
Albuminum tannicum.	Tannalbumin.
タンニン酸アルブミン	タンナルビン
Ammonium sulfoichthyolicum.	Ichthyolum.
スルフォイロチカール酸アムモニウム	イロチカール
Antipyrinum salicylicum.	Salipyrinum.
サリチール酸アンチピリン	サリピリン
Argenium proteinaturn.	Prolargolum.
プロテイン銀	プロタルゴール
Bismutum subgalicum	Dermatolum.
次没食子酸蒼鉛	デルマトール
Bismutum tribromphenylicum.	Xeriformum.

トリプローム石炭酸蒼鉛	キセロブホルム
Chininum aethylcarbonicum.	Echininum.
エチール炭酸キニーネ	カイロニン
Dimethylamidoantipyrinum.	Pyramidonum
ジメチールアミドアンチピリン	ピラミドン
Hexamethylentetraminum.	Urotropinum.
ヘキサメチールンテトラミン	ウロトロピン
Lactylphenetidinum.	Lactopheninum.
ラクチールフェチチン	ラクトフェニン
Methylsulfonalum.	Trionalum.
メチールスルフォナール	トリオナール
Morphinum diacetylicum hydrochloricum.	Heroinum hydrochloricum.
モルフィンジアセチール水素塩	ヘロイン塩酸クロイン
鹽酸ガマキチールモルホネ	
Phenyldihydrochinazolinum tannicum.	Orexinum tannicum.
タンニン酸フェニールギドロヒナツ	タンニン酸オレキミン

ホリン	
Phenylum salicylicum.	Salolium.
サリチール酸フェニール	ザロール
Tanninum acetylicum.	Tannigenum.
アセチールタンニン	タンニゲン
Theobrominum natrio-salicylicum.	Diuretinum.
サルチール酸ナトリウムテオブロミン	ザウレンチン
(乙表)	
Aspirinum.	Acidum acetsalicylicum.
アスピリン	アセチールサリチール酸
Dermatolum.	Bismutum subgalicum.
デルマトール	次没食子酸蒼鉛
Diuretinum.	Theobrominum natrio-salicylicum.
ザウレンチン	サリチール酸ナトリウムテオブロミン
Euchinum.	Chininum aethylcarbonicum.
オイロニン	エチール炭酸キニーキ

Heroinum hydrochloricum.	Morphinum diacetylicum hydrochloricum.
鹽酸ヘロイン	鹽酸ジアセチールモルヒネ
Ichthyolum.	Ammonium sulfocitricum.
イヒチカール	スルフオイヒチカール酸アムモニウム
Lactopheninum.	Lactylphenetidinum.
ラクトフェニン	ラクチールフェネチゲン
Orexinum tannicum.	Phenylidihydrochinazolinum tannicum.
タニニン酸オンギミン	タンニン酸フェニールヂロドロナツカリン
Protargolum.	Argentum. proteinatum.
プロタルゲール	プロテイン銀
Pyramidonum.	Dimethylamidantipyrinum.
ピラミドン	ジメチールアミドアンチピリン
Salipyrinum.	Antipyrinum salicylicum.
サリピリン	サリチール酸アンチピリン
Salolum.	Phenylum salicylicum.
ザロール	サリチール酸フェニール

Tannalbuminum.
タンナルビン
Tannigenum.
タンニゲン
Trionalum.
トリオナル
Urotropinum.
ウロトロピン
Xeroforum.
キセロフォルム

Aluminium tannicum.
タンニン酸アルブミン
Tanninum acetylicum.
アセチールタンニン
Methylsulfonalum.
メチールスルナフォナル
Hexamethylentetraminum.
ヘキサメチーレンテトラミン
Bismutum trironphenticum.
トリプローム石炭酸蒼鉛

○第三十八章 老人小兒藥量 (二乃至十二年ノ兒齡ヲa) 其藥量ヲ×大人量ヲbトスレハ× $\frac{a}{12+b}$ ナリ

年 齡	大人ニ對スル減量	年 齡	大人ニ對スル減量
一年以下	十五分ノ一	七年以上	三分ノ一
一年以上	十分ノ一	十四年以上	二分ノ一

二年以上
三年以上
四年以上

八分ノ一
六分ノ一
四分ノ一

六十五年乃至七十年
七十年乃至八十年

凡三分ノ二
凡二分ノ一

○第三十九章 藥品秤量比較表

磅	号	号	号	号	号
一二号	八号	三号	二〇号	〇、〇六号	
九六号	二四号	六〇号	一、二五号		
二八八号	四八〇号	三、七五号			
五、七六号	三〇号				
三六〇号					

氏	瓦	氏	瓦	氏	瓦
百二十分一	〇、〇〇五	五分一	〇、〇一二	十(半切)	〇、六
百分一	〇、〇〇六	四分一	〇、〇一五	十三	〇、七八
八十分一	〇、〇〇七五	三分一	〇、〇二	十五	〇、九
六十分一	〇、〇〇一	二分一	〇、〇三	十六	一、〇(瓦)
五十分一	〇、〇〇一二	一	〇、〇六	二十(一切)	一、二五
四十分一	〇、〇〇一五	一半	〇、一	(三十半切)	二、〇
三十分一	〇、〇〇二	二	〇、一二	三十二	二、一二
二十分一	〇、〇〇三	三	〇、一八	二十六	二、三六
十五分一	〇、〇〇四	四	〇、二四	四十	二、五
十二分一	〇、〇〇五	五	〇、三	五十氏	三、一二
十分一	〇、〇〇六	六	〇、三六	六十氏(一〇)	三、七五
八分一	〇、〇〇七五	七	〇、四二	八十氏	五、〇
六分一	〇、〇一	八	〇、五	百氏	六、二五

○第四十章 瓦量ト食匙、小兒匙、茶匙等ノ比較表

量	名	瓦	量	量	名	瓦	量
一リテール			一〇〇〇、〇		一小兒匙		七、五
一 蓋			一〇〇、〇—一五〇、〇		一茶匙		二、〇—四、〇
一 食匙			一〇、〇—一五、〇		一刀尖		〇、五—一、〇

○第四十一章 滴量瓦量比較表

- 十六滴ハ一瓦、一滴ハ凡ソ〇、〇六ノモノ
- 蒸餾水○杏仁水○亞砒酸カリウム液(法水)○炭酸カリウム液○苛性カ
- 液○稀鹽酸○磷酸○稀硫酸○醋酸○鉛酸○ペル—バルサム
- 本十滴ハ一瓦、一滴ハ〇、〇五ノモノ
- 阿片丁○桂皮油○丁香油○オレ—フ油○蓖麻子油
- 二十五滴ハ一瓦、一滴ハ〇、〇四ノモノ
- アニス油○ベルガモット油○橙花油○カヤプテ油○茴香油○ラヘンデ

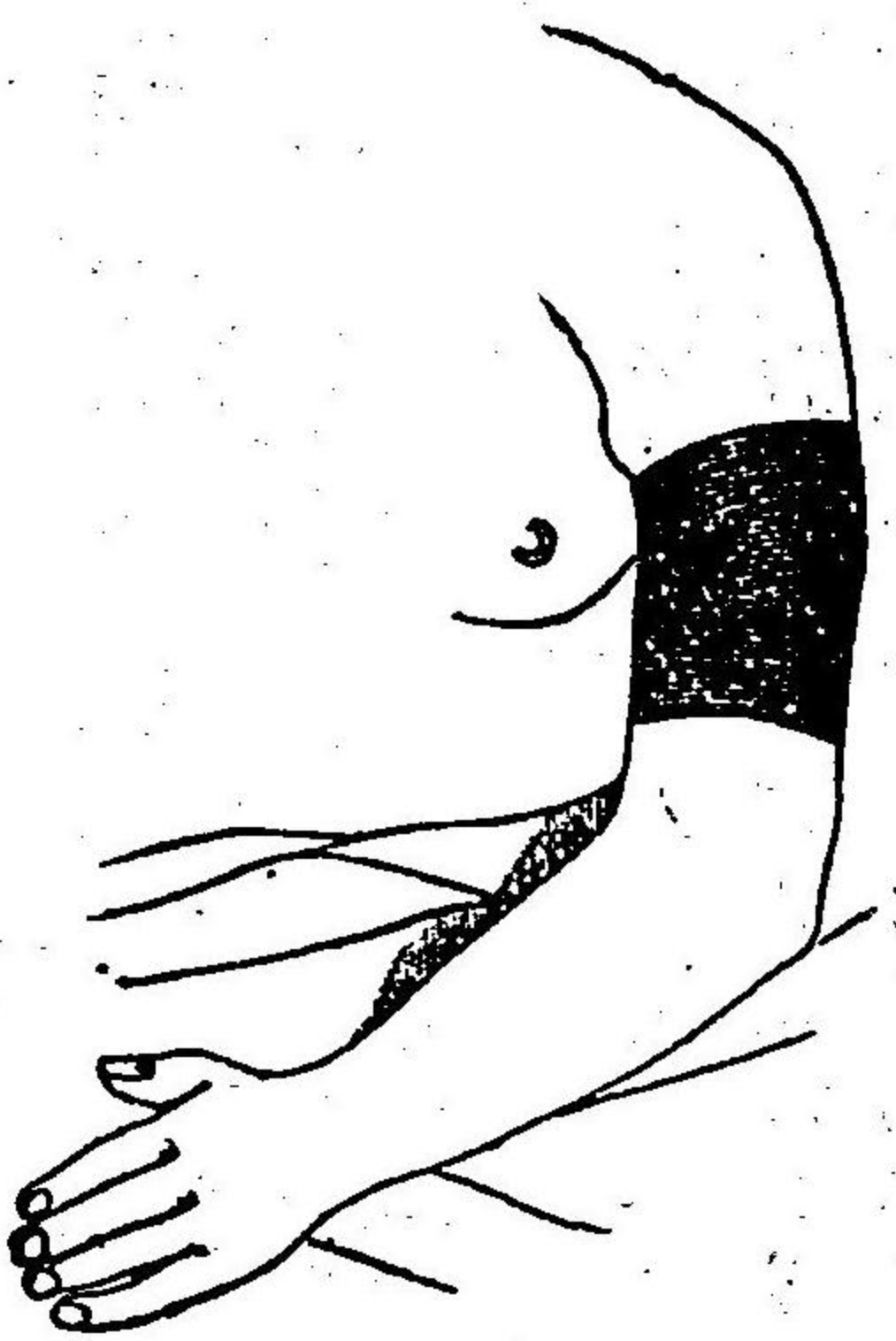
附録 瓦量ト食匙、小兒匙、茶匙等ノ比較表

ル油○薄荷油○コバイハバルサム○枸櫞油○巴豆油○薔薇油○テレピ
ンテ油○石油エーテル精○クロ、フォルム○クレオソート
○五十滴ハ一瓦、一滴ハ○、○二ノモノ
エーテル

○第四十二章 ビール氏充血療法

ビール氏ハ消炎療法トノ諸種ノ炎症ニ對シテ充血療法ヲ用ユベキトテ公
ニセリ而シテ之レヲ試用シタルモノ皆其卓効アルヲ認メ一般ニ之レヲ用ユ
ルニ至レリ充血療法ハ鎮痛、殺菌若クハ弱菌、吸收、榮養、及再生機促
進ノ諸効ヲ兼ヌルモノナリ、充血療法ニ二種アリ、鬱血療法及積血療法
之ナリ鬱血療法ハ彈力帶ヲ炎症部ヨリ遠ク離レタル（中樞ニ近キ）部分
ニ輕ク纏絡シテ鬱血ヲ生ゼシムルモノナリ（第百三圖）而シテ纏絡部ハ時
々變更スルヲ可トス
入院患者ニハ一時間乃至二十時間モ用ユルトアルモ普通一般ノ外來患者
或ハ自宅患者ニハ一時間宛用ユベシ而シテ之ヲ用ユルニハ必ズ常ニ醫師ノ
監督ノ下ニアリテ其結果ヲ觀察スルヲ要スルモノナリ鬱血ノ際疼痛ヲ増
ス時ハ彈力帶ヲ解キ之レヲ更ニ一層輕ク（緊シクナキ様ニ）卷クベシ斯ノ

第百七圖



彈力帶ヲ施シタル圖

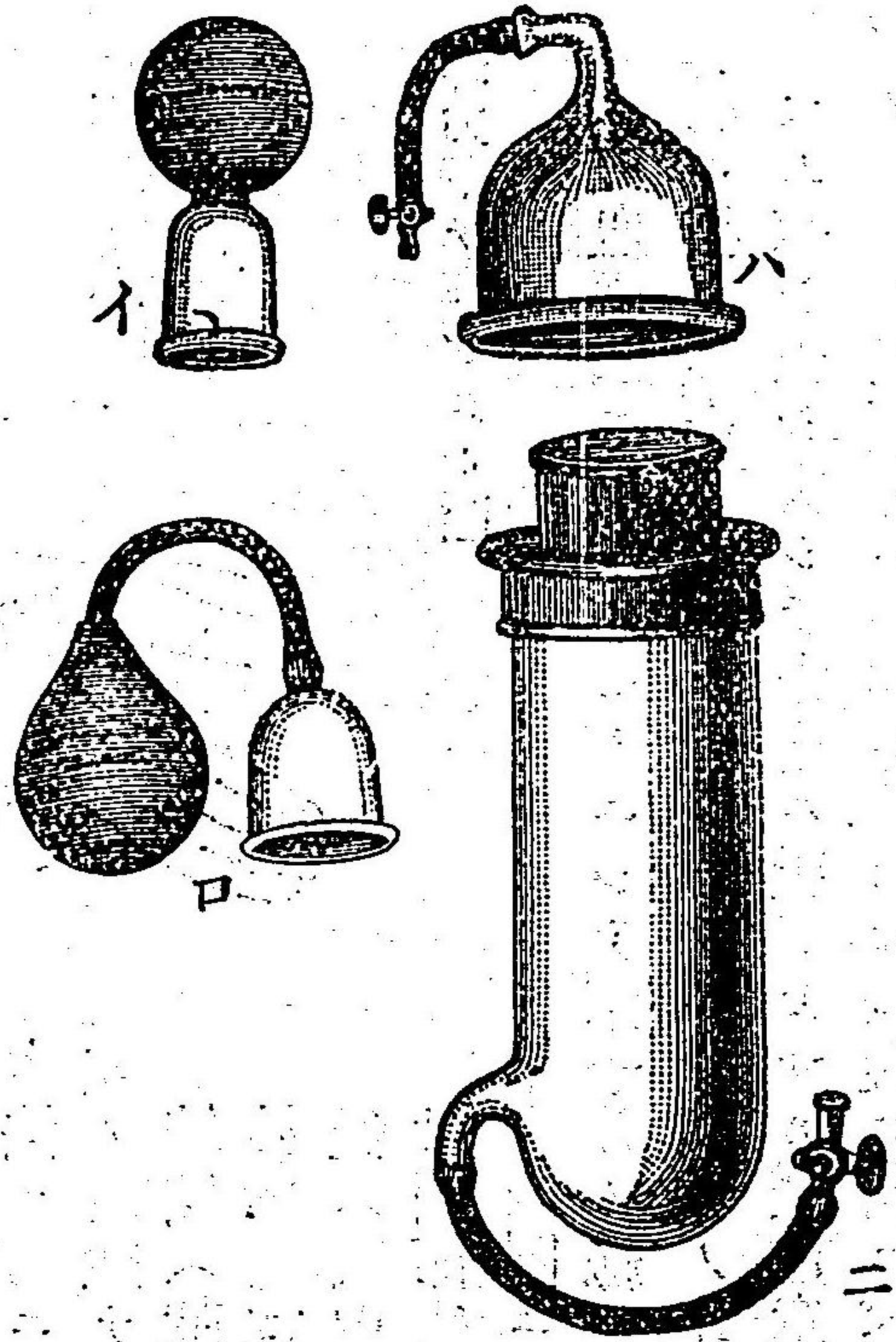
如クスルモ疼痛増加スル片
ニハ該症ハ鬱血療法ノ適應
セザルト示スモノナレハ
斯ノ如キ場合ニハ速カニ本
法ヲ止メ他法ヲ用ユベシ
本法ヲ特ニ用ユベキモノハ
左ノ諸症ナリ

結核（就中骨及關節ノ結
核）、急性及亞急性關節
炎（就中淋毒性關節炎慢
性關節攣縮、神經痛

第百四圖ニ示スビール氏ノ

吸引器モ亦タ充血療法ニ用ユルモノニシテ硝子鐘ノ縁ニ脂肪ヲ薄ク塗り
テ之レヲ皮膚ニ接シ鐘中ノ空氣ヲ唧筒若クハ護謨球ノ作用ニテ稀薄ナラ
シメテ吸着セムベシ但シ決シテ強度ニ吸引セザル様注意スベキトテ忘ル
ベカラズ此ノ法ニハ炎症部ニ小切開行ヒタル後ニ用ユベキトアリ或ハ切

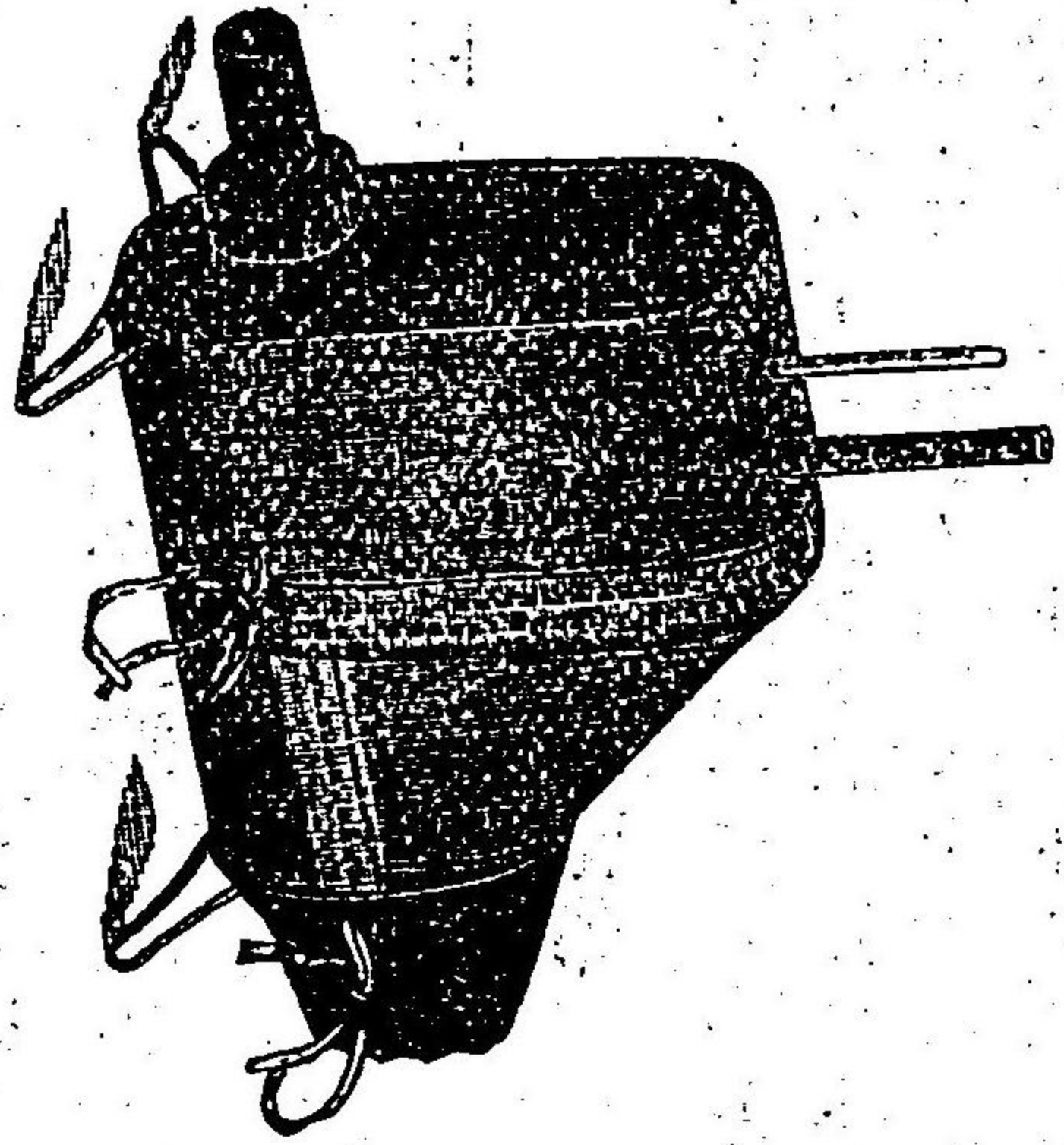
第百八圖



各種吸引装置ノ圖

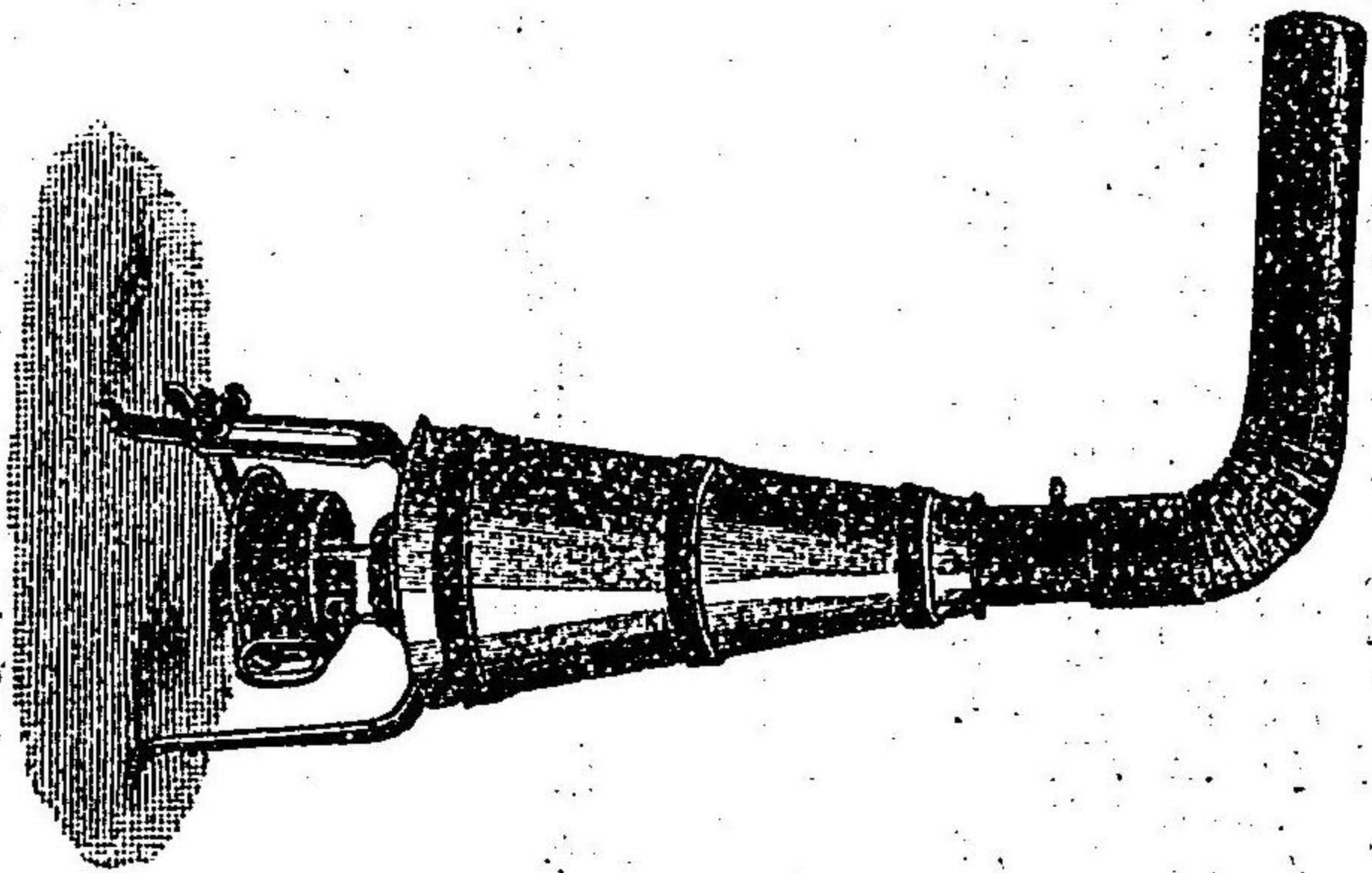
開テ施サズシテ單ニ之レヲノミ用ユベキ場合アリ
 此ノ療法ノ殊ニ有効ナルハ左ノ諸症ナリ
 癰癤、瘰癧、膿瘍、乳房炎、瘦孔ヲ有スル淋巴腺炎、瘦孔ヲ有スル骨ノ疾病
 積血療法トノビール氏ハ熱氣裝置ヲ最モ有効ナルモノトス第百五圖ハ其

第百十四圖



患部ヲ入ルニ裝置

第百九圖



暖爐ヲ作ル熱氣

熱氣ヲ生スル暖爐ヲ示シタルモノニシテ此ノ熱氣ヲ第百十圖ノ如キ諸種ノ装置内ニ導キ該装置内ニ一定時間患部ヲ入レシムルモノナリ本法ハ關節諸症ロイマチスニ用井テ大ニ効アリ

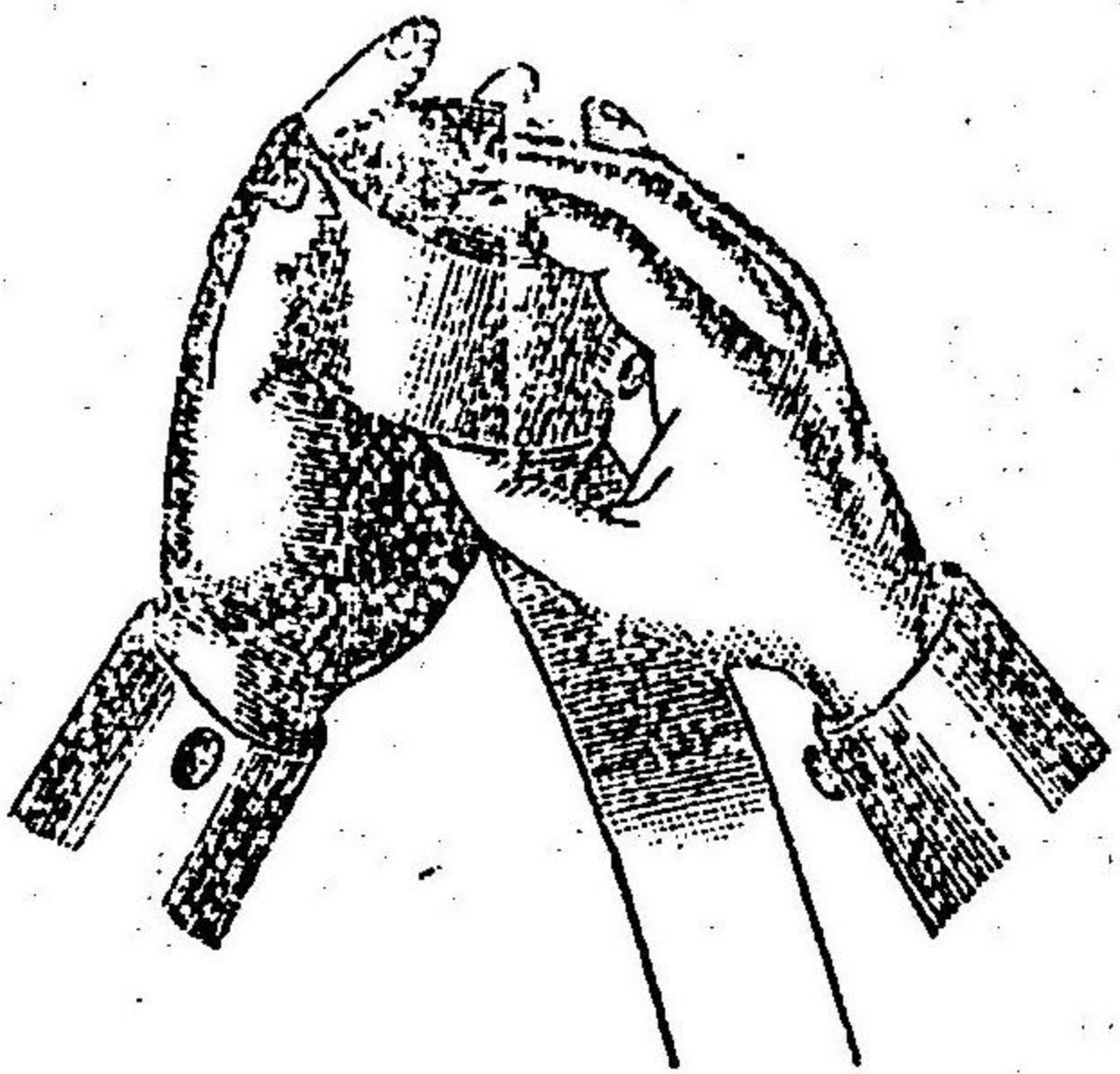
○第四十三章 繃帶ノ用法

繃帶ニ二種アリ曰ク卷軸帶又々通常單ニ繃帶ト稱スル者曰ク繃帶巾又々繃帕ト稱ス而シテ繃帶巾ニ四角巾アリ三角巾アリ

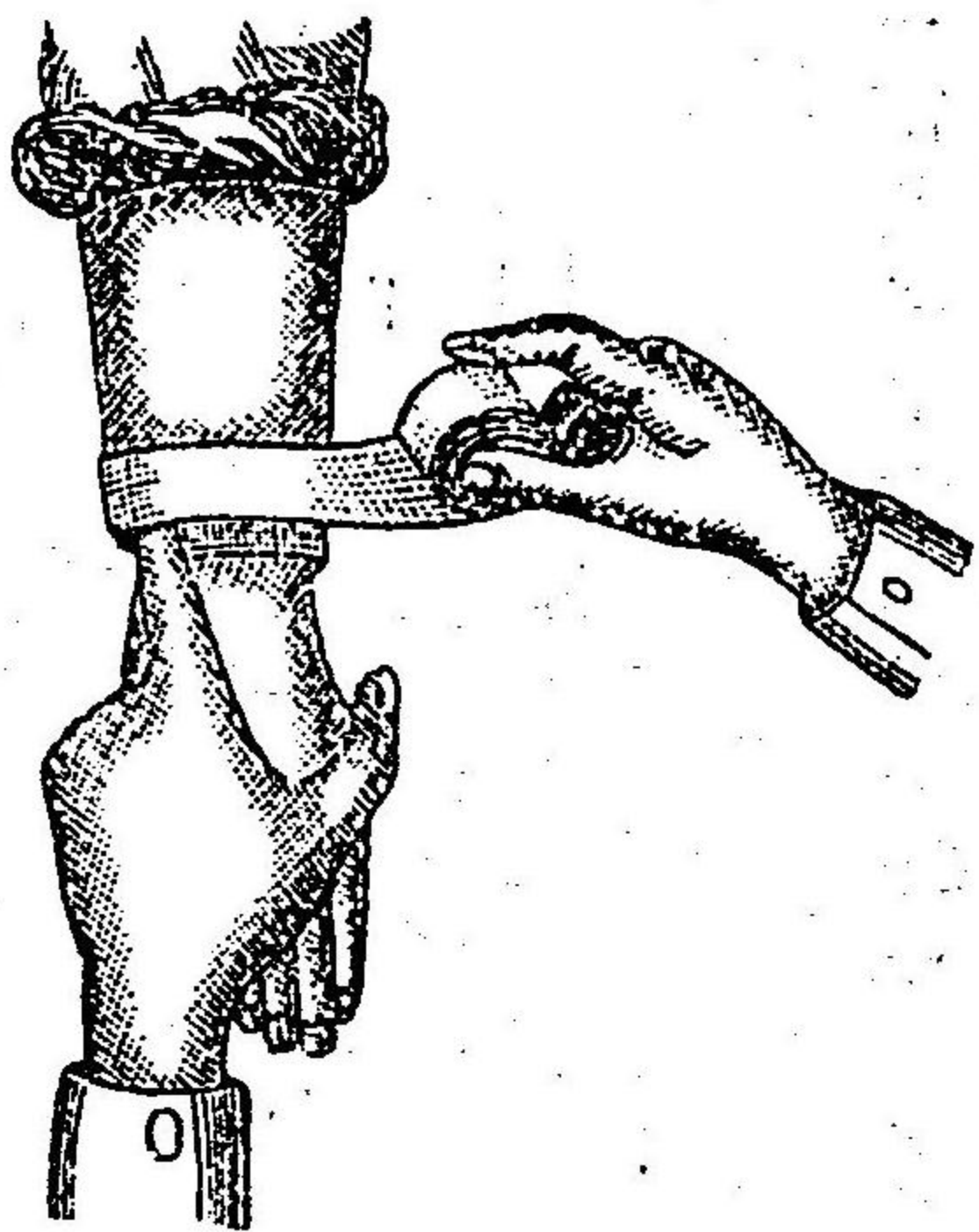
○(甲) 卷軸帶

卷軸帶ヲ作ルノ法 通常一反ノ晒木綿ヲ縦ニ四裂或ハ五裂或ハ六裂或ハ八裂或ハ十裂シ而シテ其一條ヲ取り一端ヲ數回折リ返シ相疊ミ卷キテ圓軸トナシ右手ノ拇指ト中指及示指ノ三指ニテ取持シ圓軸ニ接シタル部分ヲ左手ノ拇指ト示指トノ間ニ挟ミ、右手ノ圓軸ヲ回轉シテ卷クベシ(第百十一圖)又々多數ノ繃帶ヲ製スルニハ捲帶器ヲ用ユベシ
卷軸帶ヲ施スノ法 第百十二圖ノ如ク卷軸帶ヲ右手ノ拇指ト示指中指トノ間ニ取り左手ノ示指ニテ一端ヲ纏絡セントスル部ニ當テ、固定シ先

第百一十圖



第百二十圖

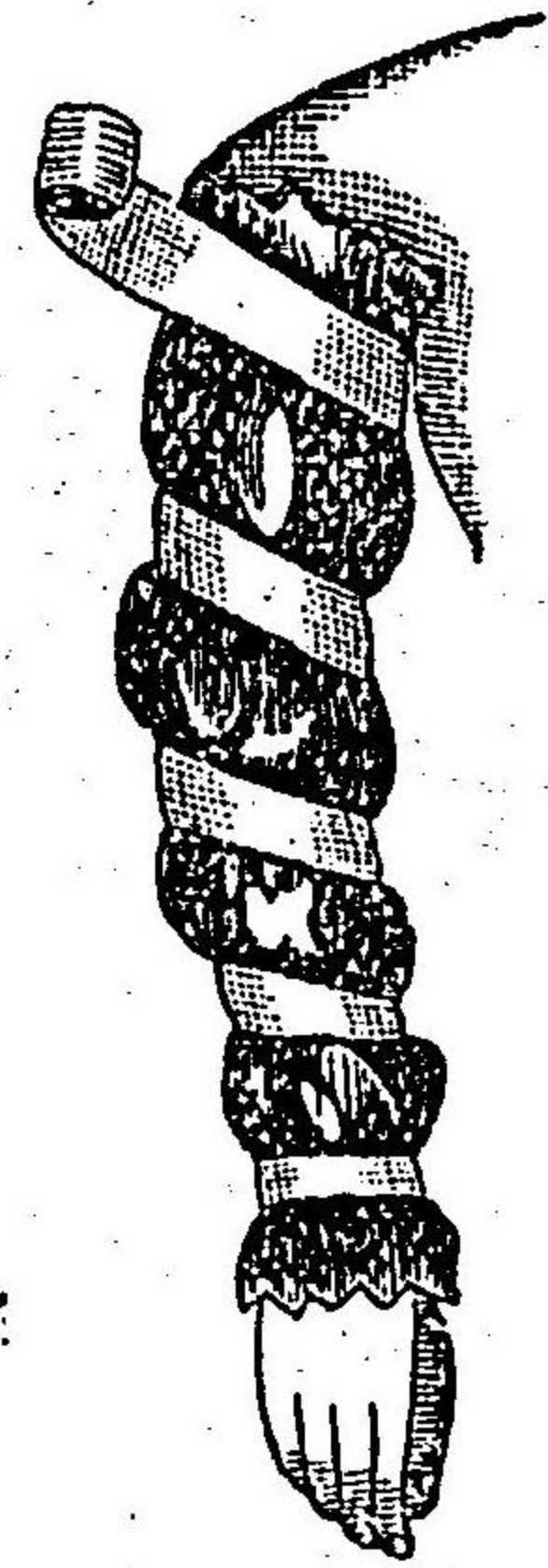


ツ環行ヲナシ而シテ後或ハ斜行シ或ハ蛇行シ或ハ折轉シ或ハ麥穗帶ヲ作り或ハ龜甲帶ヲ作ル等各其部位ノ宜キニ應ジ終ニハ再ビ環行ヲナシテ纏絡シ了リ安全鍼ニテ其末端ヲ固定シ或ハ末端ヲ縦裂シテ結ブベシ
(一)環行帶 卷軸ヲ施スノ始メト終リトニ用ユルモノニシテ環狀ニ纏絡ス(第百十一圖)

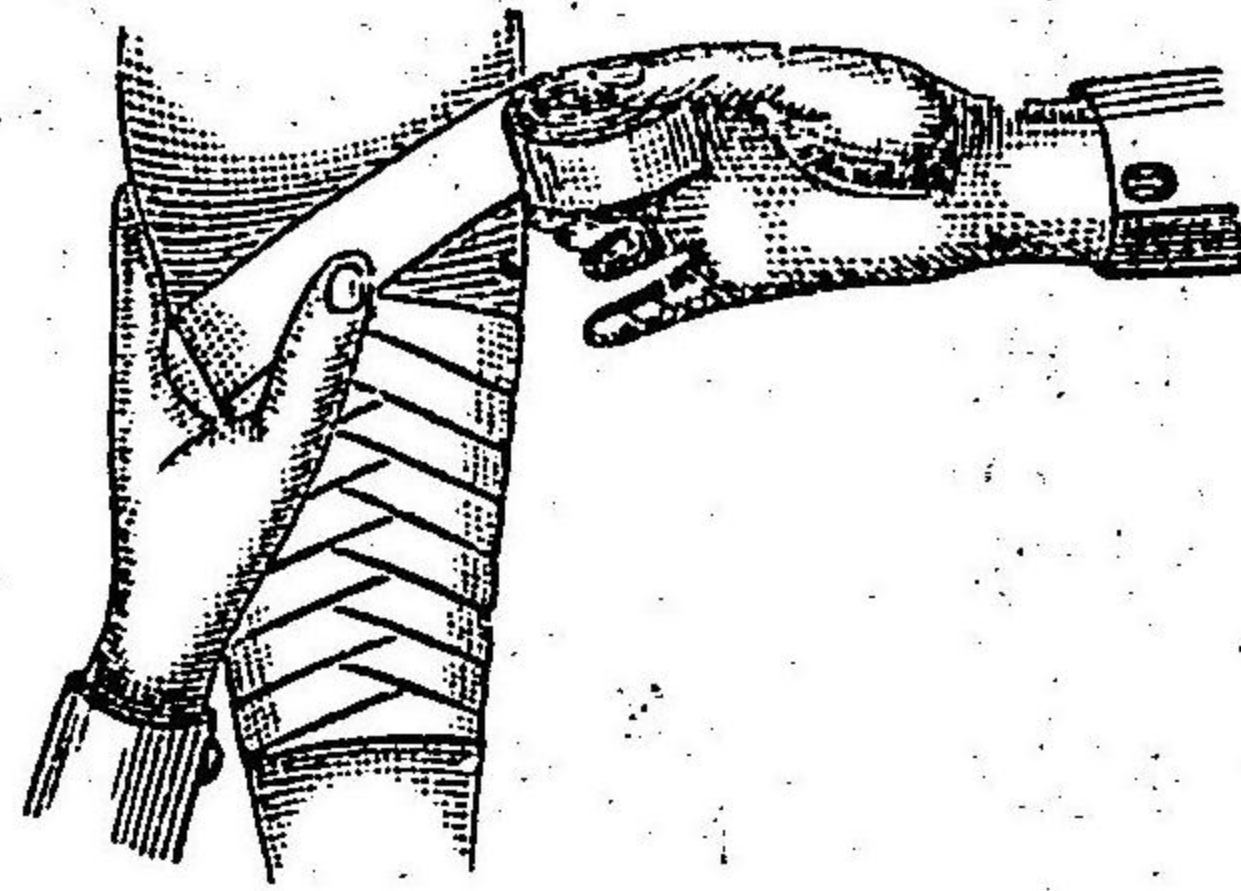
(二)螺旋帶 前回ニ纏絡セル帶部ノ一ヲ被ヒツ、進行スルコト螺旋ノ

如シ
 (三)蛇行帶 前回ニ纏絡セル帶部ヲ被フコトナクシテ進行スルコト第
 百十三圖ノ如シ

圖三十百第



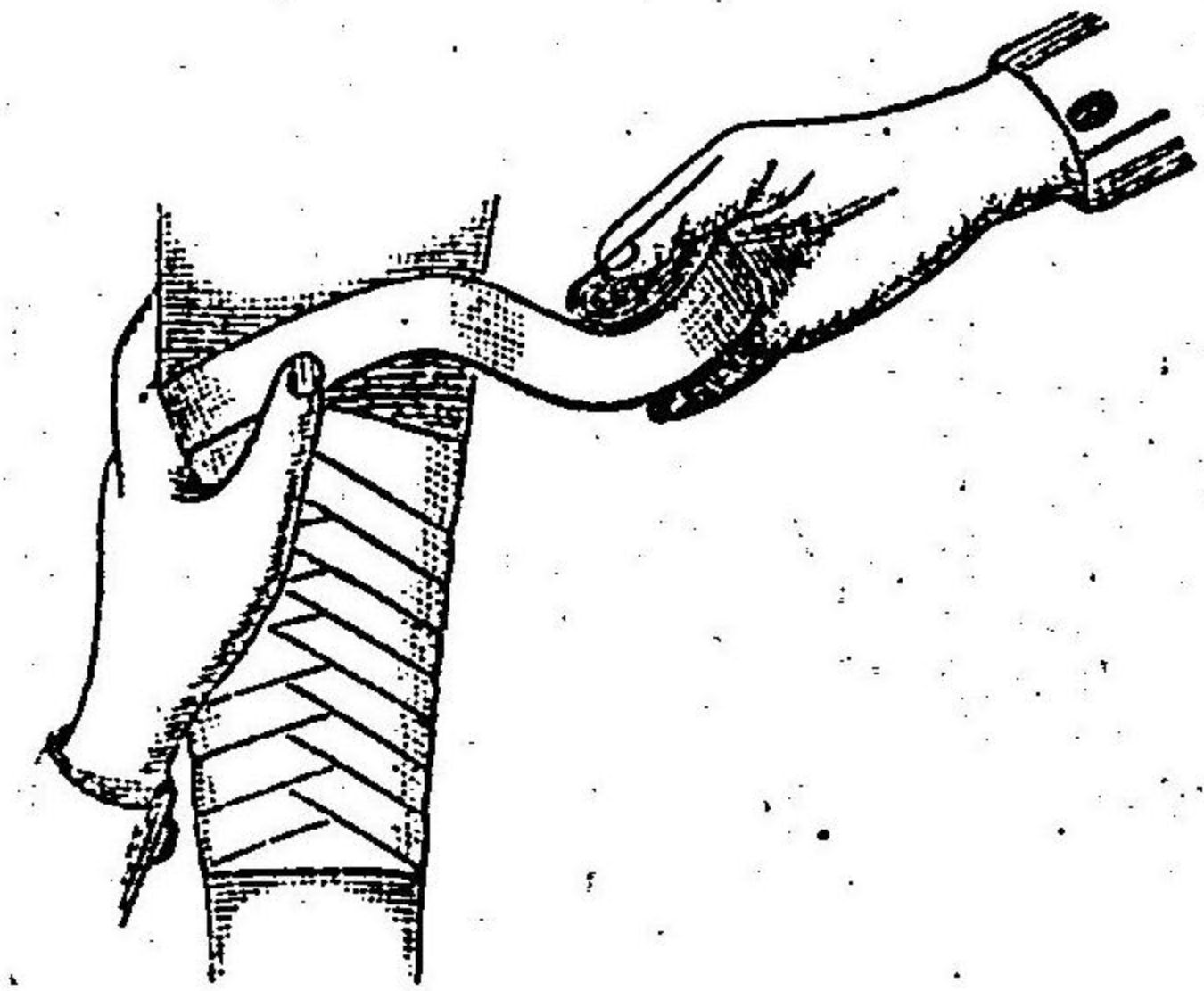
圖四十百第



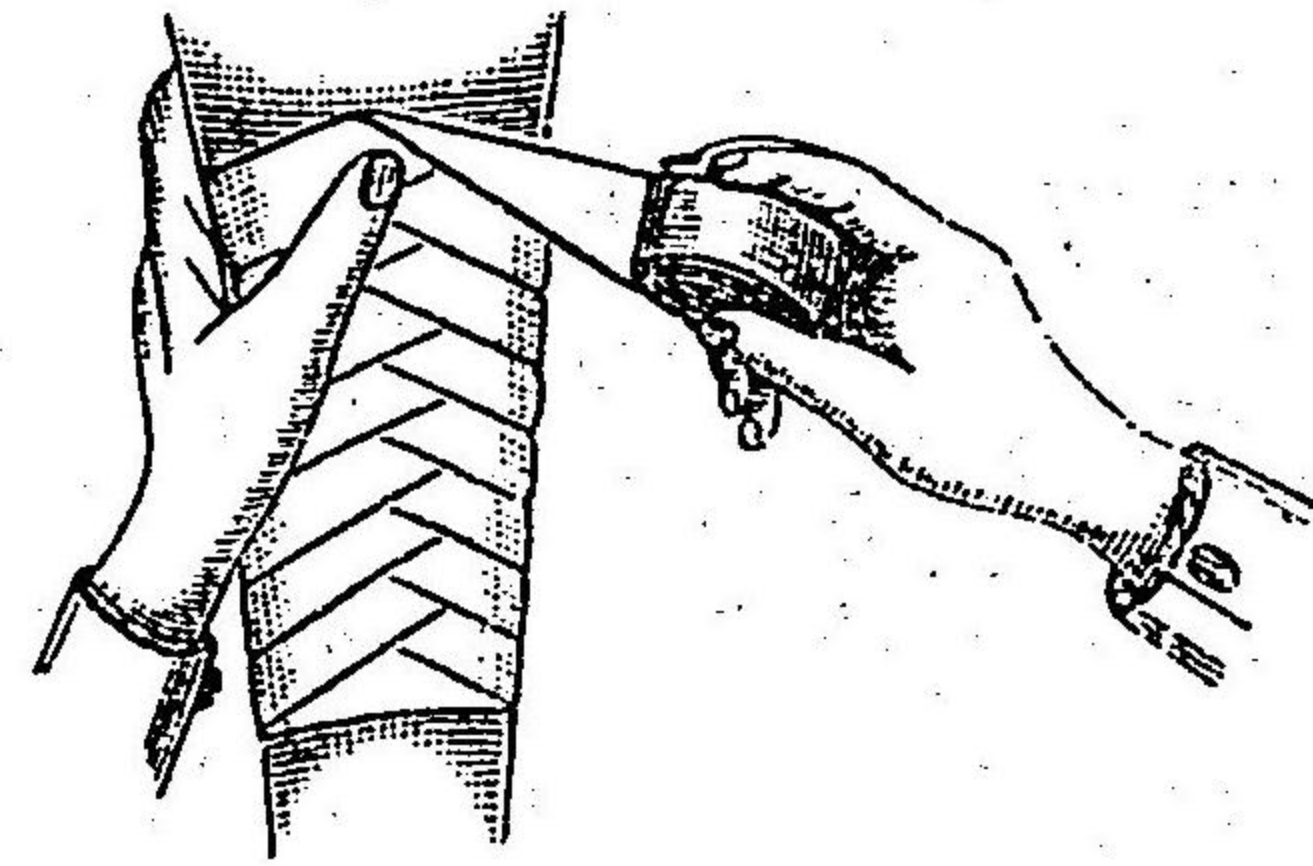
(四)折轉帶 四肢ノ末梢ヨリ上行スルニ當リテ下腿或ハ前膊ニ於テ其
 周圍不同ノ大サナルトキニ用ユ其方ハ第百十四圖ノ如ク(一)先ヅ手

掌ヲ術者ニ向フ様ニ縋帶ヲ持シ斜ニ之レヲ牽引シ左拇指頭ヲ帶行ノ
 中央ニ當テ、固定ス(第百十四圖)(2)牽引ヲ止メ右手ヲ肢ニ近ヅク

圖五十百第



圖六十百第



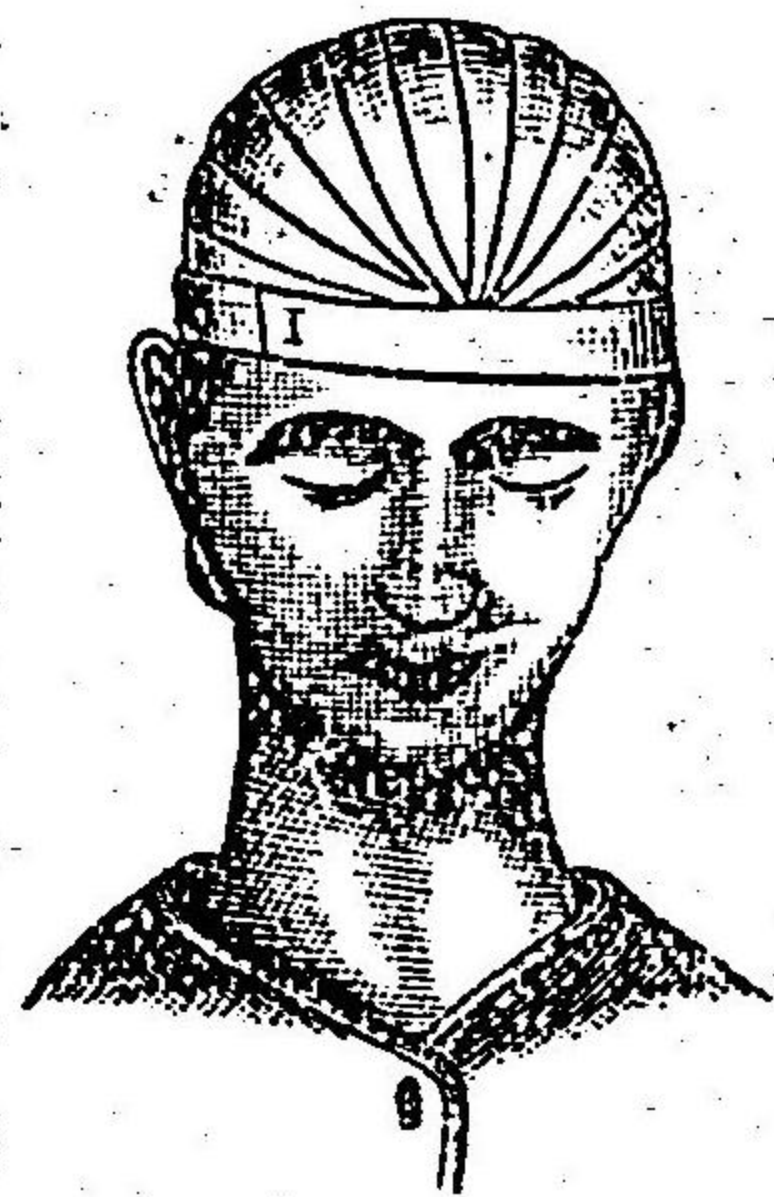
ルコト第百十五圖ノ如クシ(3)終ニ折轉ヲナシテ帶ノ上縁ハ下縁ト
 ナルコト第百十六圖ノ如クスベシ
 (五)麥穗帶 ハ人字帶ト稱シ又(S)字帶ト名ク第百二十圖第百二十一

圖等ノ如シ
(六)龜甲帶ニ集合及離開ノ二種アリ第百三十圖第百三十一圖ノ如シ

○頭部及ビ顔面ノ卷軸帶

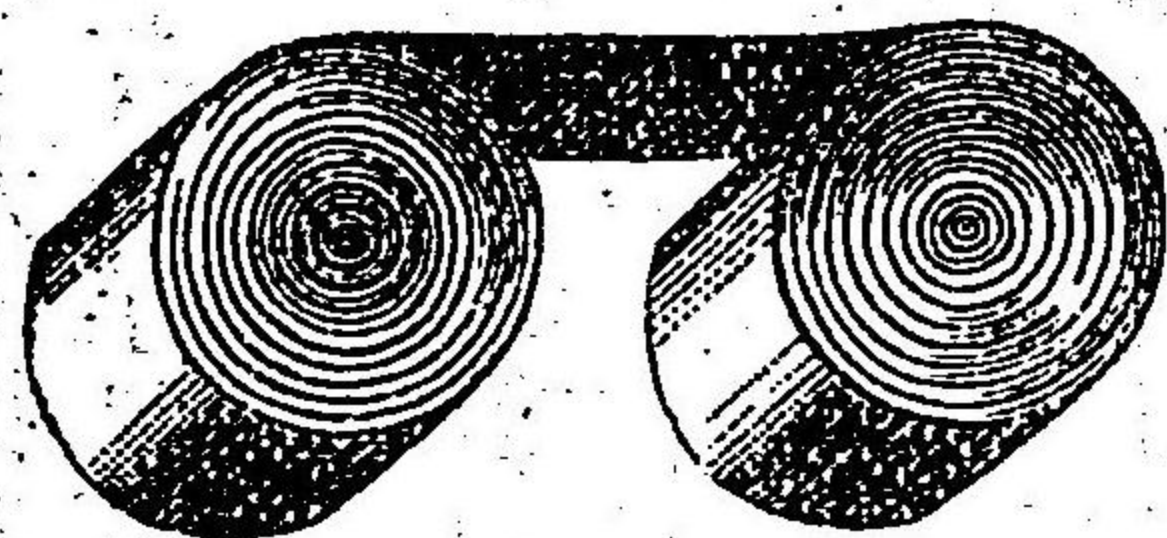
(一)ヒツボクライテス氏帽子帶 (第百十七圖)甲乙ノ術者ヲ要ス先ヅ第百十八圖ノ如キ兩頭帶ヲ作り其正中ヲ前額ニ當テ兩軸帶ヲ後方ニ廻ラ

圖七十百第

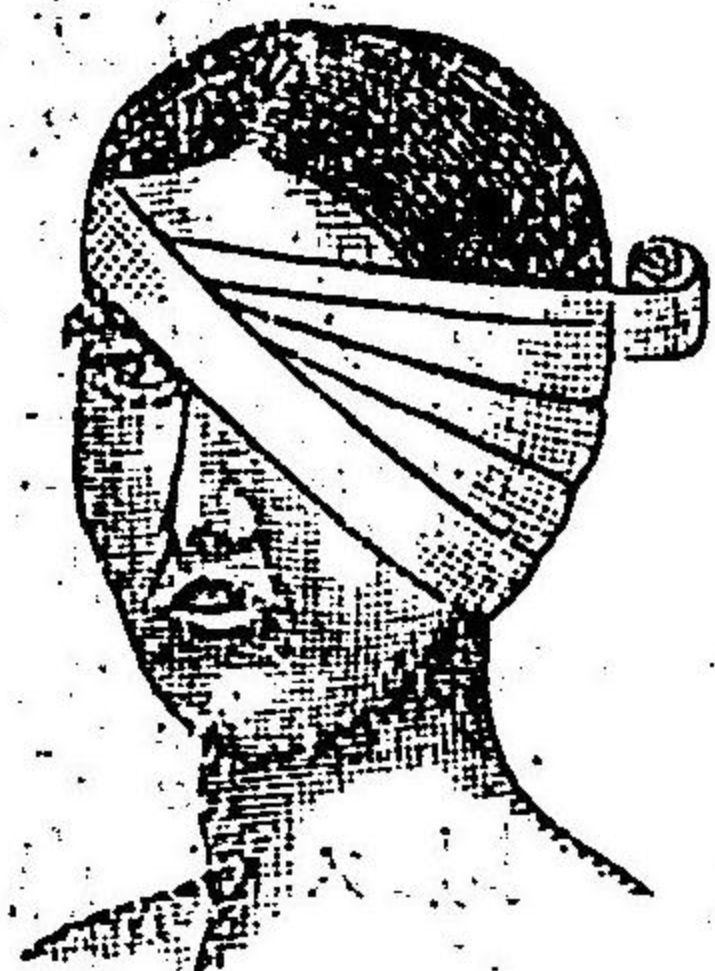


帶ステークボツヒ

圖八十百第



圖九十百第



帶眼偏

シ後頭結節ノ下ニテ相交叉ス次ニ甲施術者ハ頭ヲ一頭ノ正中線ニ沿フテ前記ニ送ルベシ乙術者ハ他ノ一頭ヲ以テ環行ヲナシ甲術者ノ前額ニ送リアル帶ノ上ヲ被フテ之レヲ固定ス○甲施術者ハ正中線ヲ被ヘル帶ノ半面ヲ被ヒツ、帶ヲ後頭ニ送ル而シテ乙ハ此處ニ環行シ來リテ甲ノ帶ヲ固定ス○甲ハ更ニ正中線ヲ被ヘル帶ノ他ノ半面ヲ被ヒツ、帶ヲ前頭ニ送レハ乙ハ又々環行シ來リテ之レヲ固定スルコト前回ノ如シ○是レヨリ甲ハ帶ヲ漸次左右ニ進メ乙ハ常ニ環行ヲ持續シ全頭ヲ被ヒ了リタラバ乙ハ兩端帶ヲ以テ環行ヲナス
(二)偏眼帶 (第百十九圖)ハ頭ノ周圍ニ環行ヲナスコト一回漸次下方ニ

下リテ病眼ヲ覆ヒ頭部ノ環行ヲ以テ了ルベシ又次ノ方法アリ即チ頭部ノ環行ヲナスコト二回次ニ患側ノ耳下ヲ經、斜ニ病眼ヲ被フテ顛頂ニ至リ斜ニ後頭ニ下行シ患側ノ耳下ヲ經、病眼ヲ被フコト前回ノ如ク反覆シテ終ニ頭部ノ環行ヲナス

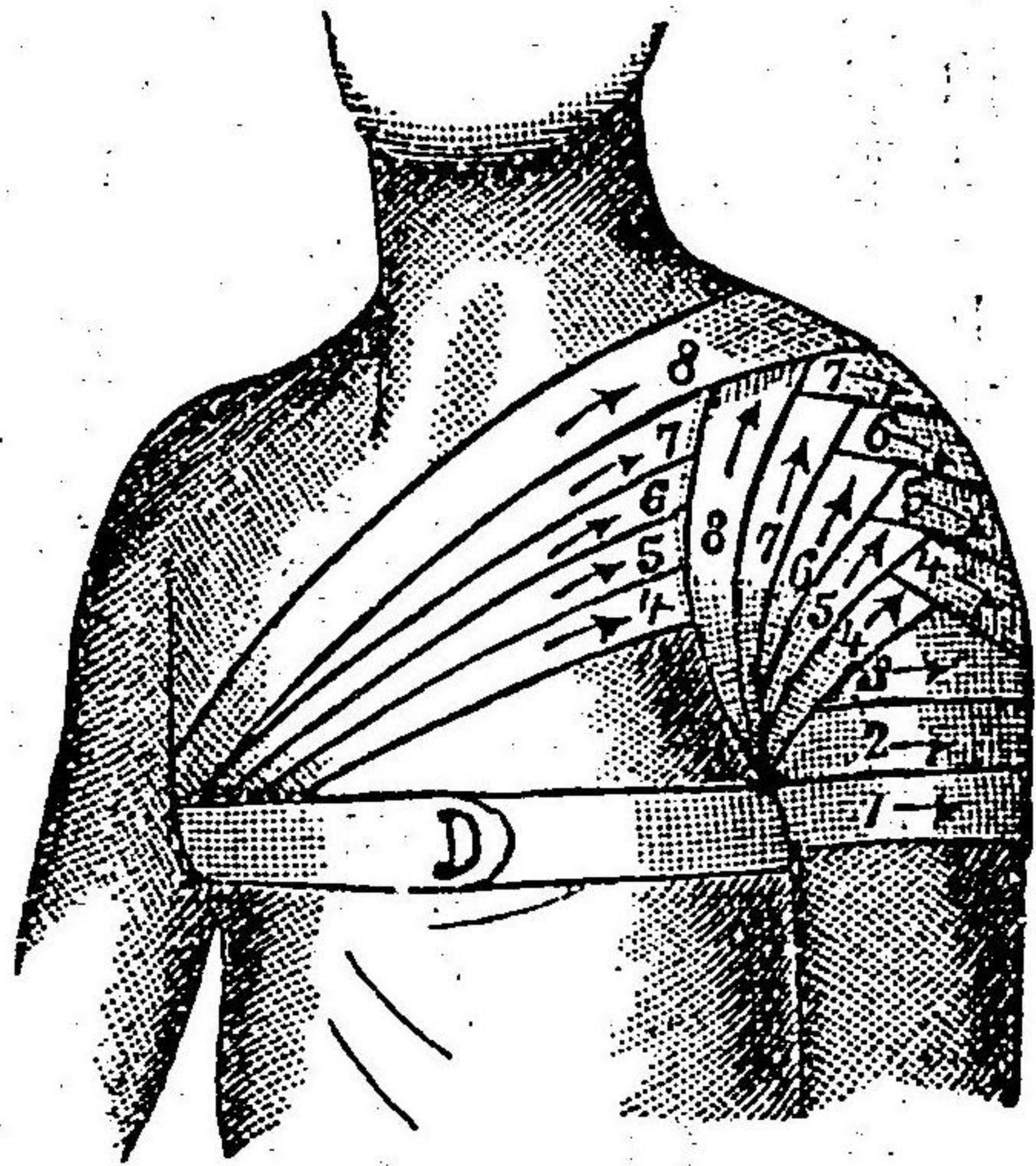
(三) 兩眼帶 ハ先ヅ偏眼帶ヲ以テ偏眼ヲ被ヒ次ニ同法ヲ以テ他眼ヲ被フベシ

○四肢ノ卷軸帶

(四) 上行上膊麥穗帶 (第百二十圖) 上膊ノ環行○次ニ一二ノ螺旋行○次ニ肩ノ下部ヨリ他側ノ腋窩ニ至リ患側ノ肩ノ下ニ返リ同側腋窩ニ入り同側腋窩ヲ出テ再ビ肩ニ上リ更ニ他側ノ腋窩ニ至リ復タ肩ニ返ルコト前回ノ如ク相反反覆シ○胸部環行ニテ完結ス

(五) 下行上膊麥穗帶 (第百二十一圖) 胸部ノ環行○次ニ健側ノ腋窩ヨリ患側ノ肩ノ上部ニ至リ患側ノ腋窩ニ入り之レヲ出テ、肩ノ上部ニ復歸シ健側ノ腋窩ニ至ル之ヲ反覆シテ○上膊ノ環行若クハ胸部ノ環行ヲ以テ完結ス

第百二十圖



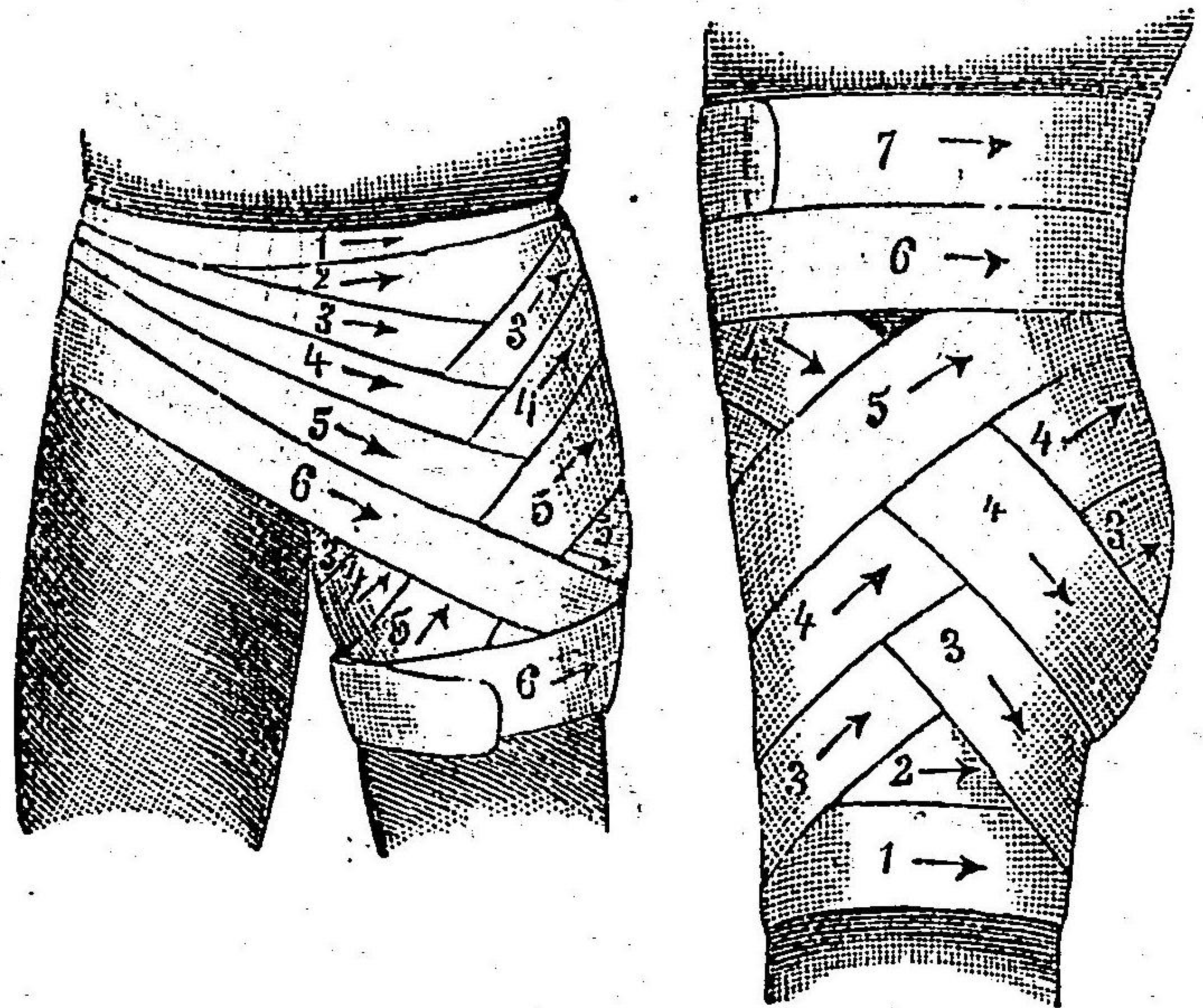
上行上膊麥穗帶

(六) 上行股麥穗帶 (第百二十二圖) 大腿ノ環行○次ニ麥穗帶○腹部環行ニテ完結ス

(七) 下行股麥穗帶 (第百二十三圖) 腹部環行次ニ麥穗帶○次ニ大腿ノ環行ニテ完結ス

(八) 集合龜甲帶 (第百二十四圖) 下腿ノ環行○次ニ膝膕ヲ斜ニ通過シ大

第百二十二圖 第百二十三圖

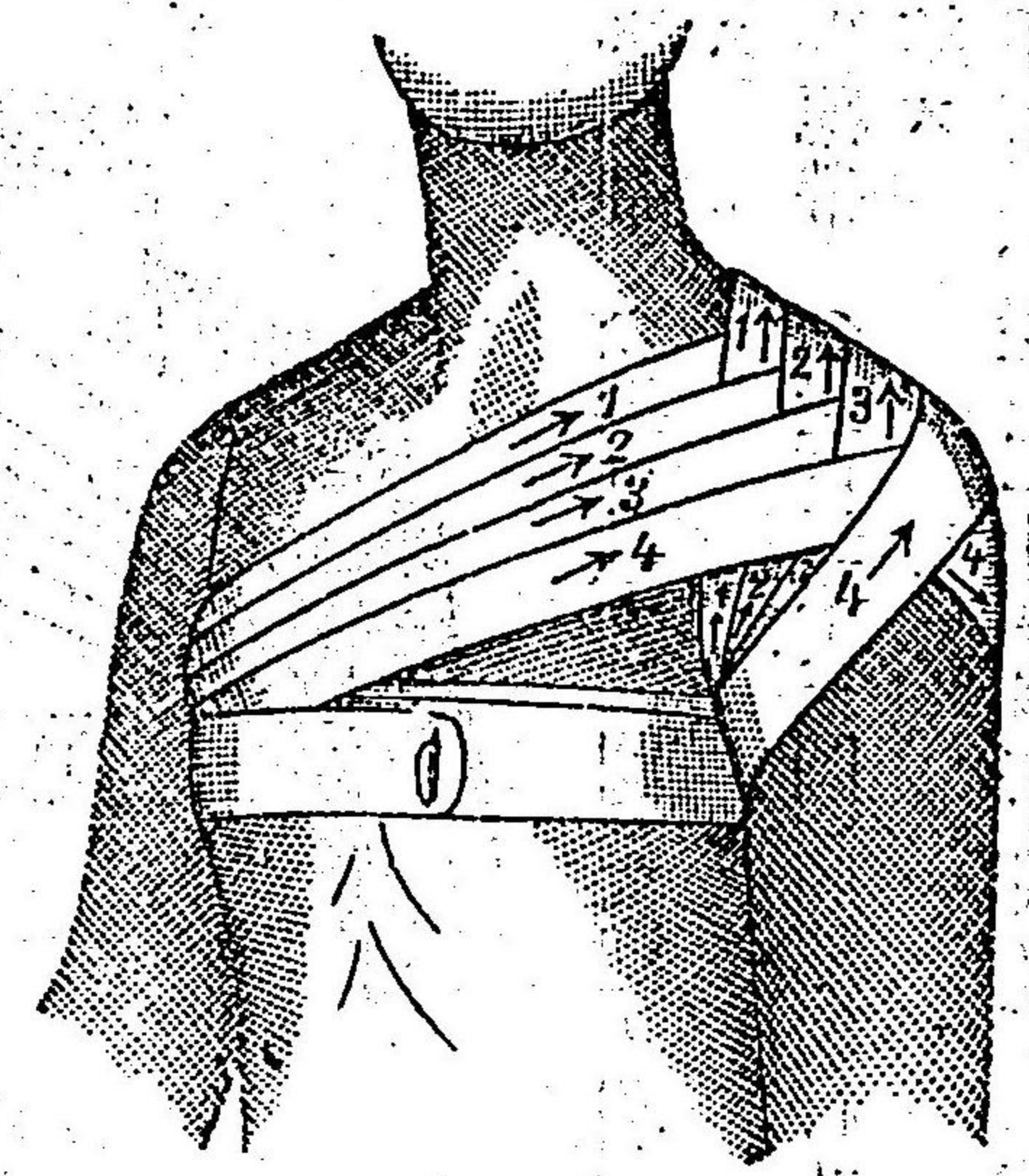


下行股麥穗帶

上行股麥穗帶

附錄 綁帶ノ用法

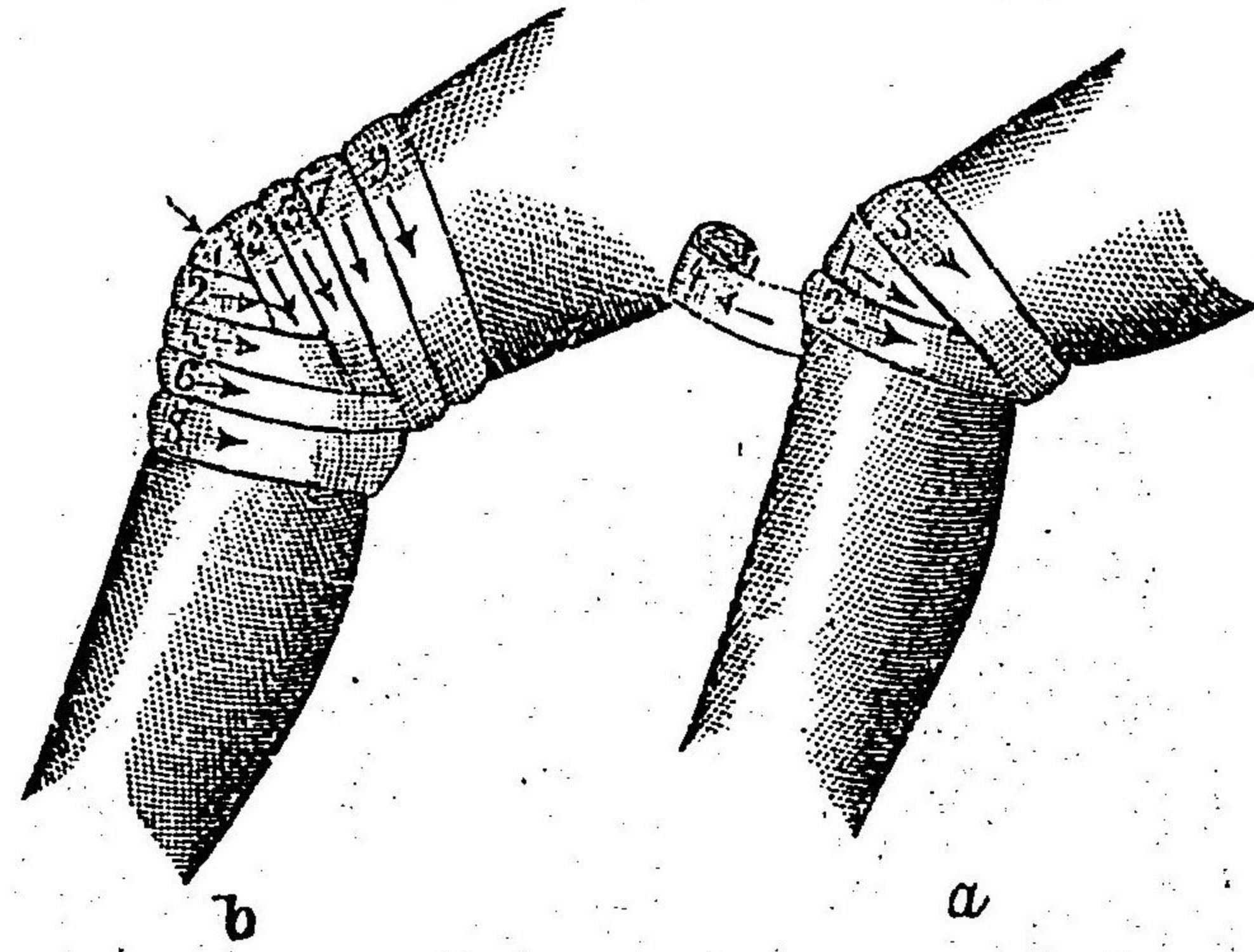
第百二十四圖



下行上膝麥穗帶

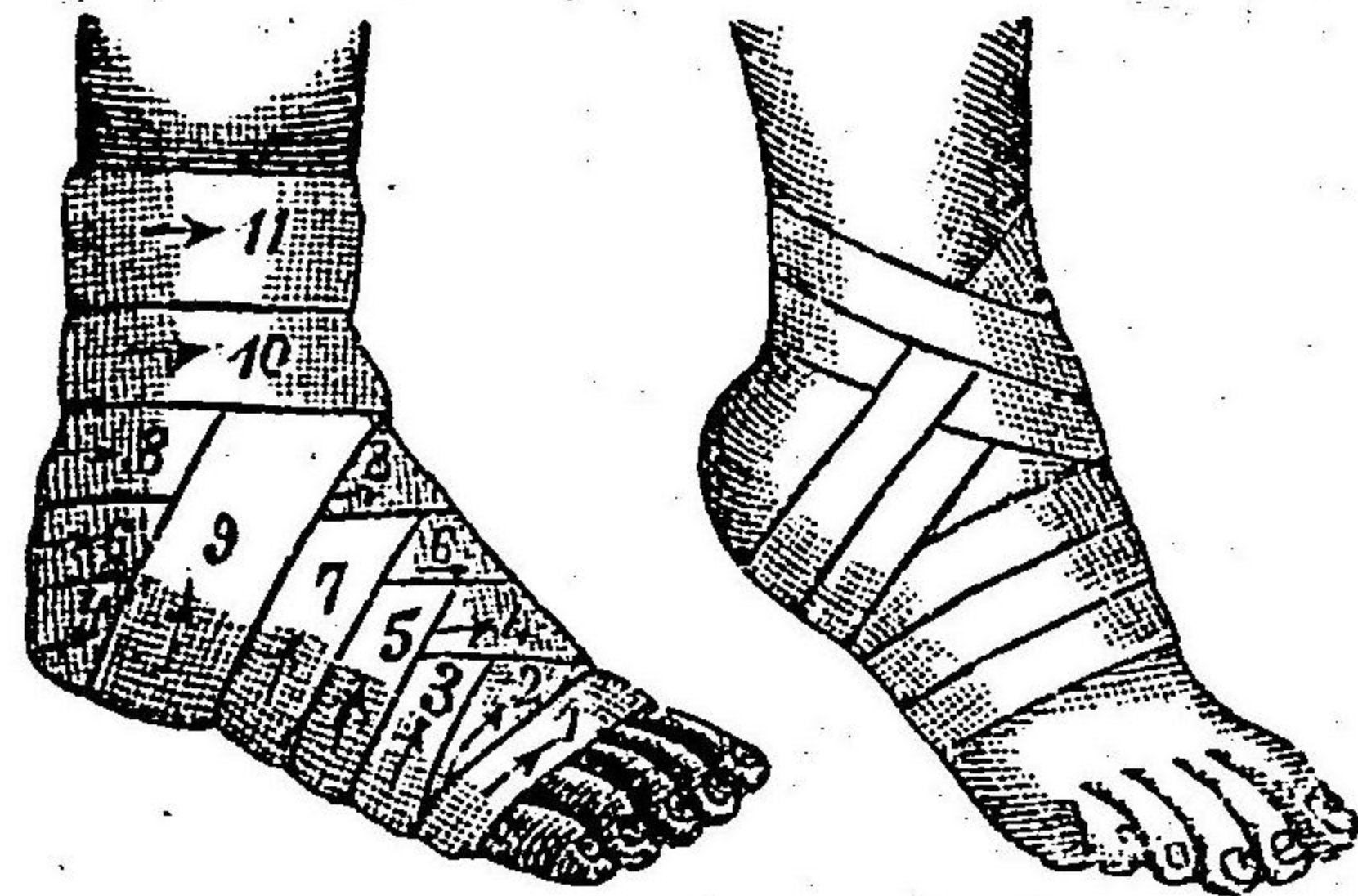
腿ニ至リ○次ニ交互ニ膝ノ上下ヲ被ヒ○膝ノ中央ニ於ケル環行ニテ完結ス
 (九) 離開龜甲帶 (第百二十五) 膝ノ中央ニ環行ヲナス○次ニ交互上下ニ龜甲帶大腿或ハ上腿ニテ完結ス
 (十) 鐙狀帶 (第百二十六) (イ) 趾ノ後方ニ環行○次ニ斜轉或ハ斜行○次

第百廿五圖



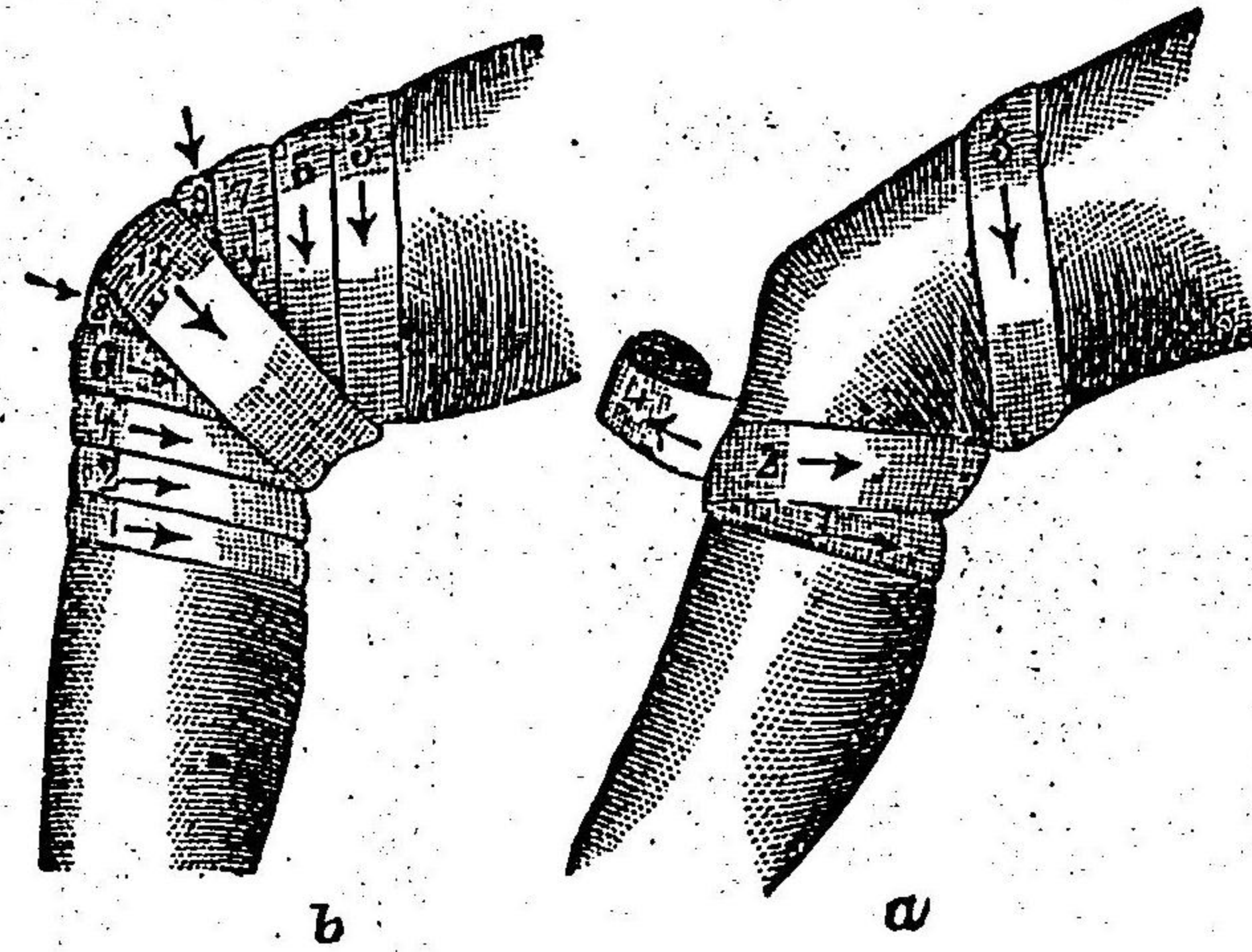
離開龜甲帶

第百廿六圖



鐙狀帶

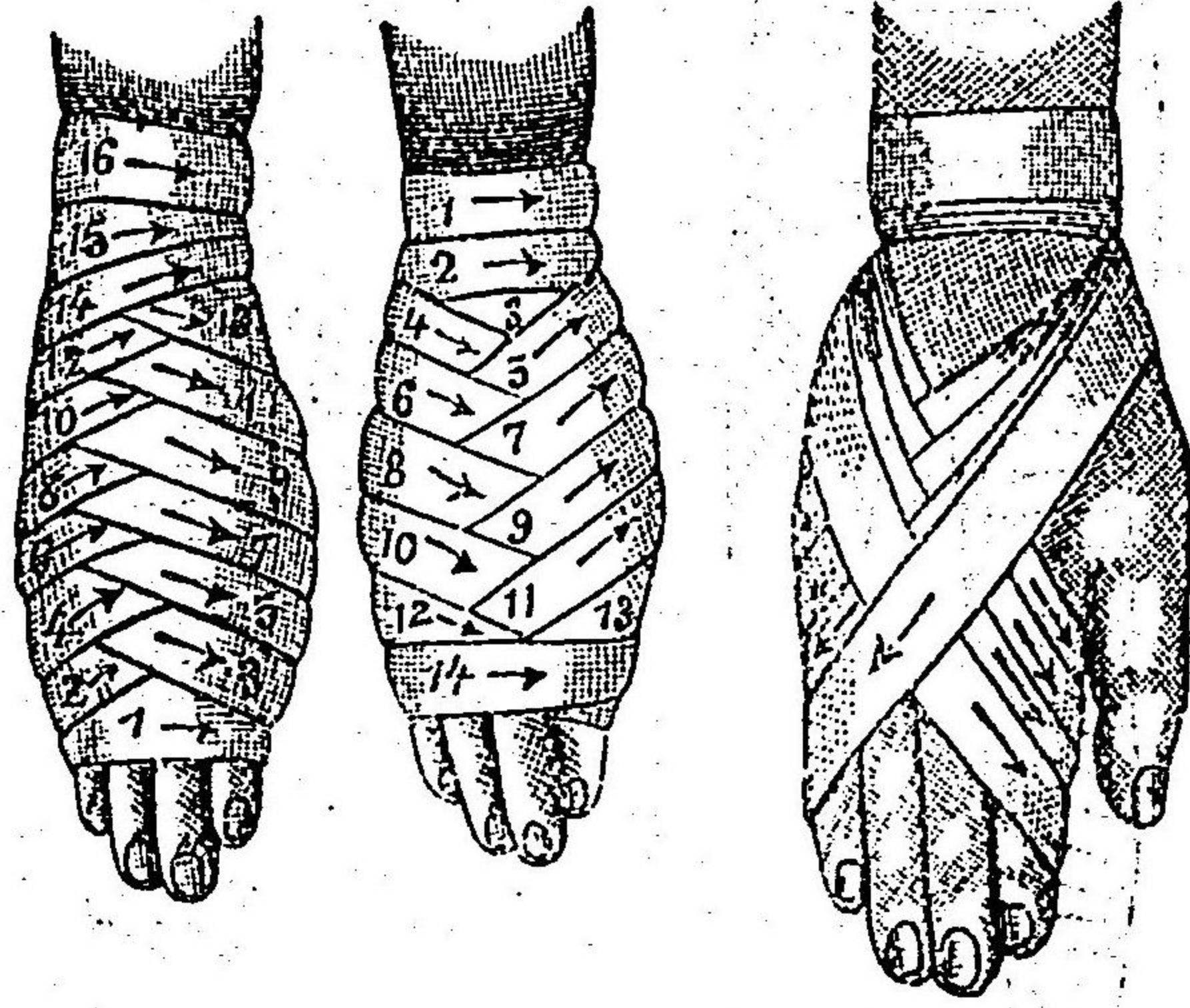
第百二十四圖



集合龜甲帶

圖九廿百第

圖八廿百第



圖七廿百第

